参考資料１

計画体系　新旧比較

第４期	第５期（案）
はじめに	はじめに
第１章　計画策定に当たって １　計画策定の趣旨 ２　計画の位置付け ３　計画の期間 ４　計画の範囲	第１章　計画策定に当たって １　計画策定の趣旨 ２　計画の位置付け ３　計画の期間 ４　計画の範囲
第２章　計画策定の背景 １　地域福祉を取り巻く国の動向 ２　当市における地域福祉の現状 ３　第３期計画における取組の振り返り ４　第４期計画の策定に係るアンケート調査結果の概要 ５　課題の認識	第２章　計画策定の背景 １　地域福祉を取り巻く国の動向 ２　当市における地域福祉の現状 ３　第４期計画における取組の振り返り ４　第５期計画の策定に係る市民アンケート調査結果の概要 ５　第５期計画の策定に係る団体・事業所アンケート調査結果の概要 ６　課題の認識
第３章　基本理念と基本目標 １　基本理念 ２　基本目標 ３　施策体系 ４　圏域の考え方	第３章　基本理念と基本目標 １　基本理念 ２　基本目標 ３　施策体系 ４　圏域の考え方
第４章　施策の展開 基本目標１ ＞ 基本施策 ＞ 主な推進事業 基本目標２ ＞ 基本施策 ＞ 主な推進事業 基本目標３ ＞ 基本施策 ＞ 主な推進事業 基本目標４ ＞ 基本施策 ＞ 主な推進事業	第４章　施策の展開 基本目標１ ＞ 基本施策 ＞ 主な推進事業 基本目標２ ＞ 基本施策 ＞ 主な推進事業 基本目標３ ＞ 基本施策 ＞ 主な推進事業 基本目標４ ＞ 基本施策 ＞ 主な推進事業
第５章　計画の推進 １　協働による計画の推進（役割分担） ２　計画の周知 ３　計画の進行管理	第５章　計画の推進 １　協働による計画の推進（役割分担） ２　計画の周知 ３　計画の進行管理
参考資料 ○アンケート調査結果 ○策定経過 ○八戸市健康福祉審議会社会福祉専門分科会委員名簿 ○八戸市健康と福祉のまちづくり条例 ○八戸市健康福祉審議会規則	参考資料 ○第５期計画の策定に係る市民アンケート調査結果全体の要点 ○第５期計画の策定に係る団体・事業所アンケート調査結果全体の要点 ○策定経過 ○八戸市健康福祉審議会社会福祉専門分科会委員名簿 ○八戸市健康と福祉のまちづくり条例 ○八戸市健康福祉審議会規則

参考資料２

施策体系　新旧比較

第４期計画	第５期計画（案）
基本目標１ **健康で生きがいのある生活を送ることができる地域づくり**	**基本目標１** **健康で生きがいのある生活を送ることができる環境づくり**
（１）　健康づくりの推進	（１）　健康づくりの推進
（２）　高齢者や障がい者等の社会参加の促進	（２）　高齢者や障がい者等の社会参加の促進
（３）　地域医療体制の整備	（３）　地域医療体制の整備
（４）　多様な働き方、生き方が選択できる環境の整備	（４）　多様な生き方や働き方が選択できる環境の構築
基本目標２ **個人が尊重され誰もが公平に福祉サービスを受けられる体制づくり**	**基本目標２** **誰もが尊重され、誰もが公平に支援を受けられる体制づくり**
（１）　自立支援と権利擁護の推進	（１）　自立支援と権利擁護の推進
（２）　相談支援体制の充実と適切な情報発信	（２）　相談支援体制の充実と適切な情報発信
（３）　課題解決に向けたネットワークの構築	（３）　課題解決に向けたネットワークの強化
（４）　再犯防止施策の推進	（４）　再犯防止施策の推進
基本目標３ **地域で支え合い、安心して暮らせる地域づくり**	**基本目標３** **みんなが共に支え合う、安心・安全な地域づくり**
（１）　防災・防犯対策の充実	（１）　防災・防犯対策の充実
（２）　住民主体による支え合いの促進	（２）　住民同士がつながり、支え合う体制の推進
（３）　ボランティア・ＮＰＯ活動の活性化	（３）　ボランティア・ＮＰＯ活動の促進
（４）　暮らしやすい生活環境の整備	（４）　誰もが暮らしやすい生活環境の整備
基本目標４ **思いやりの心と人づくり**	**基本目標４** **思いやりの心と、地域福祉の担い手づくり**
（１）　担い手の育成・支援	（１）　担い手の育成と活動の支援
（２）　福祉教育の推進と福祉意識の醸成	（２）　福祉教育の推進と福祉意識の醸成
（３）　世代間交流の促進	（３）　世代間交流の促進

第５期八戸市地域福祉計画の策定に係る
市民アンケート調査
【令和７（2025）年度実施】

報 告 書

令和８（2026）年３月

八 戸 市

目　次

調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

調査の結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

Ⅰ　あなたと家族について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

Ⅱ　住まいの地域との関わりについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

Ⅲ　人とのつながりについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37

Ⅳ　生活する上での課題について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44

Ⅴ　地域福祉を進めるための取組について・・・・・・・・・・・・・・・・52

自由記述・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・74

まとめ（地域福祉の課題と今後に向けた活動）・・・・・・・・・・・・・・・・87

参考資料　　アンケート調査票・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・89

調査の概要

１．調査の目的

八戸市では、誰もが住み慣れた地域で安心して自立した生活を送ることができる地域社会の実現を目指し、住民・事業者・行政が一体となって地域福祉を推進するため、平成 17 年３月に第１期目となる八戸市地域福祉計画を策定し、これまで４期にわたり、社会情勢の変化や国等の動向を踏まえ計画の見直しを行い、各種施策を推進してきました。

現在、次期計画として、令和９年度から令和 13 年度までの５年間を計画期間とする第５期計画の策定準備を進めています。計画の策定にあたって、市民の皆様の地域との関わりや福祉に関する意識、普段の生活における困りごとなど、地域福祉に係る現在の実態を把握することが重要であることから、本アンケート調査を実施しました。

２．調査方法と回収結果

<table>
<tr><td>調査対象者</td><td>市民　2,000 人（18 歳以上 75 歳以下の市民）</td></tr>
<tr><td>調 査 方 法</td><td>郵送配布・郵送回収（WEB 回答併用）</td></tr>
<tr><td>調 査 期 間</td><td>令和７年７月 25 日～令和７年８月 25 日</td></tr>
<tr><td>有効回収数</td><td>782 件（内 WEB での回答：263 件）
<table>
<tr><th>項目</th><th>回答数</th><th>有効パーセント</th></tr>
<tr><td>紙ベース</td><td>519</td><td>66.4%</td></tr>
<tr><td>WEB</td><td>263</td><td>33.6%</td></tr>
<tr><td>合計</td><td>782</td><td>100.0%</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>有効回収率</td><td>39.1%</td></tr>
</table>

３．報告書の見方

- 図表内に付加されている「n」（number of case）は質問に対する回答者数です。
- 結果数値は、小数第２位を四捨五入しています。そのため、単数回答であっても、合計値が 100%にならない場合があります図表内に付加されている「n」（number of case）は質問に対する回答者数です。
- 複数回答の場合、選択肢毎の回答者数に対する割合を表示しているため、合計値が 100%を超える場合があります。

４．調査結果のポイント

回答者の属性について

- 性別では、「女性」が 53.7%、「男性」が 44.4%、年齢は、「60 ～69 歳」が 22.8%で最も多く、次に「50 ～59 歳」（22.0%）、同居家族の構成については、「親・子の二世代」が 47.3%で最も多く、次に「夫婦のみ」（25.2%）、同居家族の状況については、「いずれもいない」世帯が 26.0%で最も多く、次に「65 歳以上の高齢者」（22.6%）で、高齢単身世帯が多くなっています。
- 本人が何らかの支援（身体的・精神的・経済的）を受けている割合は 6.5%ですが、同居の家族では 10.1%となっています。

住んでいる地域・職業について

- 現在の居住（小学校区）は、「新井田」が 6.5%で最も多く、次に「中居林」（5.8%）、「白銀」（5.1%）でした。なお、回答がない小学校区はありませんでした。
- 居住年数は、「10 年以上 30 年未満」の世帯が 35.8%で最も多く、「30 年以上」（35.4%）の世帯とほぼ同数でした。
- 職業は、「会社員・雇用者」が 59.1%と最も多く、次に「無職」（16.5%）、「家事専業」（6.5%）でした。
- 保健や福祉に関する情報の入手方法は、「広報はちのへ」が 31.5%で最も多く、次に「町内会の回覧板」（13.8%）、「インターネット」（10.7%）でした。

地域との関わりについて

- 「身近な地域」の範囲は、「自宅周辺の近隣」が34.8%で最も多く、次に「町内会（自治会）の範囲」（22.1%）、「小学校区」（13.3%）でした。
- 近所の人間関係は良好であるかについては、「まあそう思う」が51.5%で最も多く、次に「そう思う」（15.7%）でした。
- 住民による交流が活発であるかについては、「あまりそう 思わない」が36.4%、「思わない」（24.8%）で過半数を超え、「まあそう思う」は20.8%でした。
- 身近な助け合いやボランティア活動が活発であるかについては、「あまりそう 思わない」が34.1%、「思わない」（26.5%）で過半数を超え、「分からない」が18.7%でした。
- 手助けや見守りを必要としている人への地域の関心が強いかについては、「あまりそう 思わない」が34.8%で最も多く、次に「分からない」（24.6%）、「思わない」（19.7%）でした。
- 地域課題を住民同士で話し合う機会や場があるかについては、「思わない」が28.6%で最も多く、次に「あまりそう 思わない」（27.7%）、「分からない」（27.0%）でした。
- 地域の多様な団体が一緒に活動しているかについては、「分からない」が29.5%で最も多く、次に「あまりそう 思わない」（25.4%）、「思わない」（22.1%）でした。
- 住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができているかについては、「まあそう思う」が59.1%、「そ

う思う」(18.7%)と７割を超えました。

- 今後も住み続けたい地域であるかについては、「まあそう思う」が49.1%で最も多く、次に「そう思う」(25.7%)、「あまりそう 思わない」(13.3%)でした。

近所付き合い・地域活動について

- 近所のお付き合いは、「あいさつをする程度」が 50.3%で最も多く、次に「たまに世間話、立ち話をする」(28.8%)でした。
- 近所とお付き合いしていない理由は、「仕事や家事、育児等で忙しい」が 17.8%で最も多く、次に「知り合うきっかけがない」(14.2%)、「プライバシーを干渉されたくない」(12.2%)でした。
- この５年間で参加した活動は、「参加したことはない」が 55.2%で最も多く、次に「地域のお祭り、町内会の行事や活動」(32.3%)、「清掃や環境美化のための活動」(20.8%)でした。
- 活動に参加したきっかけは、「職場や学校で参加することになった」が 18.7%で最も多く、次に「知人・友人に誘われた」(17.9%)、「地域や PTA の役員になった」(16.5%)でした。
- 活動に参加してよかったは、「特にない」が 18.6%で最も多く、次に「地域に対する理解が深まった」(17.9%)、「新たな仲間ができた」(16.2%)でした。
- 活動に参加し負担と感じたことは、「時間がとられる」が 32.9%で最も多く、次に「特にない」(18.0%)「体力的・身体的にきつい」(15.4%)でした。
- 活動に参加しない参加できない理由は、「仕事や家事、育児などで忙しい」が 25.4%で最も多く、次に「参加するきっかけがない」(18.0%)、「興味の持てる活動がみつからない」(13.5%)でした。
- 今後参加してみたい活動は、「特にない」が 31.5%で最も多く、次に「地域のお祭り、町内会の行事や活動」(13.9%)、「文化・スポーツなどのサークル活動」(10.7%)でした。
- 暮らしやすい地域のため住民が協力して取り組んでいくことは、「ひとり暮らし高齢者や高齢者のみ世帯への支援」が 21.9%で最も多く、次に「防犯・防災・交通安全への支援」(16.9%)、「子育て世帯への支援」(15.1%)でした。
- 地域社会の問題に住民が協力していくために必要なことは、「気楽に集まれる場所をつくる」が 21.7%で最も多く、次に「自ら進んで日頃から住民相互のつながりを心がけること」(17.4%)「行政が地域活動の相談窓口などの援助体制を充実させる」(15.2%)でした。
- 地域社会の問題に住民が協力していくことに対し「必要だと思うことはない」理由は、「特に理由はない」が 27.6%で最も多く、次に「友人・知人との結びつきがあれば十分」(19.8%)、「個人の責任・自覚の問題」(14.7%)でした。

人とのつながり、孤独感について

- 人とのつきあいがないと感じることがあるかについては、「時々ある」が 32.7%で、次に「ほとんどない」(32.2%)、「ない」(25.6%)でした。
- 取り残されていると感じることがあるかについては、「ほとんどない」が 42.1%で最も多く、次に「ない」(36.7%)、「時々ある」(17.4%)でした。

- 孤立していると感じることがあるかについては、「ない」が 40.2%で最も多く、次に「ほとんどない」(39.5%)、「時々ある」(17.0%)でした。
- 孤独（ひとりぼっち）であると感じることがあるかについては、「ない」が 40.8%で最も多く、次に「ほとんどない」(39.0%)、「時々ある」(16.6%)でした。

新型コロナウイルス感染症の影響を受けて意識するようになったことについて

- 感染拡大に伴う外出の自粛要請が「人とのつきあい・つながり」に与えた影響については、「特に影響は感じない」が 34.4%で最も多く、次に「友人・知人とのつながりが弱くなった」(17.6%)、「地域のつながりが弱くなった」(13.7%)でした。

多様性の尊重について

- 八戸市は多様性が尊重され自分らしくいられるまちかについては、「まあそう思う」が 30.4%で最も多く、次に「分からない」(30.1%)、「あまりそう思わない」(23.4%)でした。

生活する上での課題について

- 子どもの養育や教育のこと、「将来は 不安がある」が 28.6%でした。
- 自分や家族の病気や健康のこと、「将来は 不安がある」が 63.9%でした。
- 家族の世話、医療・介護のこと、「将来は 不安がある」が 64.3%でした。
- 地域や職場、学校などでの人間関係のこと、「将来は 不安がある」が 24.2%でした。
- 自分や家族の将来の生活のこと、「将来は 不安がある」が 68.9%でした。
- 収入など経済面のこと、「将来は 不安がある」が 57.9%でした。
- 地域の防犯・治安のこと、「将来は 不安がある」が 39.8%でした。
- 地震や大雨などの自然災害時の避難のこと、「将来は 不安がある」が 55.9%でした。
- 就労や仕事（雇用・就職・転職・失業など）のこと、「将来は 不安がある」が 40.8%でした
- お金の管理や契約などの判断のことについては、「将来は 不安がある」が 47.4%でした。
- 財産の管理や処分のこと、「将来は 不安がある」が 51.3%でした。
- 日常の外出や通院、買い物のこと、「将来は 不安がある」が 40.5%でした。
- 高齢になってからの一人暮らしのこと、「将来は 不安がある」が 68.5%でした。
- 子どもから世話を受け迷惑をかけること、「将来は 不安がある」が 52.0%でした。

生活課題の相談について

- 困っている不安に思っていること（生活課題）を、誰に相談したいかについては、「家族・親戚」が 38.0%で最も多く、次に「友人・知人」(22.3%)、「市役所の相談窓口」(11.4%)でした。
- 日常生活が不自由になったとき地域で受けたい援助は、「玄関前の掃除・雪かきなど」が 19.4%で最も多く、次に「買い物・ごみ出しの手伝い」(19.1%)、「安否確認の声かけ」(15.5%)でした。
- 近くで困っている人に手助けできることは、「安否確認の声かけ」が 30.1%で最も多く、次に「玄関前の掃除・雪かきなど」(18.6%)、「趣味など世間話の話し相手」(12.1%)がでした。

地域福祉を進めるための取り組みについて

- 地区の民生委員・児童委員の名前と役割について、「まったく知らない」が 42.1%で最も多く、次に「民生委員の名称は聞いたことがある」（23.7%）、「活動内容は知っているが名前は知らない」（13.2%）でした。
- ボランティア活動に興味・関心は、「興味・関心はあるが今は活動への参加は考えていない」が 56.1%で最も多く、次に「興味・関心はない」（27.9%）でした。
- 災害が発生した際に援助をしてほしいことは、「情報の収集・伝達」が 28.3%で最も多く、次に「食料や水の確保・持ち運び」（27.4%）、「安否確認の声かけ」（19.3%）でした。
- 災害が発生した際にご近所への援助がでできることは、「安否確認の声かけ」が 29.0%で最も多く、次に「避難行動の支援（避難所まで付き添うなど）」（17.7%）と、「避難所でのお手伝い」（17.6%）でした。
- 住民同士が支え合い地域福祉を進めていくことは、「望ましい」が 54.3%で最も多く、次に「とても望ましい」（20.5%）、「分からない」（16.2%）でした。
- ふだんの暮らしの生活課題や不安を解決するための行政と地域住民の関係は、「家庭や地域で助け合いできない場合に行政が援助」が 39.3%で最も多く、次に「行政も住民も協力し取り組む」（32.0%）、「行政の手が届かない課題は住民が協力していくべき」（11.5%）でした。
- 住み慣れた地域で誰もが安心して暮らすために住民が取り組むことは、「近隣住民と日常的な対話や交流を広げる」が 26.5%で最も多く、「自治会が住民の身近な暮らしや、健康・安全・防災・防犯などの問題に取り組む」（16.4%）、「特にない、分からない」（13.3%）でした。

地域福祉を進めるための行政の役割について

- 今後の地域福祉推進のために重要な行政の役割は、「身近な場所での相談窓口の充実」が 14.1%で最も多く、「通院や買い物などに必要な交通手段の充実」（12.3%）、「高齢者・障がい者・児童の福祉施設の整備充実」（10.3%）でした。

自由記述について

- 主に、① 高齢化・孤立への強い不安、② 行政への要望、③ 町内会・加入しない若年層の増加や高齢化での担い手不足、地域コミュニティの揺らぎ、④ 若者の流出や子育て支援など若者・子育て世代への危機感、⑤ 紙媒体の情報不足や SNS 活用の不足などの情報発信と周知の課題、⑥ 災害時における防災・インフラ整備への要望、⑦ 精神的ケア・孤立対策としての話し相手ボランティアや気軽な相談窓口など「人としての支え」を求める声がありました。

調査の結果

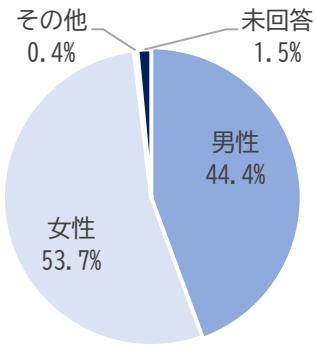
Ⅰ　あなたと家族について

(1) 性別

● 性別については、「女性」が 53.7%、「男性」が 44.4%、「その他（どちらともいえない・わからない・答えたくない）」が 0.4%でした。

性別

項目	回答数	割合（%）
1 男性	347	44.4%
2 女性	420	53.7%
3 その他	3	0.4%
未回答	12	1.5%
合計	782	100.0%



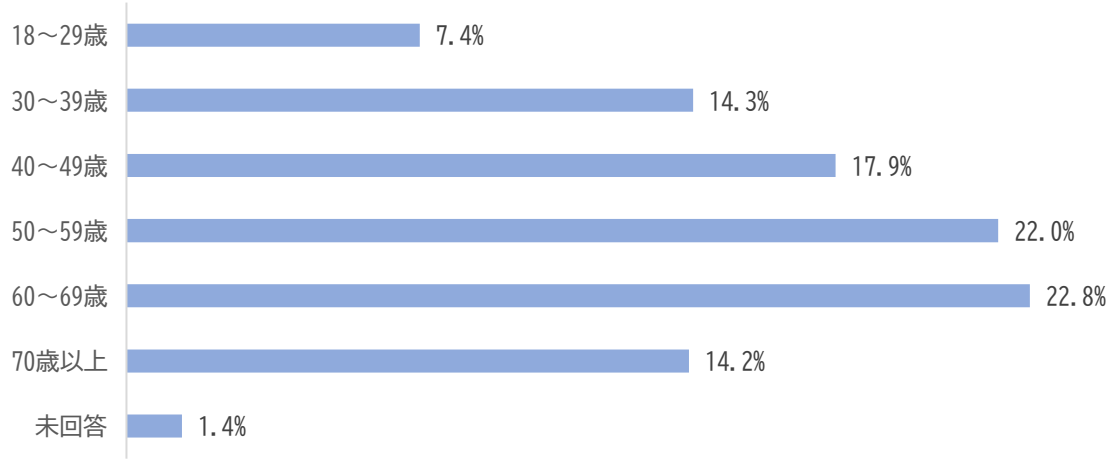
(2) 年齢

● 年齢については、「60 歳～69 歳」が 22.8%で最も多く、次に「50 歳～59 歳」(22.0%)、「40 歳～49 歳」(17.9%)でした。

年齢

	回答数	割合（%）
1 18～29 歳	58	7.4%
2 30～39 歳	112	14.3%
3 40～49 歳	140	17.9%
4 50～59 歳	172	22.0%

	回答数	割合（%）
5 60～69 歳	178	22.8%
6 70 歳以上	111	14.2%
未回答	11	1.4%
合計	782	100.0%

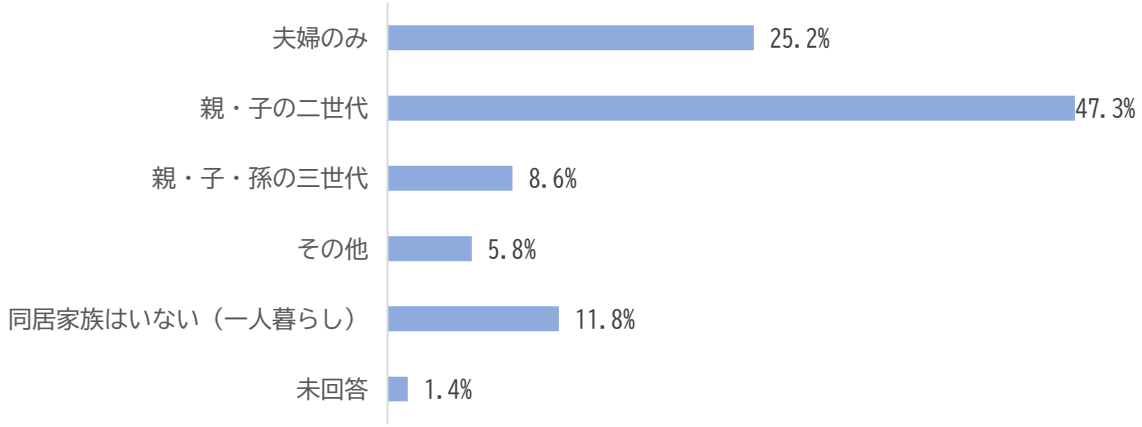


⑶ 同居家族の構成

● 同居家族の構成については、「親・子の二世代」が47.3%で最も多く、次に「夫婦のみ」（25.2%）、「同居家族はいない（一人暮らし）」（11.8%）でした。

同居家族の構成

項目	回答数	割合（%）
1 夫婦のみ	197	25.2%
2 親・子の二世代	370	47.3%
3 親・子・孫の三世代	67	8.6%
4 その他	45	5.8%
5 同居家族はいない（一人暮らし）	92	11.8%
未回答	11	1.4%
合計	782	100.0%

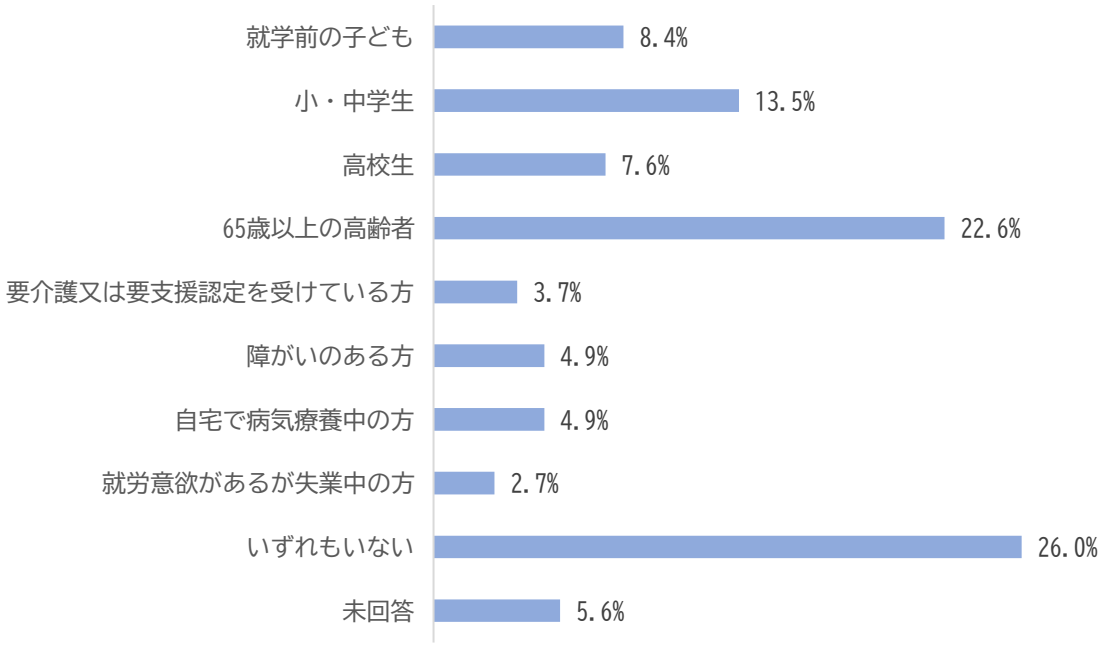


⑷ 同居家族の状況【あてはまるもの全てに○】

● 同居家族の状況については、「いずれもいない」世帯が26.0%で最も多く、次に「65歳以上の高齢者」（22.6%）、「小・中学生」（13.5%）でした。

同居家族の状況

項目	回答数	割合（%）
1 就学前の子ども	83	8.4%
2 小・中学生	134	13.5%
3 高校生	75	7.6%
4 65 歳以上の高齢者	224	22.6%
5 要介護又は要支援認定を受けている方	37	3.7%
6 障がいのある方	49	4.9%
7 自宅で病気療養中の方	49	4.9%
8 就労意欲があるが失業中の方	27	2.7%
9 いずれもいない	258	26.0%
未回答	56	5.6%
合計	992	100.0%

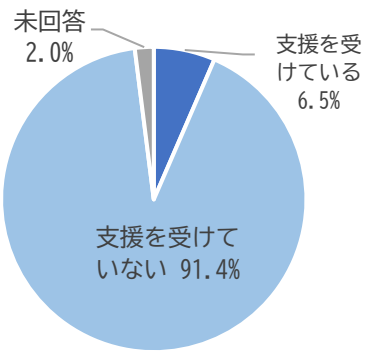


⑸ 公的支援（あなた自身）の状況

● 公的支援（あなた自身）については、「身体的・精神的・経済的な支援を受けていない」が91.4%、「身体的・精神的・経済的な支援を受けている」6.5%でした。

公的支援(あなた自身)

項目	回答数	割合（%）
1 身体的・精神的・経済的な支援を受けている	51	6.5%
2 身体的・精神的・経済的な支援を受けていない	715	91.4%
未回答	16	2.0%
合計	782	100.0%

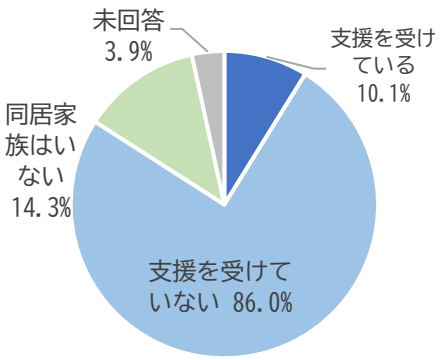


⑹ 公的支援（同居家族）の状況

● 公的支援（同居家族）については、「身体的・精神的・経済的な支援を受けていない」が86%、「身体的・精神的・経済的な支援を受けている」10.1%でした。

公的支援（同居家族）

項目	回答数	割合（%）
1 身体的・精神的・経済的な支援を受けている	68	10.1%
2 身体的・精神的・経済的な支援を受けていない	576	86.0%
3 同居家族はいない	112	14.3%
未回答	26	3.9%
合計	782	100.0%



⑺ 現在の居住（小学校区）

- 現在の居住（小学校区）については、「新井田」にいる世帯が6.5%で最も多く、次に「中居林」（5.8%）、「白銀」（5.1%）でした。
- 回答がない小学校区はなく、全ての地区で回答がありました。

現在の居住（小学校区）

項目	回答数	割合（%）
1 旭ケ丘	11	1.4%
2 大久喜	2	0.3%
3 柏崎	33	4.2%
4 金浜	2	0.3%
5 桔梗野	13	1.7%
6 江南	4	0.5%
7 江陽	12	1.5%
8 小中野	26	3.3%
9 是川	11	1.4%
10 鮫	23	2.9%
11 三条	22	2.8%
12 島守	4	0.5%
13 下長	38	4.9%
14 白銀	40	5.1%

項目	回答数	割合（%）
15 白銀南	18	2.3%
16 城下	18	2.3%
17 城北	14	1.8%
18 青潮	18	2.3%
19 多賀	7	0.9%
20 多賀台	11	1.4%
21 高館	9	1.2%
22 種差	1	0.1%
23 田面木	23	2.9%
24 長者	28	3.6%
25 轟木	5	0.6%
26 図南	10	1.3%
27 豊崎	6	0.8%
28 中居林	45	5.8%

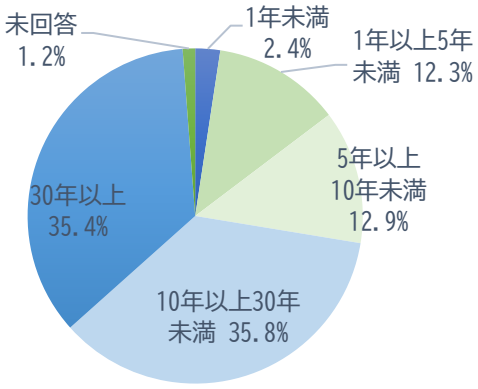
項目	回答数	割合（%）
29 南郷	11	1.4%
30 新井田	51	6.5%
31 西園	10	1.3%
32 西白山台	11	1.4%
33 根岸	34	4.4%
34 根城	28	3.6%
35 白鷗	12	1.5%
36 白山台	33	4.2%
37 八戸	22	2.8%
38 吹上	21	2.7%
39 町畑	23	2.9%
40 湊	27	3.5%
41 明治	14	1.8%
未回答	31	3.0%
合計	782	100.0%

⑻ 居住年数（市外転出後、再転入の場合は通算年数）

- 居住年数（市外転出後、再転入の場合は通算年数）については、「10年以上30年未満」の世帯が35.8%で最も多く、「30年以上」（35.4%）の世帯とほぼ同数でした。

居住年数

項目	回答数	割合（%）
1　1年未満	19	2.4%
2　1年以上5年未満	96	12.3%
3　5年以上10年未満	101	12.9%
4　10年以上30年未満	280	35.8%
5　30年以上	277	35.4%
未回答	9	1.2%
合計	782	100.0%

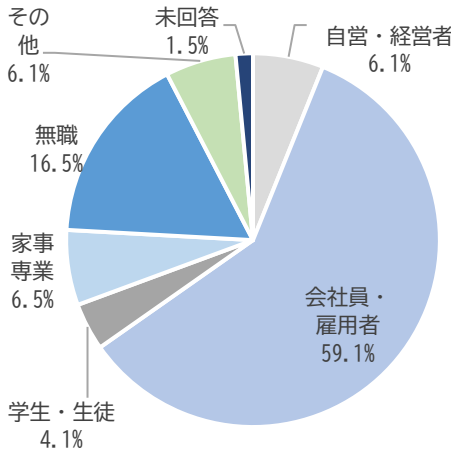


⑼ 現在の職業(あなた自身)

● 現在の職業(あなた自身)については、「会社員・雇用者」が59.1%と最も多く、次に「無職」(16.5%)、「家事専業」(6.5%)でした。

現在の職業

項目	回答数	割合 (%)
1 自営・経営者	48	6.1%
2 会社員・雇用者	462	59.1%
3 学生・生徒	32	4.1%
4 家事専業	51	6.5%
5 無職	129	16.5%
6 その他	48	6.1%
未回答	12	1.5%
合計	782	100.0%



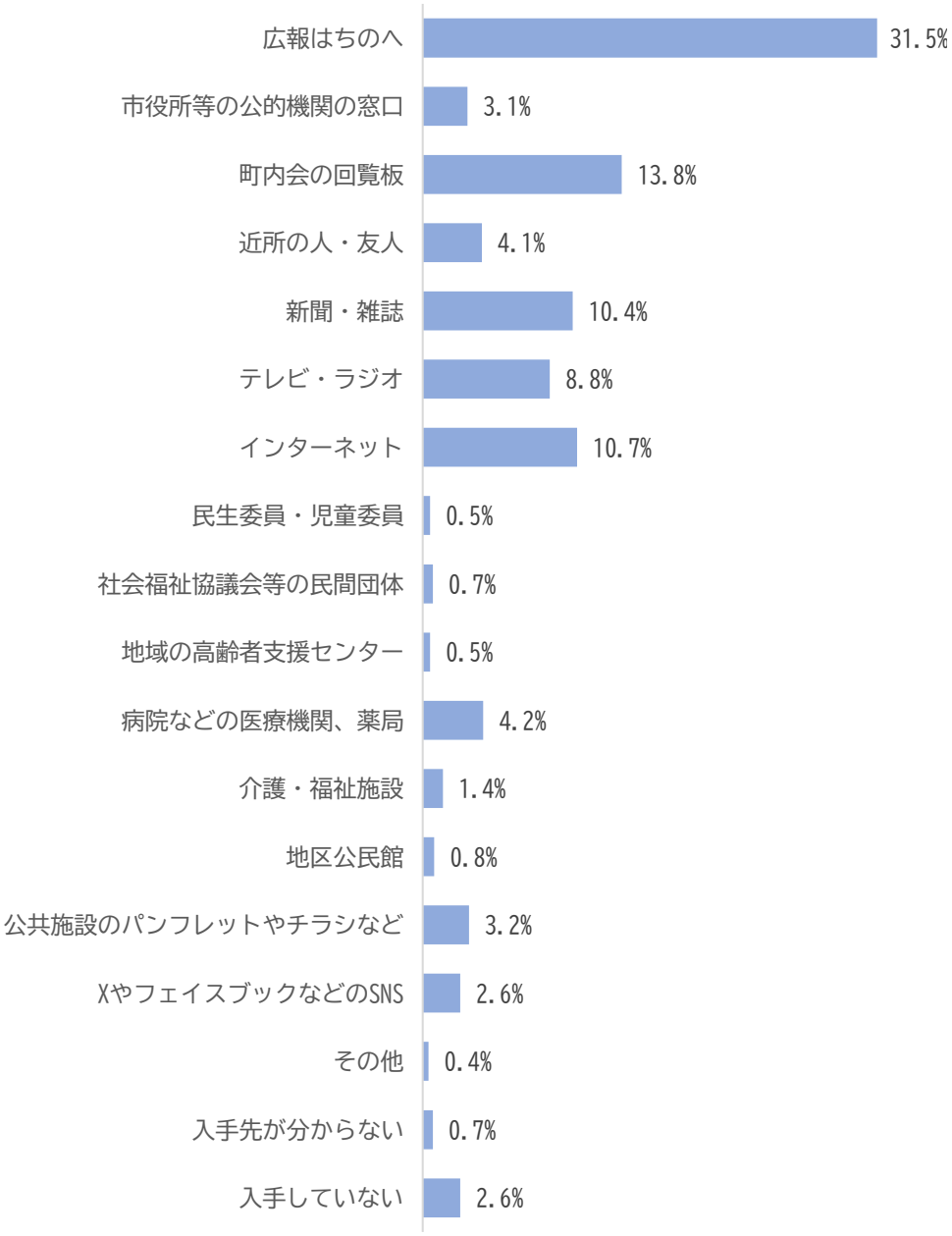
⑽ 市の保健や福祉に関する情報の入手方法(あなた自身) 【あてはまるもの全てに○】

● 市の保健や福祉に関する情報の入手方法(あなた自身)については、「広報はちのへ」が31.5%で最も多く、次に「町内会の回覧板」(13.8%)、「インターネット」(10.7%)でした。

保健や福祉に関する情報の入手方法

項目	回答数	割合 (%)	ケースの割合 (%)
1 広報はちのへ	622	31.5%	81.3%
2 市役所等の公的機関の窓口	62	3.1%	8.1%
3 町内会の回覧板	273	13.8%	35.7%
4 近所の人・友人	82	4.1%	10.7%
5 新聞・雑誌	205	10.4%	26.8%
6 テレビ・ラジオ	174	8.8%	22.7%
7 インターネット	211	10.7%	27.6%
8 民生委員・児童委員	9	0.5%	1.2%
9 社会福祉協議会等の民間団体	13	0.7%	1.7%
10 地域の高齢者支援センター	10	0.5%	1.3%
11 病院などの医療機関、薬局	84	4.2%	11.0%
12 介護・福祉施設	28	1.4%	3.7%
13 地区公民館	15	0.8%	2.0%
14 公共施設のパンフレットやチラシなど	64	3.2%	8.4%
15 Xやフェイスブックなどの SNS	51	2.6%	6.7%
16 その他	8	0.4%	1.0%
17 入手先が分からない	14	0.7%	1.8%
18 入手していない	52	2.6%	6.8%
合計	1,977	100.0%	258.4%

a. 2 分グループを値 1 で集計します。


広報はちのへ
31.5%
市役所等の公的機関の窓口
3.1%
町内会の回覧板
13.8%
近所の人・友人
4.1%
新聞・雑誌
10.4%
テレビ・ラジオ
8.8%
インターネット
10.7%
民生委員・児童委員
0.5%
社会福祉協議会等の民間団体
0.7%
地域の高齢者支援センター
0.5%
病院などの医療機関、薬局
4.2%
介護・福祉施設
1.4%
地区公民館
0.8%
公共施設のパンフレットやチラシなど
3.2%
XやフェイスブックなどのSNS
2.6%
その他
0.4%
入手先が分からない
0.7%
入手していない
2.6%

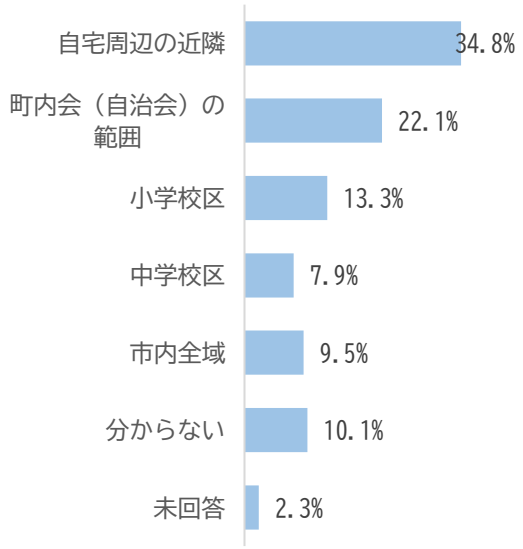
Ⅱ 住まいの地域との関わりについて

2－1 「身近な地域」と感じるのはどの範囲ですか。【○は１つまで】

● 「身近な地域」と感じる範囲については、「自宅周辺の近隣」が34.8%で最も多く、 次に「町内会（自治会）の範囲」（22.1%）、「小学校区」（13.3%）でした。

2-1 「身近な地域」と感じる範囲

項目	回答数	割合（%）
1 自宅周辺の近隣	272	34.8%
2 町内会（自治会）の範囲	173	22.1%
3 小学校区	104	13.3%
4 中学校区	62	7.9%
5 市内全域	74	9.5%
6 分からない	79	10.1%
未回答	18	2.3%
合計	782	100.0%



● 「性別」と「身近な地域」と感じる範囲のクロス集計では、関連（男女による違い）が見られました（漸近有意確率0.010≦有意水準0.05）。

(1)性別 と ２－１
「身近な地域」と感じる範囲 のクロス表

n=754

		2－1 「身近な地域」と感じる範囲						
		自宅周辺の近隣	町内会（自治会）の範囲	小学校区	中学校区	市内全域	分からない	合計
(1)性別	男	106	80	45	27	31	47	336
	女	163	91	55	35	42	29	415
	その他	1	0	0	0	0	2	3
合計		270	171	100	62	73	78	754

カイ２乗検定

	値	自由度	漸近有意確率（両側）
Pearson のカイ２乗	23.238[a]	10	.010
尤度比	19.910	10	.030
線型と線型による連関	4.947	1	.026
有効なケースの数	754		

a. 6 セル (33.3%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .25 です。

● 「年齢」と「身近な地域」と感じる範囲のクロス集計では、関連（年齢による違い）が見られました（漸近有意確率0.001≦有意水準0.05）。

(2)年齢 と ２－１
「身近な地域」と感じる範囲 のクロス表

n=755

		２－１「身近な地域」と感じる範囲						
		自宅周辺の近隣	町内会（自治会）の範囲	小学校区	中学校区	市内全域	分からない	合計
(2)年齢	18～29歳	15	9	7	14	6	7	58
	30～39歳	39	17	19	9	14	12	110
	40～49歳	47	16	34	15	10	14	136
	50～59歳	50	48	22	12	21	17	170
	60～69歳	74	48	12	9	13	18	174
	70歳以上	45	33	8	3	9	9	107
合計		270	171	102	62	73	77	755

カイ２乗検定

	値	自由度	漸近有意確率（両側）
Pearson のカイ２乗	78.412[a]	25	<.001
尤度比	74.192	25	<.001
線型と線型による連関	13.335	1	<.001
有効なケースの数	755		

a. 1 セル (2.8%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 4.76 です。

● 「同居家族の構成」と「身近な地域」と感じる範囲のクロス集計では、関連（同居家族の構成による違い）が見られました（漸近有意確率0.001≦有意水準0.05）。

(3)同居家族の構成 と ２－１
「身近な地域」と感じる範囲 のクロス表

n=756

		２－１「身近な地域」と感じる範囲						
		自宅周辺の近隣	町内会（自治会）の範囲	小学校区	中学校区	市内全域	分からない	合計
(3)同居家族の構成	就学前の子ども	76	55	16	9	17	19	192
	小・中学生	129	67	64	38	37	30	365
	高校生	15	18	15	7	8	3	66
	65歳以上の高齢者	14	13	3	5	1	8	44
	要介護又は要支援認定を受けている	37	17	4	3	10	18	89
合計		271	170	102	62	73	78	756

カイ２乗検定

	値	自由度	漸近有意確率（両側）
Pearson のカイ２乗	59.007[a]	20	<.001
尤度比	61.351	20	<.001
線型と線型による連関	3.591	1	.058
有効なケースの数	756		

a. 3 セル (10.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 3.61 です。

● 「居住年数」と「身近な地域」と感じる範囲のクロス集計では、（居住年数による違い）関連が見られました（漸近有意確率0.001≦有意水準0.05）。

⑻居住年数 と ２－１
「身近な地域」と感じる範囲 のクロス表

n=756

		２－１「身近な地域」と感じる範囲						
		自宅周辺の近隣	町内会（自治会）の範囲	小学校区	中学校区	市内全域	分からない	合計
⑻居住年数	1年未満	8	4	1	0	0	4	17
	1年以上5年未満	36	19	7	7	10	17	96
	5年以上10年未満	33	13	22	11	7	12	98
	10年以上30年未満	87	58	46	28	29	25	273
	30年以上	107	77	25	16	27	20	272
合計		271	171	101	62	73	78	756

カイ２乗検定

	値	自由度	漸近有意確率（両側）
Pearson のカイ２乗	46.013[a]	20	<.001
尤度比	47.949	20	<.001
線型と線型による連関	5.248	1	.022
有効なケースの数	756		

a. 5 セル (16.7%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 1.39 です。

● 「現在の職業」と「身近な地域」と感じる範囲のクロス集計では、関連（職業による違い）が見られました（漸近有意確率0.001≦有意水準0.05）。

⑼現在の職業 と ２－１
「身近な地域」と感じる範囲 のクロス表

n=753

		２－１「身近な地域」と感じる範囲						
		自宅周辺の近隣	町内会（自治会）の範囲	小学校区	中学校区	市内全域	分からない	合計
⑼現在の職業	自営・経営者	13	13	9	1	4	5	45
	従業員など雇われている	153	95	72	42	50	40	452
	学生・生徒	5	7	3	10	2	5	32
	家事専業	20	12	6	3	5	3	49
	無職	57	37	7	4	5	18	128
	その他	21	7	5	2	7	5	47
合計		269	171	102	62	73	76	753

カイ２乗検定

	値	自由度	漸近有意確率（両側）
Pearson のカイ２乗	63.817[a]	25	<.001
尤度比	60.680	25	<.001
線型と線型による連関	2.877	1	.090
有効なケースの数	753		

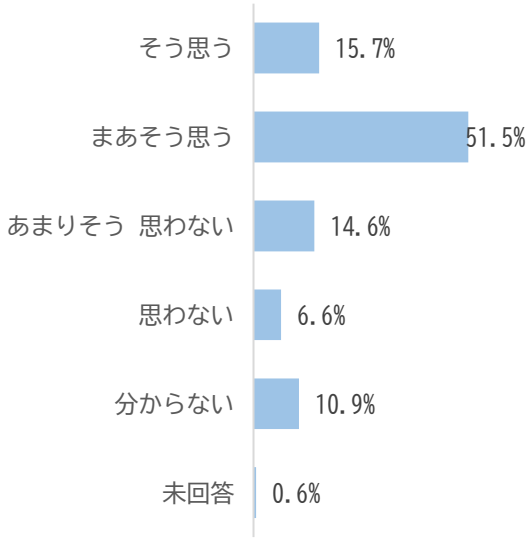
a. 13 セル (36.1%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 2.63 です。

2－2　住んでいる地域について、どのように思いますか。【それぞれ○は１つまで】

● ① 近所の人間関係は良好であるかについては、「まあそう思う」が51.5%で最も多く、次に「そう思う」(15.7%)でした。

① 近所の人間関係は良好である

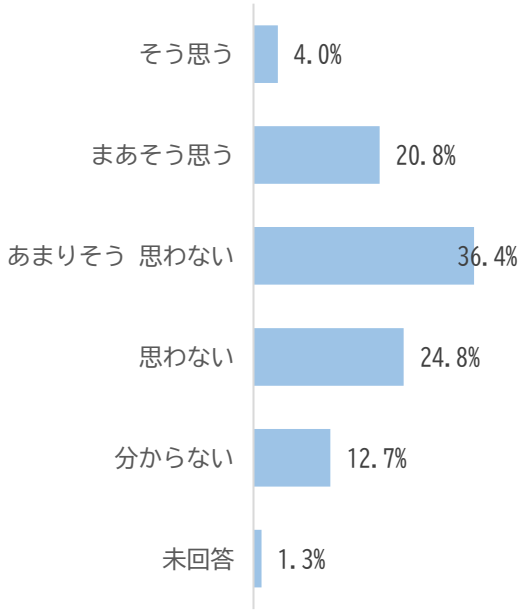
項目	回答数	割合（%）
1 そう思う	123	15.7%
2 まあそう思う	403	51.5%
3 あまりそう 思わない	114	14.6%
4 思わない	52	6.6%
5 分からない	85	10.9%
未回答	5	0.6%
合計	782	100.0%



● ② 住民による交流が活活発であるかについては、「あまりそう 思わない」が36.4%で最も多く、次に「思わない」(24.8%)、「まあそう思う」(20.8%)でした。

② 住民による交流が活発である

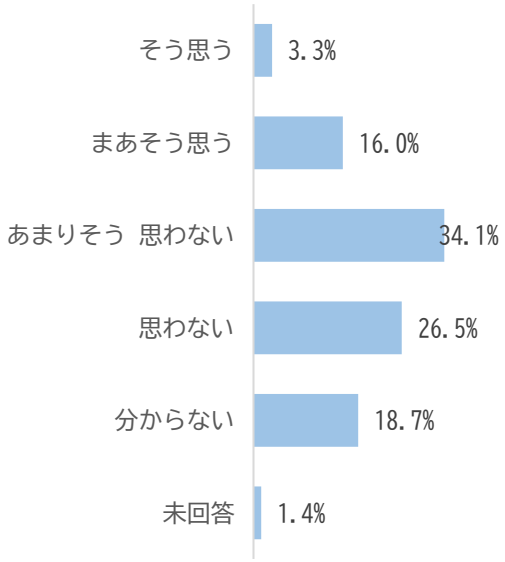
項目	回答数	割合（%）
1 そう思う	31	4.0%
2 まあそう思う	163	20.8%
3 あまりそう 思わない	285	36.4%
4 思わない	194	24.8%
5 分からない	99	12.7%
未回答	10	1.3%
合計	782	100.0%



● ③ 身近な助け合いやボランティア活動が活発であるかについては、「あまりそう 思わない」が34.1%で最も多く、次に「思わない」（26.5%）、「分からない」（18.7%）でした。

③ 身近な助け合いやボランティア活動が活発である

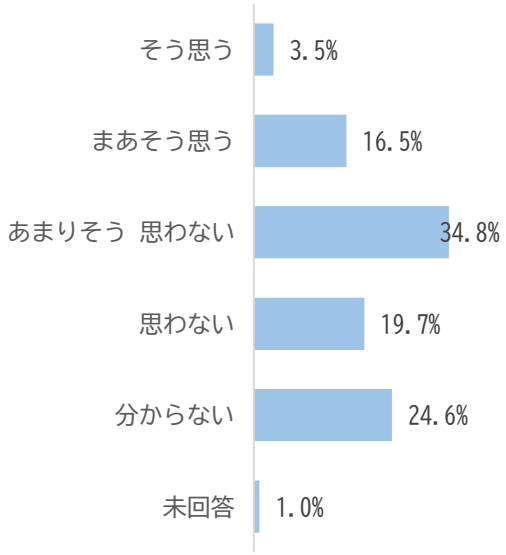
項目	回答数	割合（%）
1 そう思う	26	3.3%
2 まあそう思う	125	16.0%
3 あまりそう 思わない	267	34.1%
4 思わない	207	26.5%
5 分からない	146	18.7%
未回答	11	1.4%
合計	782	100.0%



● ④ 手助けや見守りを必要としている人への地域の関心は強いかについては、「あまりそう思わない」が34.8%で最も多く、次に「分からない」(24.6%)、「思わない」(19.7%)でした。

④ 手助けや見守りを必要としている人への地域の関心は強い

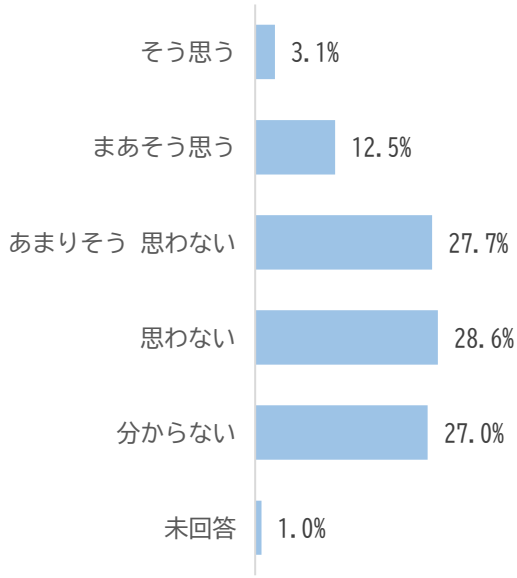
項目	回答数	割合（%）
1 そう思う	27	3.5%
2 まあそう思う	129	16.5%
3 あまりそう　思わない	272	34.8%
4 思わない	154	19.7%
5 分からない	192	24.6%
未回答	8	1.0%
合計	782	100.0%



● ⑤ 地域で抱える課題について住民同士で話し合う機会や場があるかについては、「思わない」が28.6%で最も多く、次に「あまりそう 思わない」(27.7%)、「分からない」(27.0%)がほぼ同数でした。

⑤ 地域で抱える課題について住民同士で話し合う機会や場がある

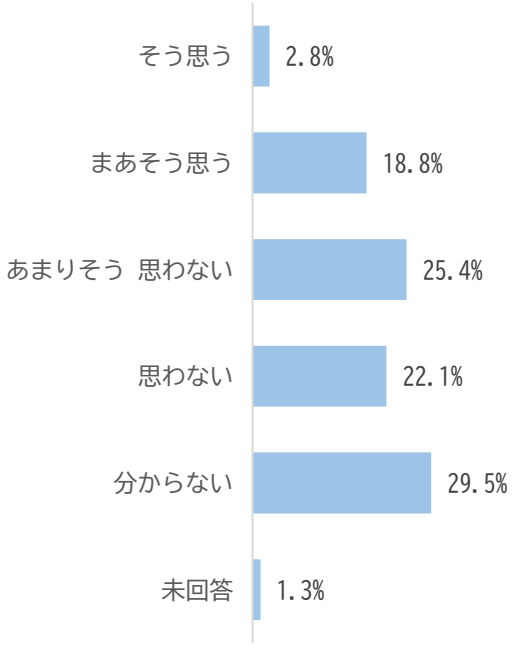
項目	回答数	割合（%）
1 そう思う	24	3.1%
2 まあそう思う	98	12.5%
3 あまりそう　思わない	217	27.7%
4 思わない	224	28.6%
5 分からない	211	27.0%
未回答	8	1.0%
合計	782	100.0%



● ⑥ 地域の団体や企業、学校等の多様な団体が一緒に活動しているかについては、「分からない」が29.5%で最も多く、次に「あまりそう 思わない」(25.4%)、「思わない」(22.1%)でした。

⑥ 地域の団体や企業、学校等の多様な団体が一緒に活動している

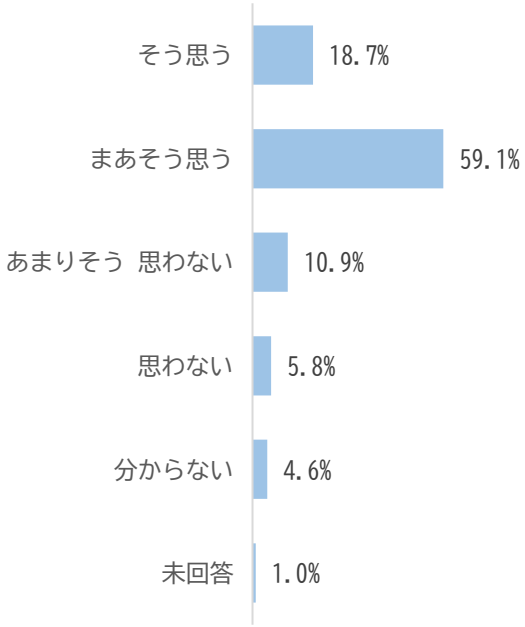
項目	回答数	割合（%）
1 そう思う	22	2.8%
2 まあそう思う	147	18.8%
3 あまりそう 思わない	199	25.4%
4 思わない	173	22.1%
5 分からない	231	29.5%
未回答	10	1.3%
合計	782	100.0%



● ⑦ 住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができているについては、「まあそう思う」が59.1%、「そう思う」(18.7%)と７割を占めています。

⑦ 住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができている

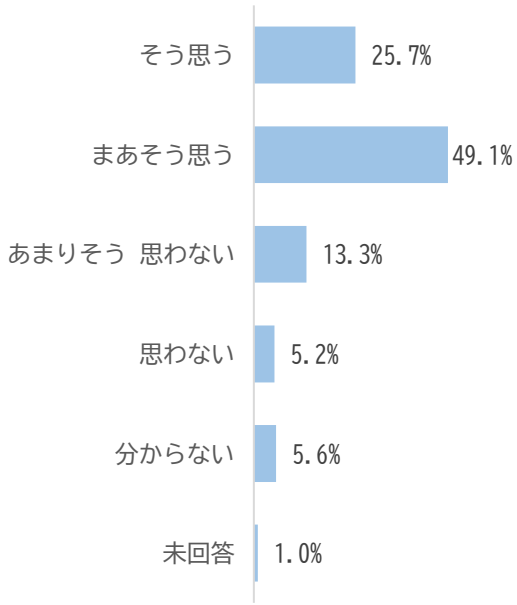
項目	回答数	割合（%）
1 そう思う	146	18.7%
2 まあそう思う	462	59.1%
3 あまりそう 思わない	85	10.9%
4 思わない	45	5.8%
5 分からない	36	4.6%
未回答	8	1.0%
合計	782	100.0%



● ⑧ 今後も住み続けたい地域であるかについては、「まあそう思う」が49.1%で最も多く、次に「そう思う」(25.7%)、「あまりそう 思わない」(13.3%)でした。

⑧ 今後も住み続けたい地域である

項目	回答数	割合（%）
1 そう思う	201	25.7%
2 まあそう思う	384	49.1%
3 あまりそう 思わない	104	13.3%
4 思わない	41	5.2%
5 分からない	44	5.6%
未回答	8	1.0%
合計	782	100.0%

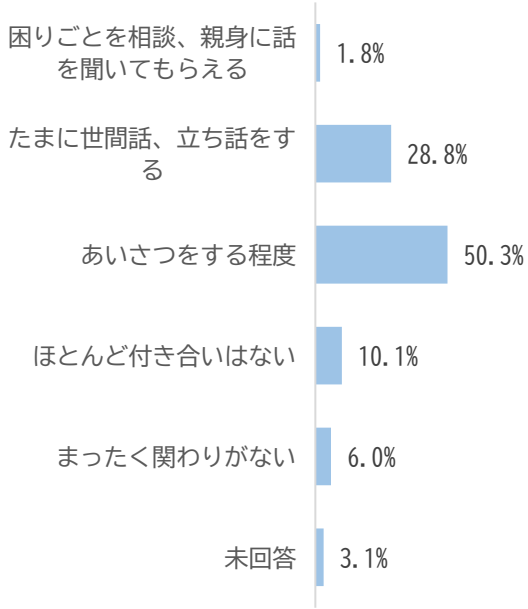


2－3 近所の方とどのようなお付き合いをしていますか。【○は１つまで】

● 近所の方とどのようなお付き合いをしているかについては、「あいさつをする程度」が50.3%で最も多く、次に「たまに世間話、立ち話をする」(28.8%)でした。

2-3 近所との付き合いの状況

項目	回答数	割合（%）
1 困りごとを相談、親身に話を聞いてもらえる	14	1.8%
2 たまに世間話、立ち話をする	225	28.8%
3 あいさつをする程度	393	50.3%
4 ほとんど付き合いはない	79	10.1%
5 まったく関わりがない	47	6.0%
未回答	24	3.1%
合計	782	100.0%



● 「性別」と「近所との付き合いの状況」のクロス集計では、関連は見られませんでした（漸近有意確率0.086≧有意水準0.05）。

(1)性別 と 2－3 近所との付き合いの状況 のクロス表

n=749

		2－3 近所との付き合いの状況					
		困りごとを相談、親身に話を聞いてもえる	たまに世間話、立ち話をする	あいさつをする程度	ほとんど付き合いはない	まったく関わりがない	合計
(1)性別	男	5	85	191	38	22	341
	女	8	137	197	39	24	405
	その他	0	0	1	1	1	3
合計		13	222	389	78	47	749

カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ 2 乗	13.829[a]	8	.086
尤度比	12.493	8	.131
線型と線型による連関	2.457	1	.117
有効なケースの数	749		

a. 5 セル (33.3%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .05 です。

● 「年齢」と「近所との付き合いの状況」のクロス集計では、関連（年齢による違い）が見られました（漸近有意確率0.001≦有意水準0.05）。

(2)年齢 と 2－3 近所との付き合いの状況 のクロス表

n=749

		2－3 近所との付き合いの状況					
		困りごとを相談、親身に話を聞いてもえる	たまに世間話、立ち話をする	あいさつをする程度	ほとんど付き合いはない	まったく関わりがない	合計
(2)年齢	18～29歳	0	9	31	8	8	56
	30～39歳	2	18	54	19	16	109
	40～49歳	2	34	79	16	6	137
	50～59歳	2	45	99	13	11	170
	60～69歳	5	65	86	13	4	173
	70歳以上	2	51	41	9	1	104
合計		13	222	390	78	46	749

カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ 2 乗	74.238[a]	20	<.001
尤度比	72.676	20	<.001
線型と線型による連関	53.940	1	<.001
有効なケースの数	749		

a. 7 セル (23.3%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .97 です。

● 「同居家族の構成」と「近所との付き合いの状況」のクロス集計では、関連（同居家族の構成による違い）が見られました（漸近有意確率0.001≦有意水準0.05）。

⑶同居家族の構成 と ２－３ 近所との付き合いの状況 のクロス表

n＝750

		２－３ 近所との付き合いの状況					
		困りごとを相談、親身に話を聞いてもえる	たまに世間話、立ち話をする	あいさつをする程度	ほとんど付き合いはない	まったく関わりがない	合計
⑶同居家族の構成	就学前の子ども	4	69	99	14	5	191
	小・中学生	4	109	191	39	17	360
	高校生	1	20	35	8	2	66
	65歳以上の高齢者	2	10	21	4	6	43
	要介護又は要支援認定を受けている	1	15	44	13	17	90
合計		12	223	390	78	47	750

カイ２乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ 2 乗	49.170[a]	16	<.001
尤度比	41.671	16	<.001
線型と線型による連関	31.046	1	<.001
有効なケースの数	750		

a. 7 セル (28.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .69 です。

● 「自身が公的支援を受けている」と「近所との付き合いの状況」のクロス集計では、関連が見られました（漸近有意確率0.004≦有意水準0.05）。

⑸公的支援 と ２－３ 近所との付き合いの状況 のクロス表

n＝758

		２－３ 近所との付き合いの状況					
		困りごとを相談、親身に話を聞いてもえる	たまに世間話、立ち話をする	あいさつをする程度	ほとんど付き合いはない	まったく関わりがない	合計
⑸公的支援	受けている	1	12	22	11	3	49
	受けていない	11	207	367	67	43	695
	99	2	6	4	1	1	14
合計		14	225	393	79	47	758

カイ２乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ 2 乗	22.683[a]	8	.004
尤度比	14.227	8	.076
線型と線型による連関	3.204	1	.073
有効なケースの数	758		

a. 6 セル (40.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .26 です。

● 「同居家族が公的支援を受けている」と「近所との付き合いの状況」のクロス集計では、関連が見られました（漸近有意確率0.001≦有意水準0.05）。

⑹公的支援 と ２－３ 近所との付き合いの状況 のクロス表

n＝734

		２－３ 近所との付き合いの状況					
		困りごとを相談、親身に話を聞いてもえる	たまに世間話、立ち話をする	あいさつをする程度	ほとんど付き合いはない	まったく関わりがない	合計
⑹公的支援	受けている	1	19	34	6	3	63
	受けていない	8	174	297	56	26	561
	同居家族はいない	3	20	54	16	17	110
合計		12	213	385	78	46	734

カイ２乗検定

	値	自由度	漸近有意確率（両側）
Pearson のカイ２乗	25.805[a]	8	.001
尤度比	22.113	8	.005
線型と線型による連関	11.600	1	<.001
有効なケースの数	734		

a. 3 セル (20.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 1.03 です。

● 「居住年数」と「近所との付き合いの状況」のクロス集計では、関連（居住年数による違い）が見られました（漸近有意確率0.001≦有意水準0.05）。

⑻居住年数 と ２－３ 近所との付き合いの状況 のクロス表

n＝750

		２－３ 近所との付き合いの状況					
		困りごとを相談、親身に話を聞いてもえる	たまに世間話、立ち話をする	あいさつをする程度	ほとんど付き合いはない	まったく関わりがない	合計
⑻居住年数	1年未満	0	3	8	2	5	18
	1年以上5年未満	0	19	51	14	11	95
	5年以上10年未満	1	21	54	17	4	97
	10年以上30年未満	4	73	149	23	23	272
	30年以上	7	107	129	22	3	268
合計		12	223	391	78	46	750

カイ２乗検定

	値	自由度	漸近有意確率（両側）
Pearson のカイ２乗	62.785[a]	16	<.001
尤度比	61.561	16	<.001
線型と線型による連関	42.370	1	<.001
有効なケースの数	750		

a. 7 セル (28.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .29 です。

● 「職業」と「近所との付き合いの状況」のクロス集計では、関連（職業による違い）が見られました（漸近有意確率0.001≦有意水準0.05）。

⑼現在の職業 と ２－３ 近所との付き合いの状況 のクロス表

n＝747

		２－３ 近所との付き合いの状況					
		困りごとを相談、親身に話を聞いてもえる	たまに世間話、立ち話をする	あいさつをする程度	ほとんど付き合いはない	まったく関わりがない	合計
⑼現在の職業	自営・経営者	2	15	25	2	4	48
	従業員など雇われている	8	116	252	47	27	450
	学生・生徒	1	3	19	3	6	32
	家事専業	0	13	27	6	0	46
	無職	1	59	53	10	3	126
	その他	0	16	15	9	5	45
合計		12	222	391	77	45	747

カイ２乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ 2 乗	55.162[a]	20	<.001
尤度比	56.194	20	<.001
線型と線型による連関	2.363	1	.124
有効なケースの数	747		

a. 13 セル (43.3%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .51 です。

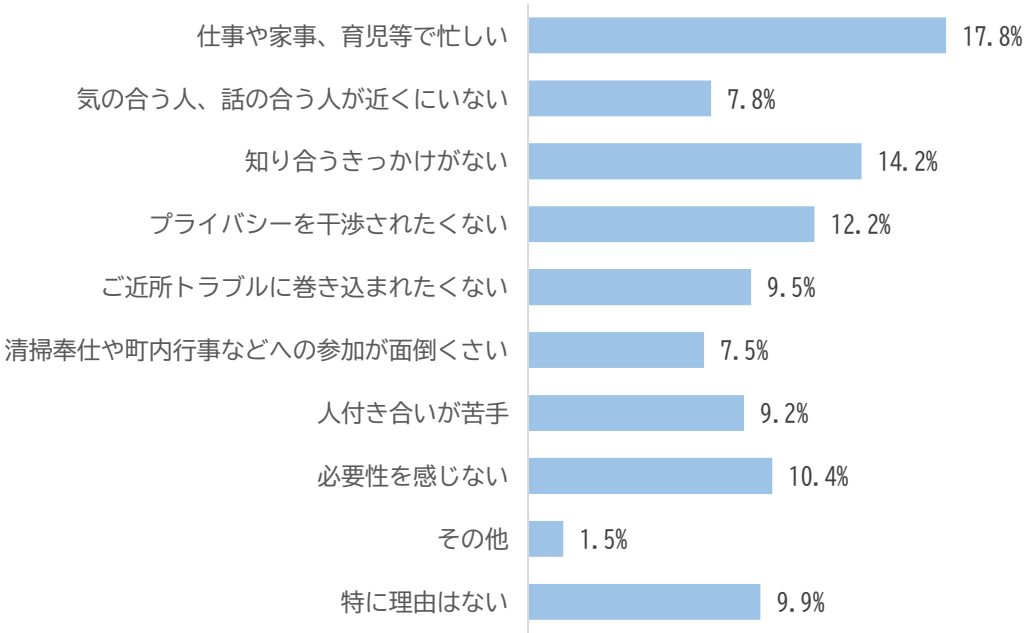
２－３　で「４・５」を☑した方

２－３－１　近所の方とお付き合いしていない理由は何ですか。【あてはまるもの全てに○】

● 近所の方とお付き合いしていない理由については、「仕事や家事、育児等で忙しい」が17.8%で最も多く、次に「知り合うきっかけがない」(14.2%)、「プライバシーを干渉されたくない」(12.2%)でした。

2-3-1　近所と付き合いしていない理由

項目	回答数	割合（%）	ケースの割合（%）
1 仕事や家事、育児等で忙しい	210	17.8%	38.6%
2 気の合う人、話の合う人が近くにいない	92	7.8%	16.9%
3 知り合うきっかけがない	168	14.2%	30.9%
4 プライバシーを干渉されたくない	144	12.2%	26.5%
5 ご近所トラブルに巻き込まれたくない	112	9.5%	20.6%
6 清掃奉仕や町内行事などへの参加が面倒くさい	88	7.5%	16.2%
7 人付き合いが苦手	109	9.2%	20.0%
8 必要性を感じない	123	10.4%	22.6%
9 その他	18	1.5%	3.3%
10 特に理由はない	117	9.9%	21.5%
合計	1,181	100.0%	217.1%

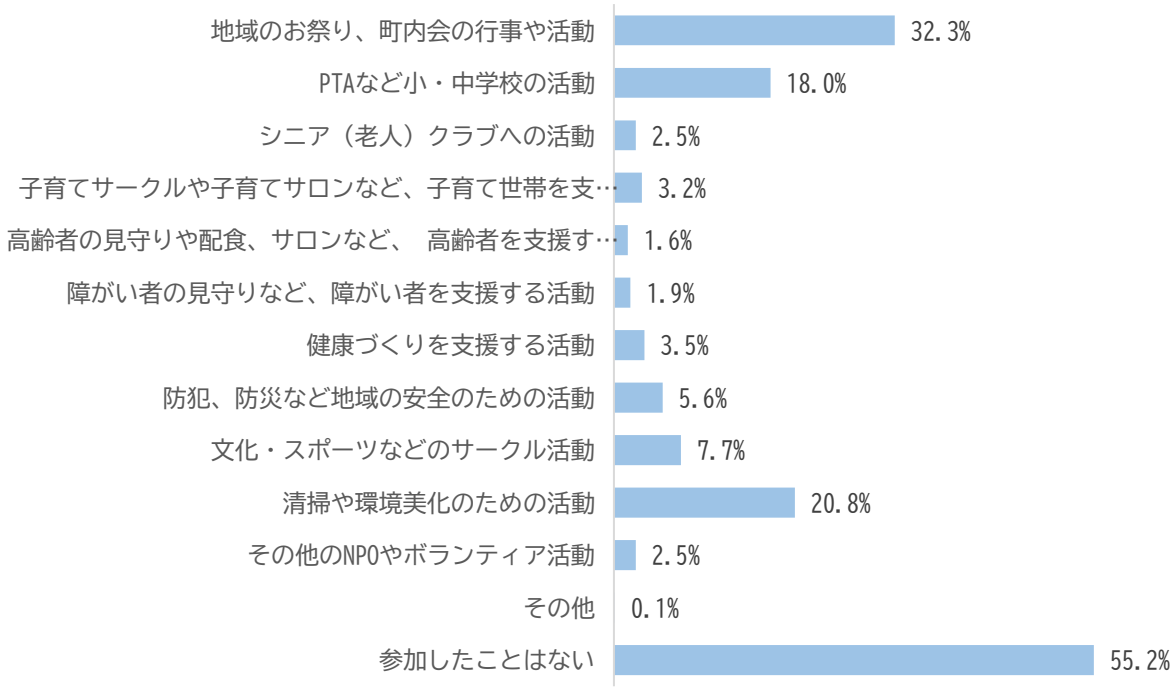


２－４　あなたがこの５年間に参加したことのある活動は何ですか。【あてはまるもの全てに○】

● この５年間に参加したことのある活動については、「参加したことはない」が55.2%で最も多く、次に「地域のお祭り、町内会の行事や活動」（32.3%）、「清掃や環境美化のための活動」（20.8%）でした。

２－４　この５年間に参加したことのある活動

項目	回答数	割合（%）	ケースの割合（%）
1 地域のお祭り、町内会の行事や活動	219	32.3%	29.3%
2 PTA など小・中学校の活動	122	18.0%	16.3%
3 シニア（老人）クラブへの活動	17	2.5%	2.3%
4 子育てサークルや子育てサロンなど、子育て世帯を支援する活動	22	3.2%	2.9%
5 高齢者の見守りや配食、サロンなど、 高齢者を支援する活動	11	1.6%	1.5%
6 障がい者の見守りなど、障がい者を支援する活動	13	1.9%	1.7%
7 健康づくりを支援する活動	24	3.5%	3.2%
8 防犯、防災など地域の安全のための活動	38	5.6%	5.1%
9 文化・スポーツなどのサークル活動	52	7.7%	7.0%
10 清掃や環境美化のための活動	141	20.8%	18.9%
11 その他の NPO やボランティア活動	17	2.5%	2.3%
12 その他	1	0.1%	0.1%
13 参加したことはない	374	55.2%	50.0%
合計	1,051	100.0%	140.5%



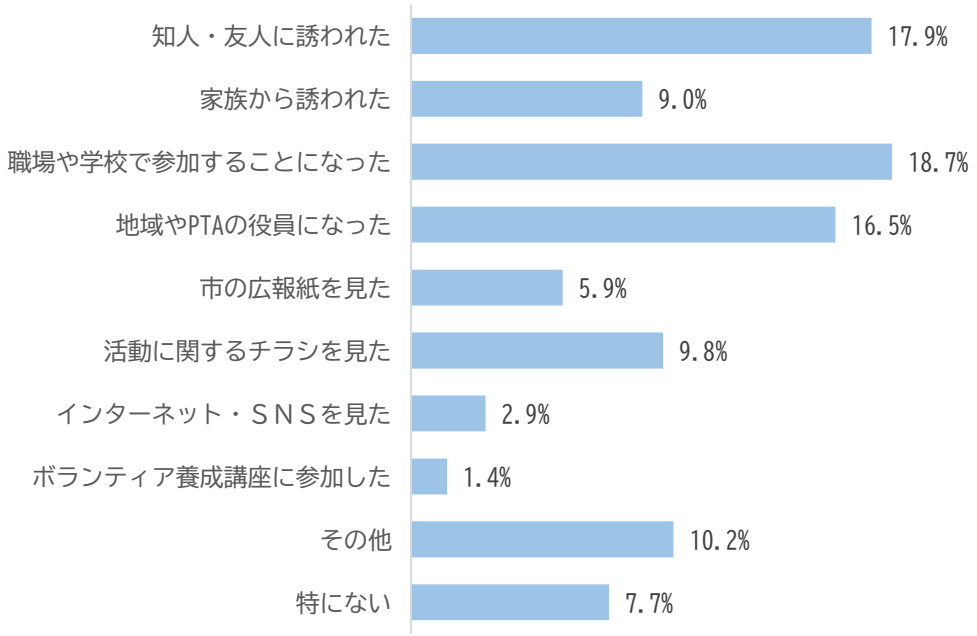
２－４　で「１～12」を☑した方

２－４－１　活動に参加したきっかけは何ですか。【あてはまるもの全てに○】

● 活動に参加したきっかけについては、「職場や学校で参加することになった」が18.7%で最も多く、次に「知人・友人に誘われた」（17.9%）、「地域やPTAの役員になった」（16.5%）でした。

2-4-1　活動に参加したきっかけ

項目	回答数	割合（%）	ケースの割合（%）
1 知人・友人に誘われた	88	17.9%	23.3%
2 家族から誘われた	44	9.0%	11.6%
3 職場や学校で参加することになった	92	18.7%	24.3%
4 地域や PTA の役員になった	81	16.5%	21.4%
5 市の広報紙を見た	29	5.9%	7.7%
6 活動に関するチラシを見た	48	9.8%	12.7%
7 インターネット・ＳＮＳを見た	14	2.9%	3.7%
8 ボランティア養成講座に参加した	7	1.4%	1.9%
9 その他	50	10.2%	13.2%
10 特にない	38	7.7%	10.1%
合計	491	100.0%	129.9%



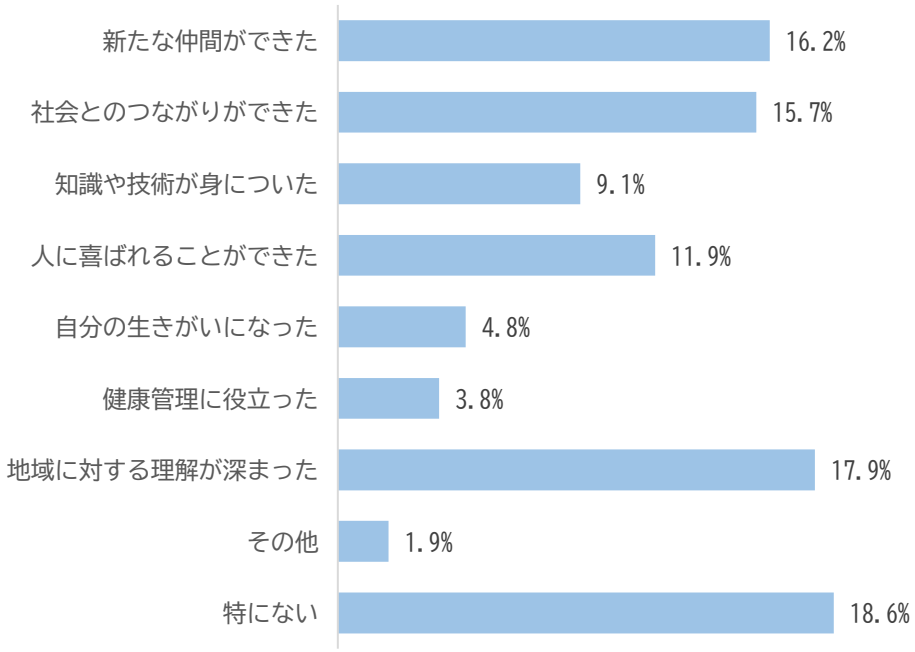
２－４　で「１～12」を☑した方

２－４－２　活動に参加して、よかったと感じたことは何ですか。【あてはまるもの全てに○】

● 活動に参加してよかったことについては、「特にない」が18.6%で最も多く、次に「地域に対する理解が深まった」（17.9%）、「新たな仲間ができた」（16.2%）でした。

2-4-2　活動に参加してよかったこと

項目	回答数	割合（%）	ケースの割合（%）
1 新たな仲間ができた	94	16.2%	25.1%
2 社会とのつながりができた	91	15.7%	24.3%
3 知識や技術が身についた	53	9.1%	14.2%
4 人に喜ばれることができた	69	11.9%	18.4%
5 自分の生きがいになった	28	4.8%	7.5%
6 健康管理に役立った	22	3.8%	5.9%
7 地域に対する理解が深まった	104	17.9%	27.8%
8 その他	11	1.9%	2.9%
9 特にない	108	18.6%	28.9%
合計	580	100.0%	155.1%



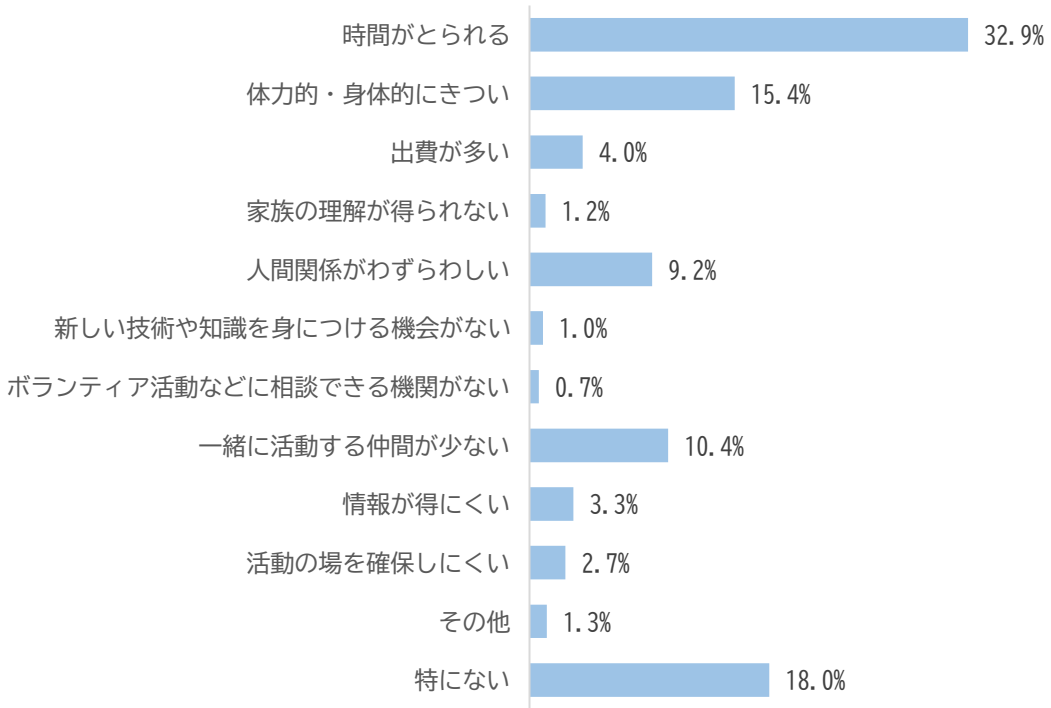
２－４　で「１～12」を☑した方

２－４－３　活動に参加して、負担と感じたことは何ですか。【あてはまるもの全てに○】

● 活動に参加して、負担と感じたことについては、「時間がとられる」が32.9%で最も多く、「特にない」（18.0%）「体力的・身体的にきつい」（15.4%）でした。

2-4-3　活動に参加して負担と感じたこと

項目	回答数	割合（%）	ケースの割合（%）
1 時間がとられる	197	32.9%	51.6%
2 体力的・身体的にきつい	92	15.4%	24.1%
3 出費が多い	24	4.0%	6.3%
4 家族の理解が得られない	7	1.2%	1.8%
5 人間関係がわずらわしい	55	9.2%	14.4%
6 新しい技術や知識を身につける機会がない	6	1.0%	1.6%
7 ボランティア活動などに相談できる機関がない	4	0.7%	1.0%
8 一緒に活動する仲間が少ない	62	10.4%	16.2%
9 情報が得にくい	20	3.3%	5.2%
10 活動の場を確保しにくい	16	2.7%	4.2%
11 その他	8	1.3%	2.1%
12 特にない	108	18.0%	28.3%
合計	552	100.0	156.8%



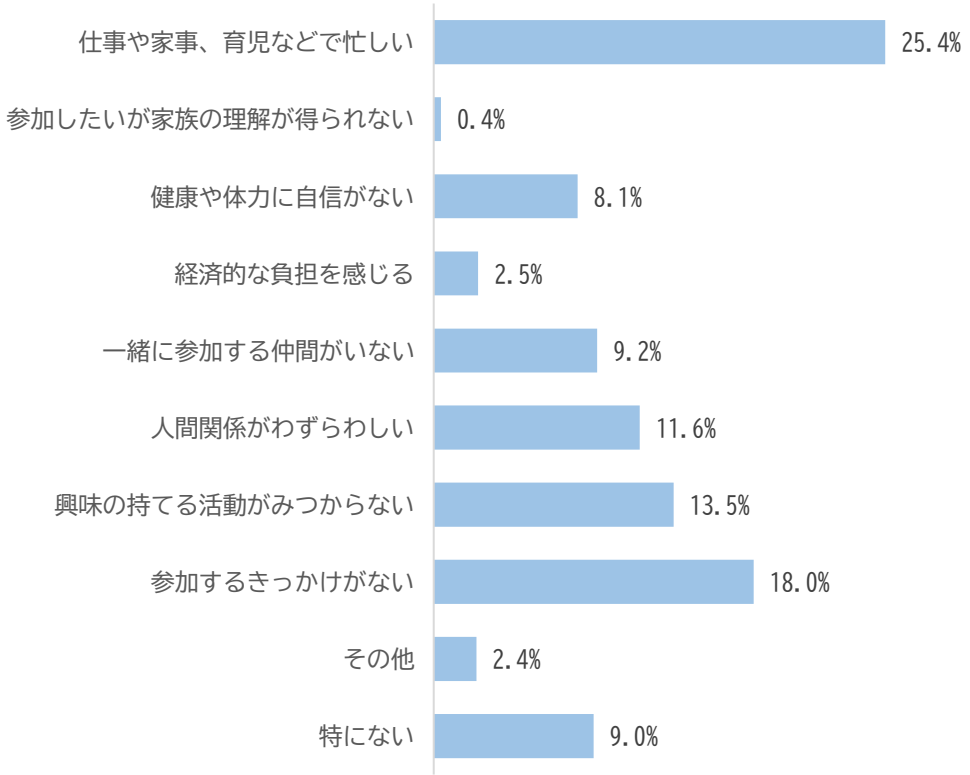
２－４　で「１～12」を☑した方

２－４－４　活動に参加しない、または参加できない理由は何ですか。【あてはまるもの全てに○】

● 活動に参加しない、または参加できない理由については、「仕事や家事、育児などで忙しい」がいる世帯が25.4%で最も多く、次に「参加するきっかけがない」（18.0%）、「興味の持てる活動がみつからない」（13.5%）でした。

2-4-4　活動に参加しない、参加できない理由

項目	回答数	割合（%）	ケースの割合（%）
1 仕事や家事、育児などで忙しい	214	25.4%	46.7%
2 参加したいが家族の理解が得られない	3	0.4%	0.7%
3 健康や体力に自信がない	68	8.1%	14.8%
4 経済的な負担を感じる	21	2.5%	4.6%
5 一緒に参加する仲間がいない	78	9.2%	17.0%
6 人間関係がわずらわしい	98	11.6%	21.4%
7 興味の持てる活動がみつからない	114	13.5%	24.9%
8 参加するきっかけがない	152	18.0%	33.2%
9 その他	20	2.4%	4.4%
10 特にない	76	9.0%	16.6%
合計	844	100.0%	184.3%

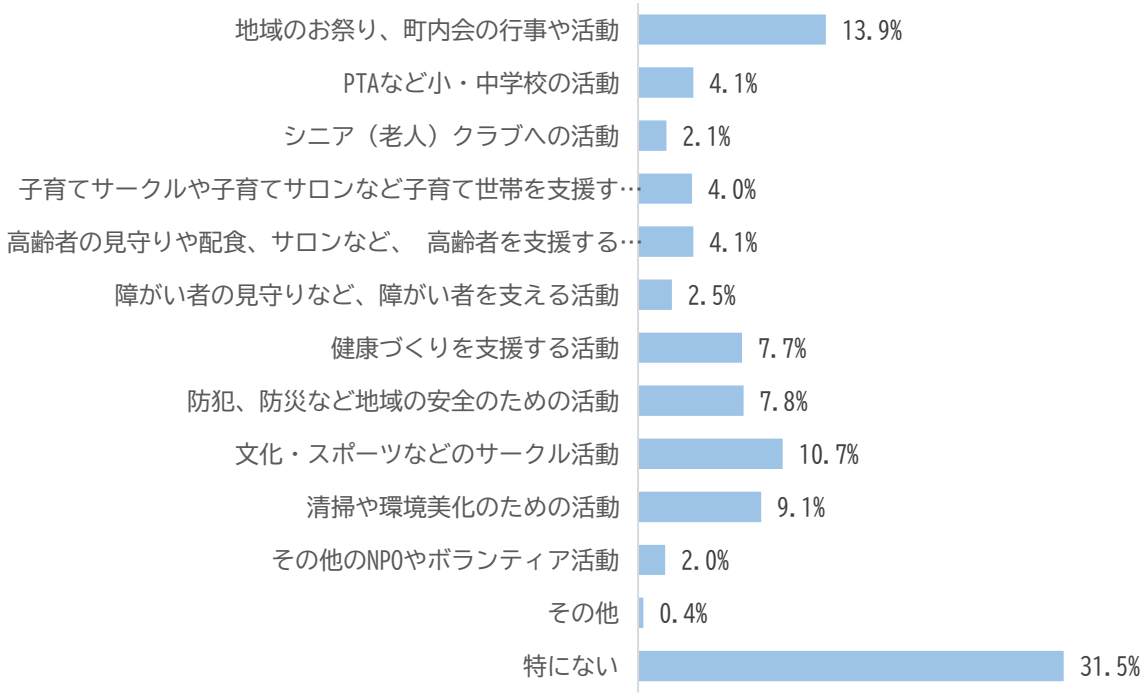


2－5　今後あなたが参加してみたいと思う活動は何ですか。【あてはまるもの全てに○】

● 今後参加してみたいと思う活動については、「特にない」が31.5%で最も多く、次に「地域のお祭り、町内会の行事や活動」（13.9%）、「文化・スポーツなどのサークル活動」（10.7%）でした。

2-5　今後参加してみたい活動

項目	回答数	割合（%）	ケースの割合（%）
1 地域のお祭り、町内会の行事や活動	164	13.9%	21.3%
2 PTA など小・中学校の活動	48	4.1%	6.2%
3 シニア（老人）クラブへの活動	25	2.1%	3.2%
4 子育てサークルや子育てサロンなど子育て世帯を支援する活動	47	4.0%	6.1%
5 高齢者の見守りや配食、サロンなど、 高齢者を支援する活動	48	4.1%	6.2%
6 障がい者の見守りなど、障がい者を支える活動	30	2.5%	3.9%
7 健康づくりを支援する活動	91	7.7%	11.8%
8 防犯、防災など地域の安全のための活動	92	7.8%	11.9%
9 文化・スポーツなどのサークル活動	126	10.7%	16.4%
10 清掃や環境美化のための活動	107	9.1%	13.9%
11 その他の NPO やボランティア活動	24	2.0%	3.1%
12 その他	5	0.4%	0.6%
13 特にない	371	31.5%	48.2%
合計	1,178	100.0%	153.0%

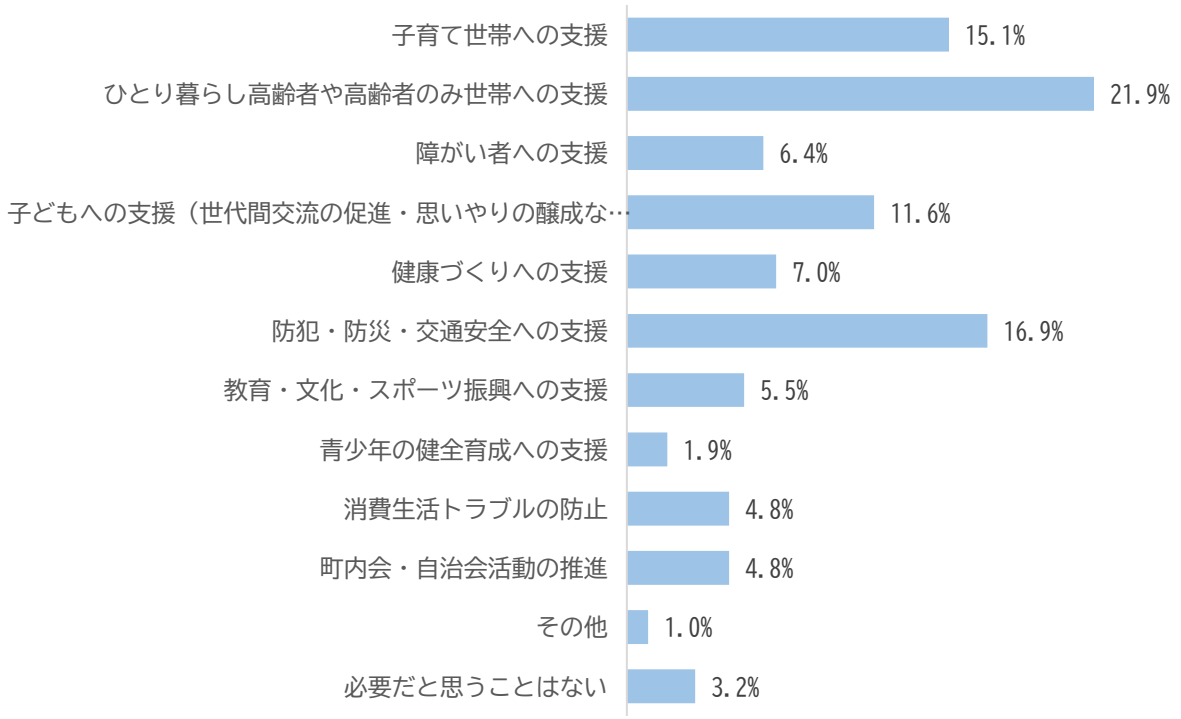


2－6　誰もが暮らしやすい地域を目指すために、住民が協力して取り組んでいくことが必要だと思うことは何ですか。【○は３つまで】

● 誰もが暮らしやすい地域を目指すために、住民が協力して取り組んでいくことは、「ひとり暮らし高齢者や高齢者のみ世帯への支援」が21.9%で最も多く、次に「防犯・防災・交通安全への支援」（16.9%）、「子育て世帯への支援」（15.1%）でした。

2-6　住民が協力して取り組んでいく必要があること

項目	回答数	割合（%）	ケースの割合（%）
1 子育て世帯への支援	267	15.1%	35.2%
2 ひとり暮らし高齢者や高齢者のみ世帯への支援	387	21.9%	51.1%
3 障がい者への支援	113	6.4%	14.9%
4 子どもへの支援（世代間交流の促進・思いやりの醸成など）	205	11.6%	27.0%
5 健康づくりへの支援	124	7.0%	16.4%
6 防犯・防災・交通安全への支援	299	16.9%	39.4%
7 教育・文化・スポーツ振興への支援	97	5.5%	12.8%
8 青少年の健全育成への支援	33	1.9%	4.4%
9 消費生活トラブルの防止	84	4.8%	11.1%
10 町内会・自治会活動の推進	84	4.8%	11.1%
11 その他	18	1.0%	2.4%
12 必要だと思うことはない	57	3.2%	7.5%
合計	1,768	100.0%	233.2%

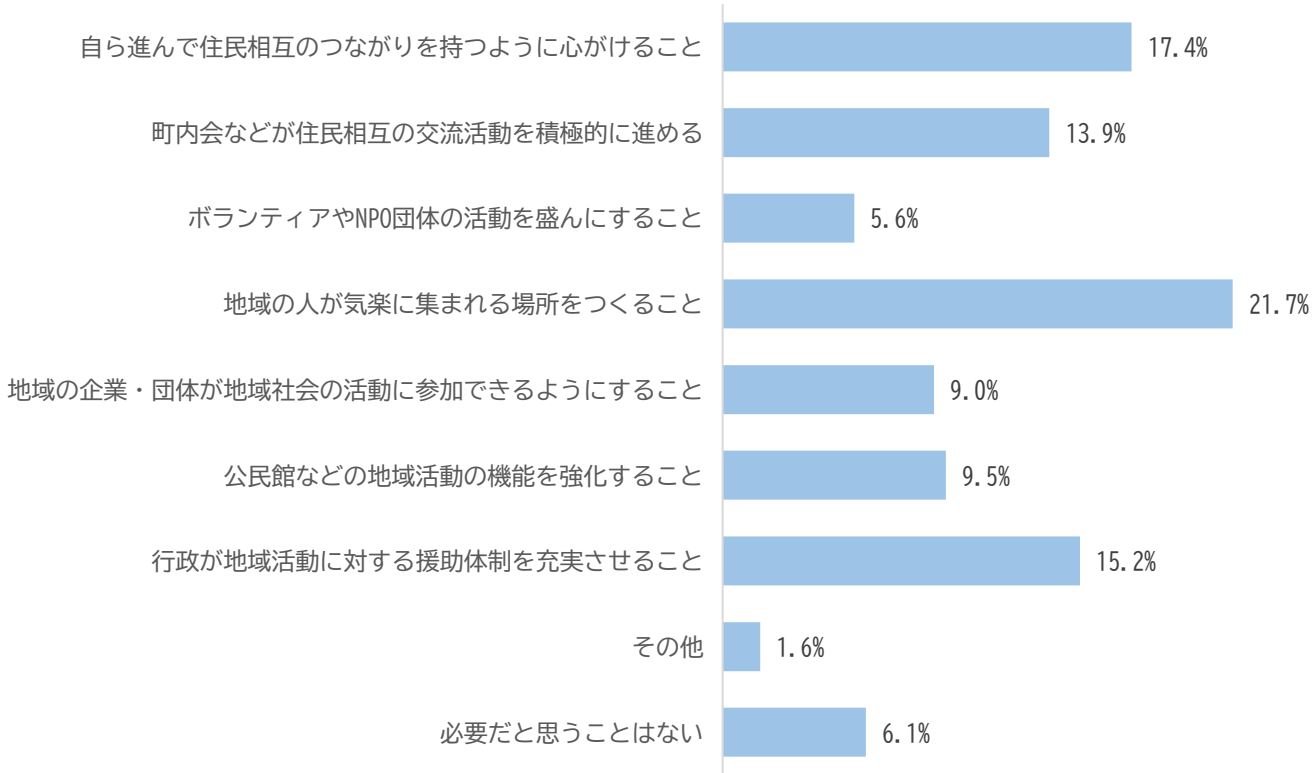


2－7　地域社会の問題に対して、住民がお互いに協力していくためには、どのようなことが必要だと考えますか。【○は３つまで】

● 地域社会の問題に住民が協力していくためには必要なことは、「地域の人が気楽に集まれる場所をつくること」が21.7%で最も多く、次に「自ら進んで日頃から住民相互のつながりを持つように心がけること」（17.4%）「行政が地域活動に対する相談窓口を設置するなど援助体制を充実させること」（15.2%）でした。

2-7　地域社会の問題に住民が協力していくために必要なこと

項目	回答数	割合（%）	ケースの割合（%）
1 自ら進んで住民相互のつながりを持つように心がけること	235	17.4%	30.5%
2 町内会などが住民相互の交流活動を積極的に進める	188	13.9%	24.4%
3 ボランティアや NPO 団体の活動を盛んにすること	76	5.6%	9.9%
4 地域の人が気楽に集まれる場所をつくること	292	21.7%	37.9%
5 地域の企業・団体が地域社会の活動に参加できるようにすること	121	9.0%	15.7%
6 公民館などの地域活動の機能を強化すること	128	9.5%	16.6%
7 行政が地域活動に対する援助体制を充実させること	205	15.2%	26.6%
8 その他	21	1.6%	2.7%
9 必要だと思うことはない	82	6.1%	10.6%
合計	1,348	100.0%	175.1%



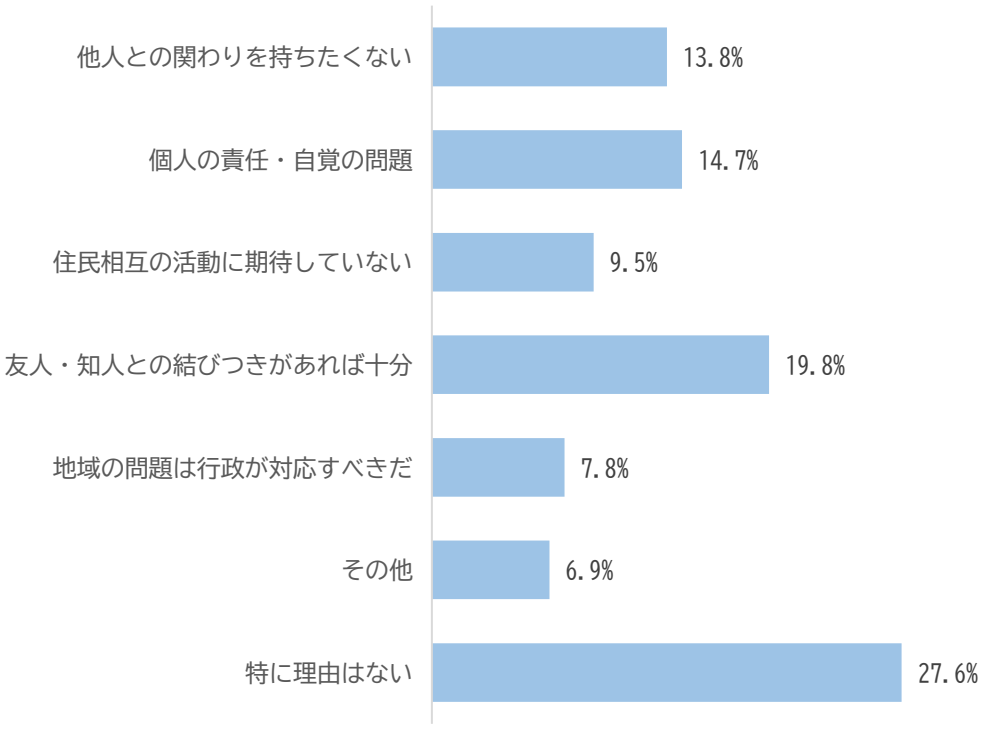
２－７　で「９」を☑した方

２－７－１　「必要だと思うことはない」理由は何ですか。【○は１つまで】

● 地域社会の問題に住民が協力していくことに対し、「必要だと思うことはない」理由は、「特に理由はない」が27.6%で最も多く、次に「友人・知人との結びつきがあれば十分」（19.8%）、「個人の責任・自覚の問題」（14.7%）でした。

2-7-1　必要だと思わない理由

項目	回答数	割合（%）
1 他人との関わりを持ちたくない	16	13.8%
2 個人の責任・自覚の問題	17	14.7%
3 住民相互の活動に期待していない	11	9.5%
4 友人・知人との結びつきがあれば十分	23	19.8%
5 地域の問題は行政が対応すべきだ	9	7.8%
6 その他	8	6.9%
7 特に理由はない	32	27.6%
合計	116	100.0%



● 「性別」と「近所が協力していく必要性を感じない」のクロス集計では、関連は見られませんでした（漸近有意確率0.100≧有意水準0.05）。

(1)性別 と 2－7－1 必要だと思わない理由 のクロス表

n=112

		2－7－1 必要だと思わない理由							
		他人との関わりを持ちたくない	個人の責任・自覚の問題	住民相互の活動に期待していない	友人・知人との結びつきがあれば十分	地域の問題は行政が対応すべきだ	その他	特に理由はない	合計
(1)性別	男	3	11	4	10	3	4	20	55
	女	13	5	6	12	4	3	11	54
	その他	0	0	1	0	1	0	1	3
合計		16	16	11	22	8	7	32	112

カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)
Pearson のカイ 2 乗	18.560[a]	12	.100
尤度比	18.565	12	.100
線型と線型による連関	2.559	1	.110
有効なケースの数	112		

a. 11 セル (52.4%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .19 です。

● 「年齢」と「近所が協力していく必要性を感じない」のクロス集計では、関連は見られませんでした（漸近有意確率0.239≧有意水準0.05）。

(2)年齢 と 2－7－1 必要だと思わない理由 のクロス表

n=112

		2－7－1 必要だと思わない理由							
		他人との関わりを持ちたくない	個人の責任・自覚の問題	住民相互の活動に期待していない	友人・知人との結びつきがあれば十分	地域の問題は行政が対応すべきだ	その他	特に理由はない	合計
(2)年齢	18～29歳	3	2	1	3	0	0	3	12
	30～39歳	3	1	2	6	0	3	5	20
	40～49歳	3	1	5	1	2	2	7	21
	50～59歳	5	6	0	5	2	0	7	25
	60～69歳	2	4	3	2	2	1	6	20
	70歳以上	0	1	0	6	2	1	4	14
合計		16	15	11	23	8	7	32	112

カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)
Pearson のカイ 2 乗	35.103[a]	30	.239
尤度比	43.812	30	.050
線型と線型による連関	.899	1	.343
有効なケースの数	112		

a. 37 セル (88.1%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .75 です。

● 「同居家族の構成」と「近所が協力していく必要性を感じない」のクロス集計では、関連は見られませんでした（漸近有意確率0.129≧有意水準0.05）。

⑶同居家族の構成 と ２－７－１ 必要だと思わない理由 のクロス表

n=114

		2－7－1 必要だと思わない理由							
		他人との関わりを持ちたくない	個人の責任・自覚の問題	住民相互の活動に期待していない	友人・知人との結びつきがあれば十分	地域の問題は行政が対応すべきだ	その他	特に理由はない	合計
⑶同居家族の構成	就学前の子ども	1	4	1	8	3	1	6	24
	小・中学生	8	11	7	10	5	3	12	56
	高校生	0	1	1	1	0	0	4	7
	65歳以上の高齢者	1	0	2	2	1	0	4	10
	要介護又は要支援認定を受けている	6	0	0	2	0	3	6	17
合計		16	16	11	23	9	7	32	114

カイ２乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ 2 乗	31.935[a]	24	.129
尤度比	38.001	24	.035
線型と線型による連関	.372	1	.542
有効なケースの数	114		

a. 29 セル (82.9%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .43 です。

● 「同居年数」と「近所が協力していく必要性を感じない」のクロス集計では、関連（同居年数による違い）が見られました（漸近有意確率0.021≦有意水準0.05）。

⑻居住年数 と ２－７－１ 必要だと思わない理由 のクロス表

n=115

		2－7－1 必要だと思わない理由							
		他人との関わりを持ちたくない	個人の責任・自覚の問題	住民相互の活動に期待していない	友人・知人との結びつきがあれば十分	地域の問題は行政が対応すべきだ	その他	特に理由はない	合計
⑻居住年数	1年未満	0	0	1	0	0	0	1	2
	1年以上5年未満	1	1	1	3	0	2	6	14
	5年以上10年未満	2	0	3	4	2	4	1	16
	10年以上30年未満	10	12	2	11	5	0	10	50
	30年以上	3	4	4	5	1	2	14	33
合計		16	17	11	23	8	8	32	115

カイ２乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ 2 乗	39.989[a]	24	.021
尤度比	43.664	24	.008
線型と線型による連関	.251	1	.617
有効なケースの数	115		

a. 29 セル (82.9%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .14 です。

● 「職業」と「近所が協力していく必要性を感じない」のクロス集計では、関連は見られませんでした（漸近有意確率0.062≧有意水準0.05）。

⑼現在の職業 と 2－7－1 必要だと思わない理由 のクロス表

n=113

		2－7－1 必要だと思わない理由							
		他人との関わりを持ちたくない	個人の責任・自覚の問題	住民相互の活動に期待していない	友人・知人との結びつきがあれば十分	地域の問題は行政が対応すべきだ	その他	特に理由はない	合計
⑼現在の職業	自営・経営者	0	1	2	3	0	0	4	10
	従業員など雇われている	11	12	6	12	4	3	15	63
	学生・生徒	1	0	0	3	0	0	2	6
	家事専業	1	0	2	1	2	0	0	6
	無職	3	3	1	2	2	1	8	20
	その他	0	1	0	1	0	3	3	8
合計		16	17	11	22	8	7	32	113

カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)
Pearson のカイ 2 乗	42.702[a]	30	.062
尤度比	41.069	30	.086
線型と線型による連関	2.400	1	.121
有効なケースの数	113		

a. 36 セル (85.7%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .37 です。

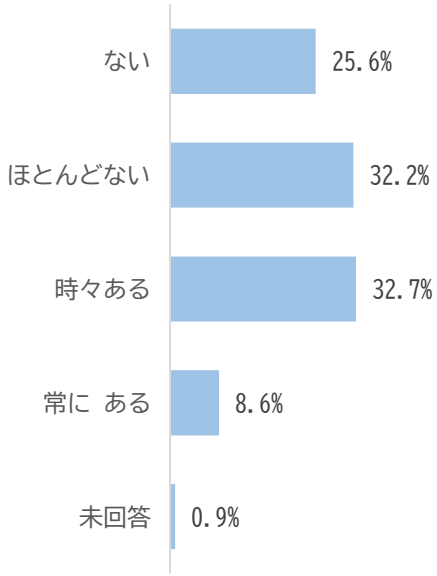
Ⅲ 人とのつながりについて

3－1　人とのつながりについて、どのように考えていますか。【それぞれ○は１つまで】

● ① 人とのつきあいがないと感じることがあるかについては、「時々ある」が32.7%で、次に「ほとんどない」(32.2%)とほぼ同数で、次に「ない」(25.6%)でした。

① 人とのつきあいがないと感じることがあるか

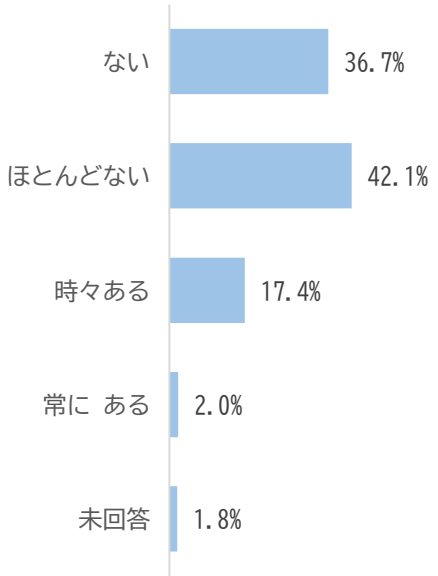
項目	回答数	割合（%）
1 ない	200	25.6%
2 ほとんどない	252	32.2%
3 時々ある	256	32.7%
4 常にある	67	8.6%
未回答	7	0.9%
合計	782	100.0%



● ② 自分は取り残されていると感じることがあるかについては、「ほとんどない」が42.1%で最も多く、次に「ない」(36.7%)、「時々ある」(17.4%)でした。

② 自分は取り残されていると感じることがあるか

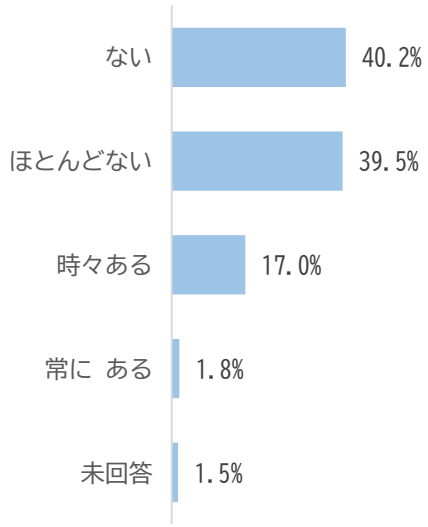
項目	回答数	割合（%）
1 ない	287	36.7%
2 ほとんどない	329	42.1%
3 時々ある	136	17.4%
4 常にある	16	2.0%
未回答	14	1.8%
合計	782	100.0%



● ③ 自分は他の人たちから孤立していると感じることがあるかについては、「ない」が40.2%で最も多く、次に「ほとんどない」(39.5%)、「時々ある」(17.0%)でした。

③　自分は他の人たちから孤立していると感じることがあるか

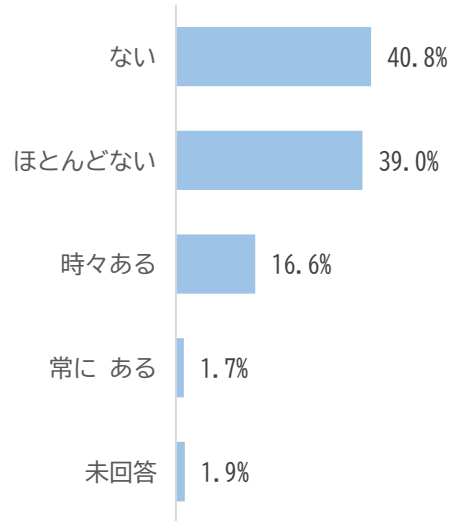
項目	回答数	割合（%）
1 ない	314	40.2%
2 ほとんどない	309	39.5%
3 時々ある	133	17.0%
4 常にある	14	1.8%
未回答	12	1.5%
合計	782	100.0%



● ④ 孤独であると感じることがあるかについては、「ない」が40.8%で最も多く、次にほとんどない」(39.0%)、「時々ある」(16.6%)でした。

④　孤独であると感じることがあるか

項目	回答数	割合（%）
1 ない	319	40.8%
2 ほとんどない	305	39.0%
3 時々ある	130	16.6%
4 常にある	13	1.7%
未回答	15	1.9%
合計	782	100.0%

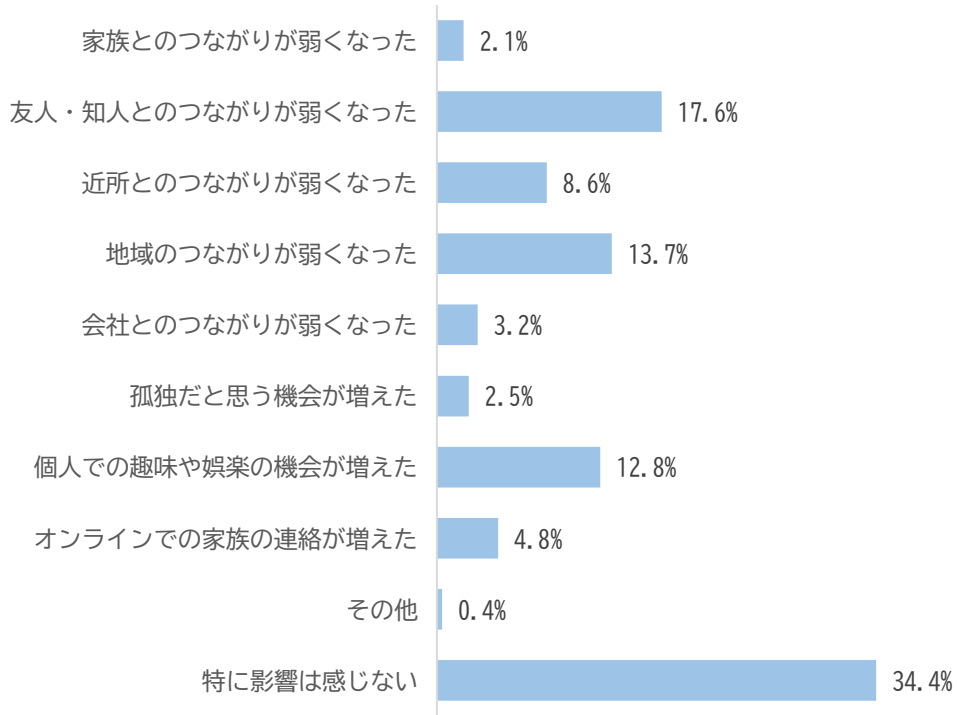


3－2　新型コロナウイルス感染症の感染拡大による外出の自粛要請によって「人とのつきあい・つながり」への影響を感じますか。【あてはまるもの全てに○】

● 感染拡大に伴う外出の自粛要請が「人とのつきあい・つながり」に与えた影響については、「特に影響は感じない」が34.4%で最も多く、次に「友人・知人とのつながりが弱くなった」（17.6%）、「地域のつながりが弱くなった」（13.7%）でした。

3-2　新型コロナウイルス感染症の感染拡大による「人とのつきあい・つながり」への影響

項目	回答数	割合（%）	ケースの割合（%）
1 家族とのつながりが弱くなった	23	2.1%	3.0%
2 友人・知人とのつながりが弱くなった	195	17.6%	25.3%
3 近所とのつながりが弱くなった	95	8.6%	12.3%
4 地域のつながりが弱くなった	152	13.7%	19.7%
5 会社とのつながりが弱くなった	35	3.2%	4.5%
6 孤独だと思う機会が増えた	28	2.5%	3.6%
7 個人での趣味や娯楽の機会が増えた	142	12.8%	18.4%
8 オンラインでの家族の連絡が増えた	53	4.8%	6.9%
9 その他	4	0.4%	0.5%
10 特に影響は感じない	381	34.4%	49.4%
合計	1,107	100.0	143.7%



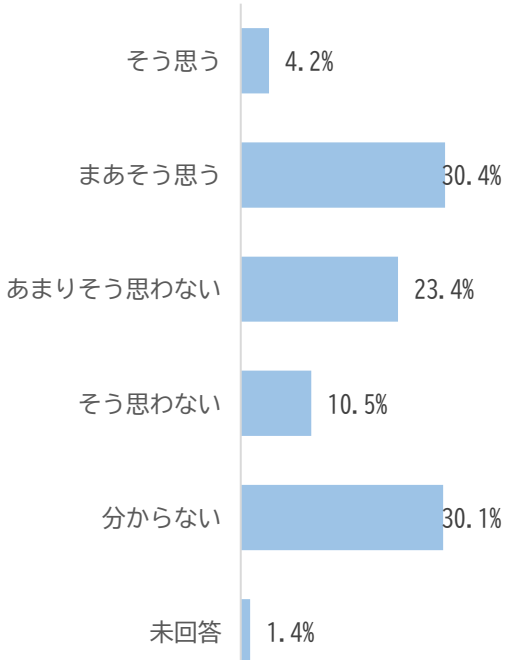
3－3　八戸市が年齢や性別など*1 が異なっていても、多様性が尊重され、どのような立場にある 人も自分らしくいられるまちだと感じるか。【○は１つまで】

※1 年齢、性別、性的指向や性自認、障がいや病気の有無、家族の形、職業、経済状況、国籍、文化的背景など

● 八戸市が年齢や性別などが異なっていても、多様性が尊重され、どのような立場にある人も自分らしくいられるまちだと感じるかについては、「まあそう思う」が30.4%で最も多く、次に「分からない」（30.1%）、「あまりそう思わない」（23.4%）でした。

3-3 八戸市は多様性が尊重されている

項目	回答数	割合（%）
1 そう思う	33	4.2%
2 まあそう思う	238	30.4%
3 あまりそう思わない	183	23.4%
4 そう思わない	82	10.5%
5 分からない	235	30.1%
未回答	11	1.4%
合計	782	100.0%



● 「性別」と「八戸市は多様性が尊重され自分らしくいられるまちである」のクロス集計では、関連（男女による違い）が見られました（漸近有意確率0.037≦有意水準0.05）。

(1)性別 と 3-3-7八戸市は多様性が尊重され自分らしくいられるまちである のクロス表

n=761

		3-3-7八戸市は多様性が尊重され自分らしくいられるまちである					
		そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	合計
(1)性別	男	23	109	76	33	102	343
	女	10	124	106	46	129	415
	その他	0	0	0	0	3	3
合計		33	233	182	79	234	761

カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)
Pearson のカイ 2 乗	16.394[a]	8	.037
尤度比	16.762	8	.033
線型と線型による連関	3.650	1	.056
有効なケースの数	761		

a. 5 セル (33.3%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .13 です。

● 「年齢」と「八戸市は多様性が尊重され自分らしくいられるまちである」のクロス集計では、関連は見られませんでした（漸近有意確率0.077≧有意水準0.05）。

(2)年齢 と 3-3-7八戸市は多様性が尊重され自分らしくいられるまちである のクロス表

n=762

		3-3-7八戸市は多様性が尊重され自分らしくいられるまちである					
		そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	合計
(2)年齢	18～29歳	2	26	13	5	12	58
	30～39歳	5	30	27	16	32	110
	40～49歳	3	34	40	21	40	138
	50～59歳	7	55	39	18	53	172
	60～69歳	7	49	44	12	62	174
	70歳以上	9	40	20	6	35	110
合計		33	234	183	78	234	762

カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)
Pearson のカイ 2 乗	29.569[a]	20	.077
尤度比	29.069	20	.086
線型と線型による連関	.084	1	.772
有効なケースの数	762		

a. 3 セル (10.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 2.51 です。

● 「同居家族の構成」と「八戸市は多様性が尊重され自分らしくいられるまちである」のクロス集計では、関連（同居家族の有無による違い）が見られました（漸近有意確率0.023≦有意水準0.05）。

⑶同居家族の構成 と 3-3-7八戸市は多様性が尊重され自分らしくいられるまちである のクロス表

n=762

		3-3-7八戸市は多様性が尊重され自分らしくいられるまちである					
		そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	合計
⑶同居家族の構成	就学前の子ども	11	64	46	13	62	196
	小・中学生	12	100	100	49	101	362
	高校生	3	24	16	8	16	67
	65歳以上の高齢者	1	15	9	1	19	45
	要介護又は要支援認定を受けている	6	30	11	8	37	92
合計		33	233	182	79	235	762

カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)
Pearson のカイ 2 乗	29.186[a]	16	.023
尤度比	31.462	16	.012
線型と線型による連関	.999	1	.317
有効なケースの数	762		

a. 4 セル (16.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 1.95 です。

● 「同居年数」と「八戸市は多様性が尊重され自分らしくいられるまちである」のクロス集計では、関連は見られませんでした（漸近有意確率0.561≧有意水準0.05）。

⑻居住年数 と 3-3-7八戸市は多様性が尊重され自分らしくいられるまちである のクロス表

n=763

		3-3-7八戸市は多様性が尊重され自分らしくいられるまちである					
		そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	合計
⑻居住年数	1年未満	0	8	5	0	5	18
	1年以上5年未満	5	23	25	11	32	96
	5年以上10年未満	4	28	24	16	28	100
	10年以上30年未満	14	85	70	30	77	276
	30年以上	10	90	59	22	92	273
合計		33	234	183	79	234	763

カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)
Pearson のカイ 2 乗	14.501[a]	16	.561
尤度比	16.777	16	.400
線型と線型による連関	.026	1	.872
有効なケースの数	763		

a. 5 セル (20.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .78 です。

● 「現在の職業」と「八戸市は多様性が尊重され自分らしくいられるまちである」のクロス集計では、関連（職業による違い）が見られました（漸近有意確率0.007≦有意水準0.05）。

⑼現在の職業 と 3-3-7八戸市は多様性が尊重され自分らしくいられるまちである のクロス表

n=760

		3-3-7八戸市は多様性が尊重され自分らしくいられるまちである					
		そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	合計
⑼現在の職業	自営・経営者	5	15	9	6	12	47
	従業員など雇われている	16	134	122	52	136	460
	学生・生徒	2	15	6	2	7	32
	家事専業	0	11	12	6	21	50
	無職	7	45	16	9	48	125
	その他	3	15	17	5	6	46
合計		33	235	182	80	230	760

カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)
Pearson のカイ 2 乗	38.951[a]	20	.007
尤度比	41.528	20	.003
線型と線型による連関	.078	1	.780
有効なケースの数	760		

a. 7 セル (23.3%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 1.39 です。

Ⅳ 生活する上での課題について

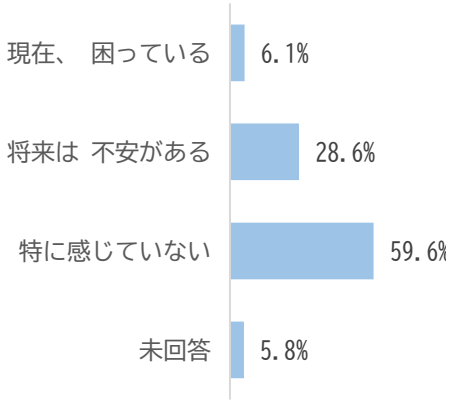
4－1　日常生活に関することで、困っていることや不安に思っていること（生活課題）。

【それぞれ○は１つまで】

● 1 子どもの養育や教育のことについては、「特に感じていない」が59.6%で、「将来は 不安がある」が28.6%でした。

1　子どもの養育や教育のこと

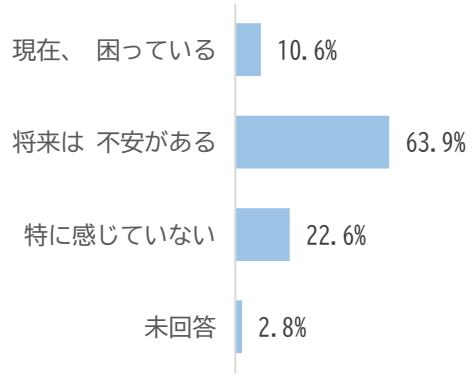
項目	回答数	割合（%）
1 現在、 困っている	48	6.1%
2 将来は不安がある	224	28.6%
3 特に感じていない	466	59.6%
未回答	45	5.8%
合計	782	100.0%



● 2　自分や家族の病気や健康のことについては、「将来は 不安がある」が63.9%で、「特に感じていない」が22.6%でした。

2　自分や家族の病気や健康のこと

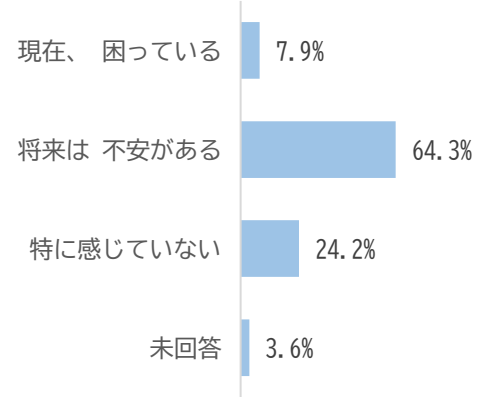
項目	回答数	割合（%）
1 現在、 困っている	83	10.6%
2 将来は不安がある	500	63.9%
3 特に感じていない	177	22.6%
未回答	22	2.8%
合計	782	100.0%



● 3　家族の世話、医療・介護のことについては、「将来は 不安がある」が64.3%で最も多く、次に「特に感じていない」（24.2%）、「現在、 困っている」（7.9%）でした。

3　家族の世話、医療・介護のこと

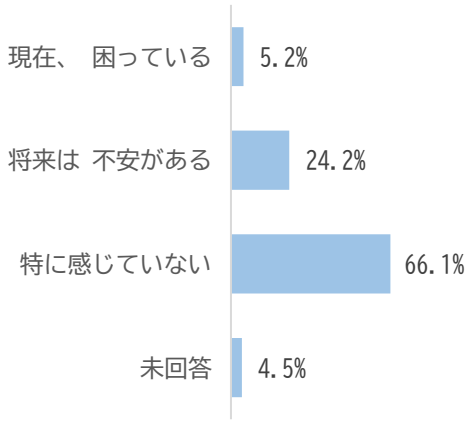
項目	回答数	割合（%）
1 現在、困っている	62	7.9%
2 将来は不安がある	503	64.3%
3 特に感じていない	189	24.2%
未回答	28	3.6%
合計	782	100.0%



● 4　地域や職場、学校などでの人間関係のことについては、「特に感じていない」が66.1%で、「将来は 不安がある」が24.2%でした。

4　地域や職場、学校などでの人間関係のこと

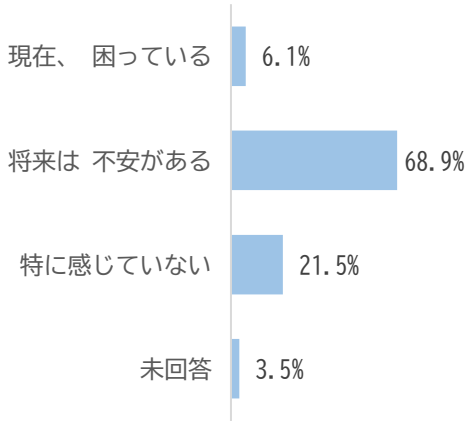
項目	回答数	割合（%）
1 現在、困っている	41	5.2%
2 将来は不安がある	189	24.2%
3 特に感じていない	517	66.1%
未回答	35	4.5%
合計	782	100.0%



● 5　自分や家族の将来の生活のことについては、「将来は 不安がある」が68.9%で、「特に感じていない」が21.5%でした。

5　自分や家族の将来の生活のこと

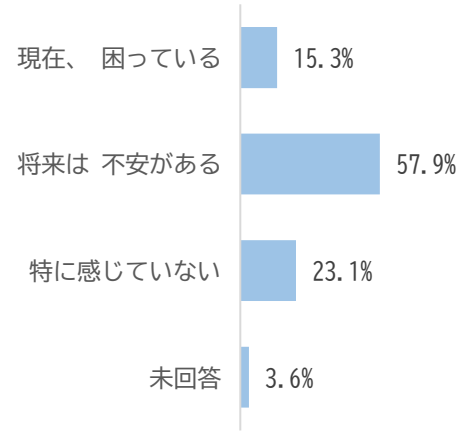
項目	回答数	割合（%）
1 現在、困っている	48	6.1%
2 将来は不安がある	539	68.9%
3 特に感じていない	168	21.5%
未回答	27	3.5%
合計	782	100.0%



● 6　収入など経済面のことについては、「将来は 不安がある」が57.9%で最も多く、次に「特に感じていない」（23.1%）、「現在、 困っている」（15.3%）でした。

6　収入など経済面のこと

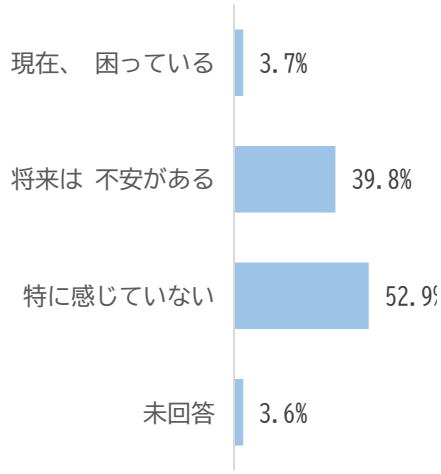
項目	回答数	割合（%）
1 現在、困っている	120	15.3%
2 将来は不安がある	453	57.9%
3 特に感じていない	181	23.1%
未回答	28	3.6%
合計	782	100.0%



● 7 地域の防犯・治安のことについては、「特に感じていない」が52.9%で、「将来は 不安がある」が39.8%でした。

7　地域の防犯・治安のこと

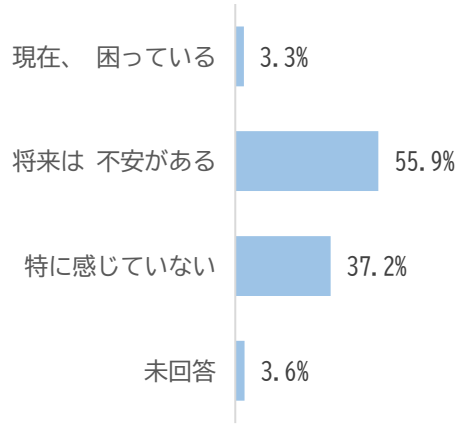
項目	回答数	割合（%）
1 現在、困っている	29	3.7%
2 将来は不安がある	311	39.8%
3 特に感じていない	414	52.9%
未回答	28	3.6%
合計	782	100.0%



● 8 地震や大雨などの自然災害時の避難のことについては、「将来は 不安がある」が55.9%で、「特に感じていない」が37.2%でした。

8　地震や大雨などの自然災害時の避難のこと

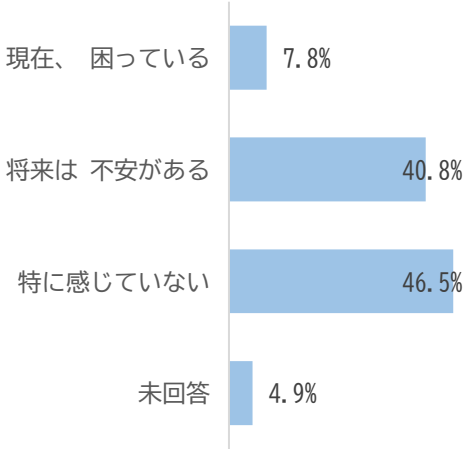
項目	回答数	割合（%）
1 現在、困っている	26	3.3%
2 将来は不安がある	437	55.9%
3 特に感じていない	291	37.2%
未回答	28	3.6%
合計	782	100.0%



● 9 就労や仕事（雇用・就職・転職・失業など）のことについては、「特に感じていない」が46.5%で、「将来は 不安がある」が40.8%でした。

9　就労や仕事（雇用・就職・転職・失業など）のこと

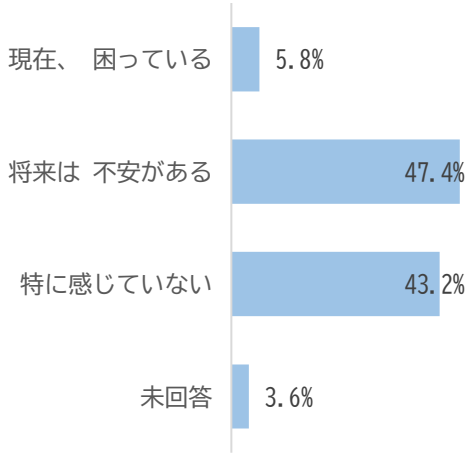
項目	回答数	割合（%）
1 現在、困っている	61	7.8%
2 将来は不安がある	319	40.8%
3 特に感じていない	364	46.5%
未回答	38	4.9%
合計	782	100.0%



● 10 お金の管理や契約などの判断のことについては、「将来は 不安がある」が47.4%で、「特に感じていない」が43.2%でした。

10　お金の管理や契約などの判断のこと

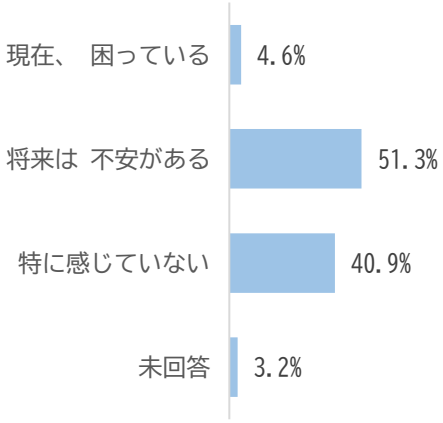
項目	回答数	割合（%）
1 現在、困っている	45	5.8%
2 将来は不安がある	371	47.4%
3 特に感じていない	338	43.2%
未回答	28	3.6%
合計	782	100.0%



● 11 財産の管理や処分のことについては、「将来は 不安がある」が51.3%で、「特に感じていない」が40.9%でした。

11　財産の管理や処分のこと

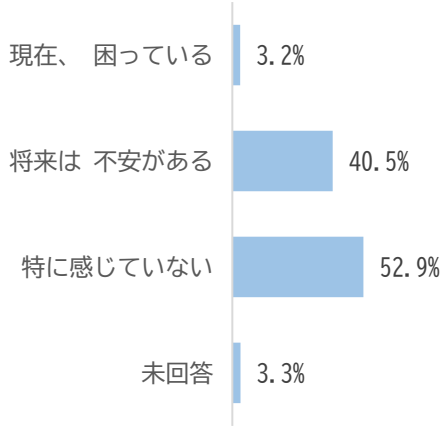
項目	回答数	割合（%）
1 現在、困っている	36	4.6%
2 将来は不安がある	401	51.3%
3 特に感じていない	320	40.9%
未回答	25	3.2%
合計	782	100.0%



● 12 日常の外出や通院、買い物のことについては、「特に感じていない」が52.9%で、「将来は 不安がある」が40.5%でした。

12　日常の外出や通院、買い物のこと

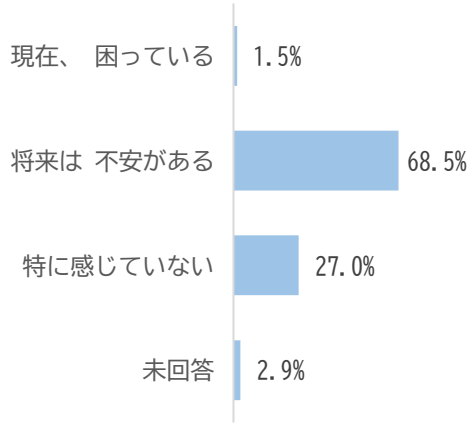
項目	回答数	割合（%）
1 現在、困っている	25	3.2%
2 将来は不安がある	317	40.5%
3 特に感じていない	414	52.9%
未回答	26	3.3%
合計	782	100.0%



● 13 高齢になってからの一人暮らしのことについては、「将来は 不安がある」が68.5%で最も多く、「特に感じていない」が27.0%でした。

13　高齢になってからの一人暮らしのこと

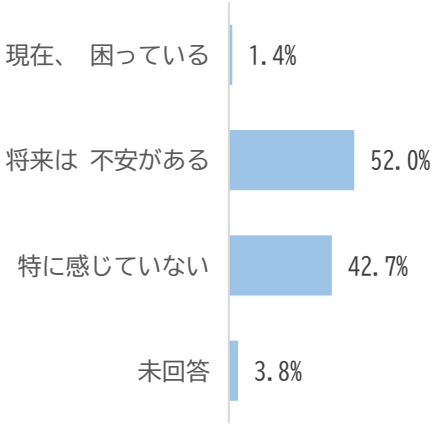
項目	回答数	割合（%）
1 現在、困っている	12	1.5%
2 将来は不安がある	536	68.5%
3 特に感じていない	211	27.0%
未回答	23	2.9%
合計	782	100.0%



● 14 子どもから世話を受け迷惑をかけることについては、「将来は 不安がある」が52.0%で、「特に感じていない」が42.7%でした。

14　子どもから世話を受け迷惑をかけること

項目	回答数	割合（%）
1 現在、困っている	11	1.4%
2 将来は不安がある	407	52.0%
3 特に感じていない	334	42.7%
未回答	30	3.8%
合計	782	100.0%

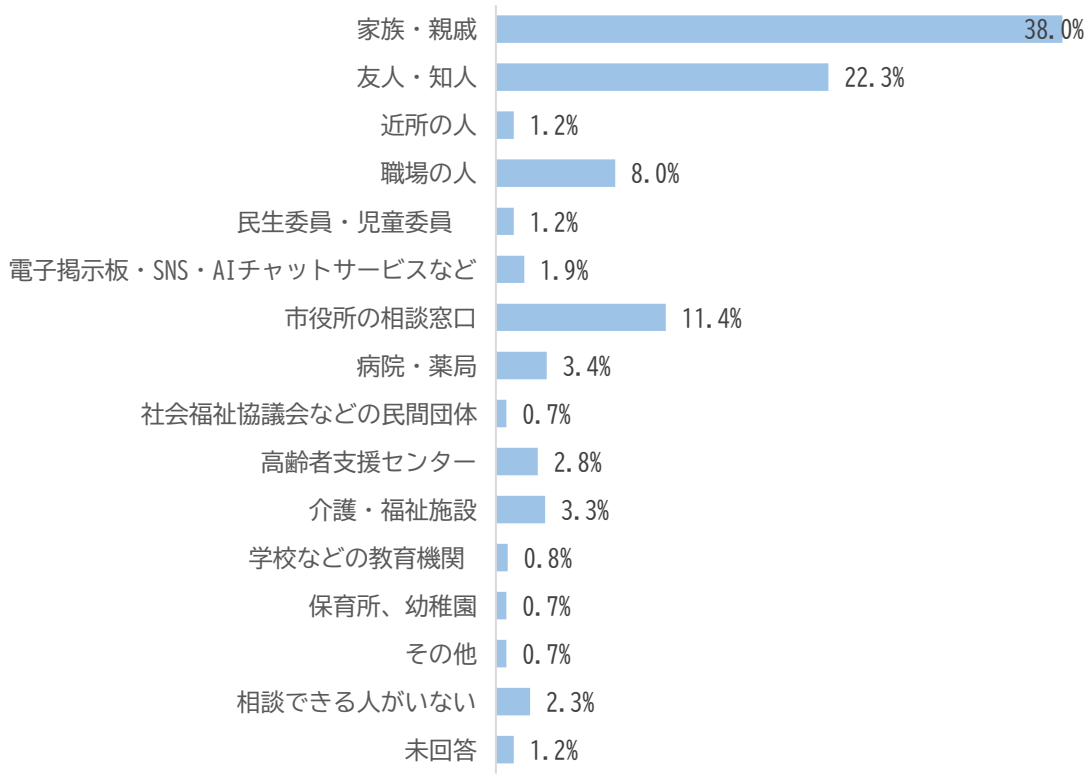


4－2　日常生活に関することで、困っていることや不安に思っていること（生活課題）を、誰に相談したいと思いますか。【○は３つまで】

● 日常生活に関することで、困っていることや不安に思っていること（生活課題）を、誰に相談したいかについては、「家族・親戚」が38.0%で最も多く、次に「友人・知人」（22.3%）、「市役所の相談窓口」（11.4%）でした。

4-2　困っていることや不安に思っていることを誰に相談したいか

項目	回答数	割合（%）
1 家族・親戚	615	38.0%
2 友人・知人	361	22.3%
3 近所の人	20	1.2%
4 職場の人	130	8.0%
5 民生委員・児童委員	19	1.2%
6 電子掲示板・SNS・AI チャットサービスなど	31	1.9%
7 市役所の相談窓口	184	11.4%
8 病院・薬局	55	3.4%
9 社会福祉協議会などの民間団体	12	0.7%
10 高齢者支援センター	45	2.8%
11 介護・福祉施設	53	3.3%
12 学校などの教育機関	13	0.8%
13 保育所、幼稚園	12	0.7%
14 その他	12	0.7%
15 相談できる人がいない	38	2.3%
未回答	20	1.2%
合計	1,620	100.0%

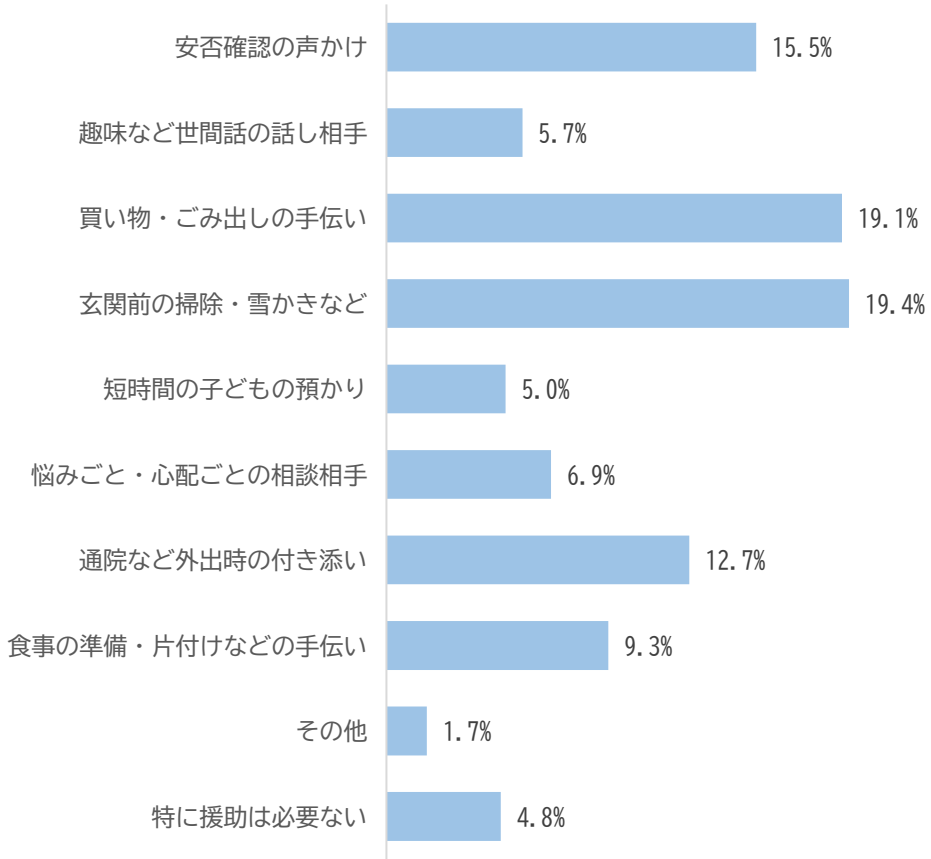


4－3　日常生活が不自由になったとき（高齢・病気・ケガ・要介護など）、地域でどのような援助 をしてほしいと思いますか。【○は３つまで】

● 日常生活が不自由になったとき（高齢・病気・ケガ・要介護など）、地域でどのような援助をしてほしいかについては、「玄関前の掃除・雪かきなど」が19.4%で最も多く、次に「買い物・ごみ出しの手伝い」（19.1%）、「安否確認の声かけ」（15.5%）でした。

4-3　不自由になったとき地域で援助してほしいこと

項目	回答数	割合（%）	ケースの割合（%）
1 安否確認の声かけ	263	15.5%	34.9%
2 趣味など世間話の話し相手	96	5.7%	12.7%
3 買い物・ごみ出しの手伝い	324	19.1%	43.0%
4 玄関前の掃除・雪かきなど	328	19.4%	43.5%
5 短時間の子どもの預かり	84	5.0%	11.1%
6 悩みごと・心配ごとの相談相手	117	6.9%	15.5%
7 通院など外出時の付き添い	215	12.7%	28.5%
8 食事の準備・片付けなどの手伝い	157	9.3%	20.8%
9 その他	28	1.7%	3.7%
10 特に援助は必要ない	82	4.8%	10.9%
合計	1,694	100.0%	224.7%

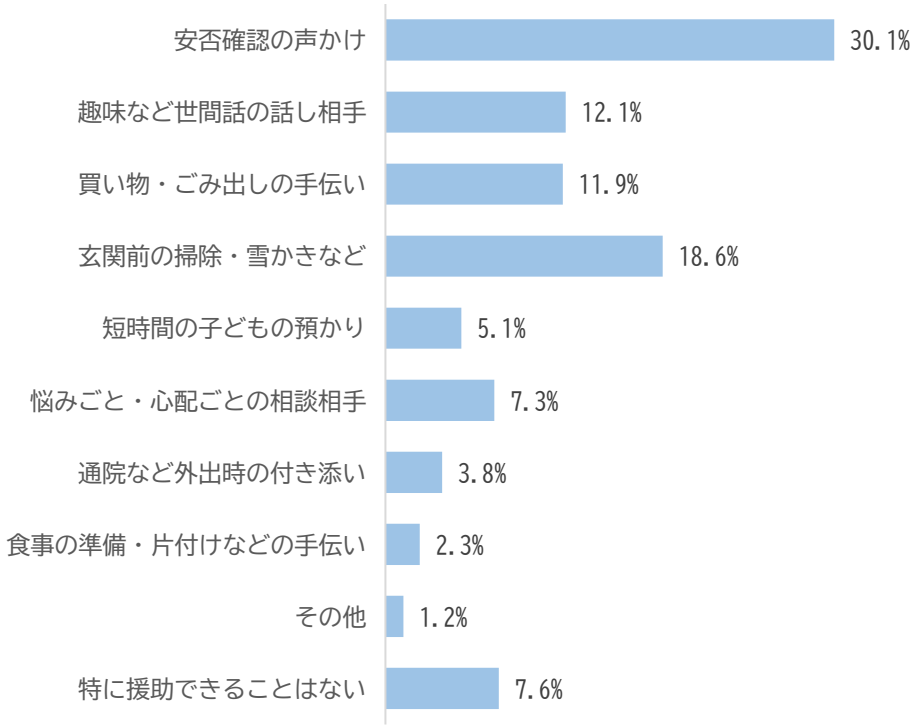


4－4　もし近くで、高齢・障がい・子育てなどで困っている人がいた場合、あなたが手助けできることは何ですか。【○は３つまで】

● 近くで、高齢・障がい・子育てなどで困っている人がいた場合、手助けできることについては、「安否確認の声かけ」が30.1%で最も多く、次に「玄関前の掃除・雪かきなど」（18.6%）、「趣味など世間話の話し相手」（12.1%）でした。

4-4　近くで困っている人に手助けできること

項目	回答数	割合（%）	ケースの割合（%）
1 安否確認の声かけ	464	30.1%	59.9%
2 趣味など世間話の話し相手	187	12.1%	24.2%
3 買い物・ごみ出しの手伝い	183	11.9%	23.6%
4 玄関前の掃除・雪かきなど	287	18.6%	37.1%
5 短時間の子どもの預かり	79	5.1%	10.2%
6 悩みごと・心配ごとの相談相手	113	7.3%	14.6%
7 通院など外出時の付き添い	58	3.8%	7.5%
8 食事の準備・片付けなどの手伝い	35	2.3%	4.5%
9 その他	18	1.2%	2.3%
10 特に援助できることはない	117	7.6%	15.1%
合計	1,541	100.0%	199.1%



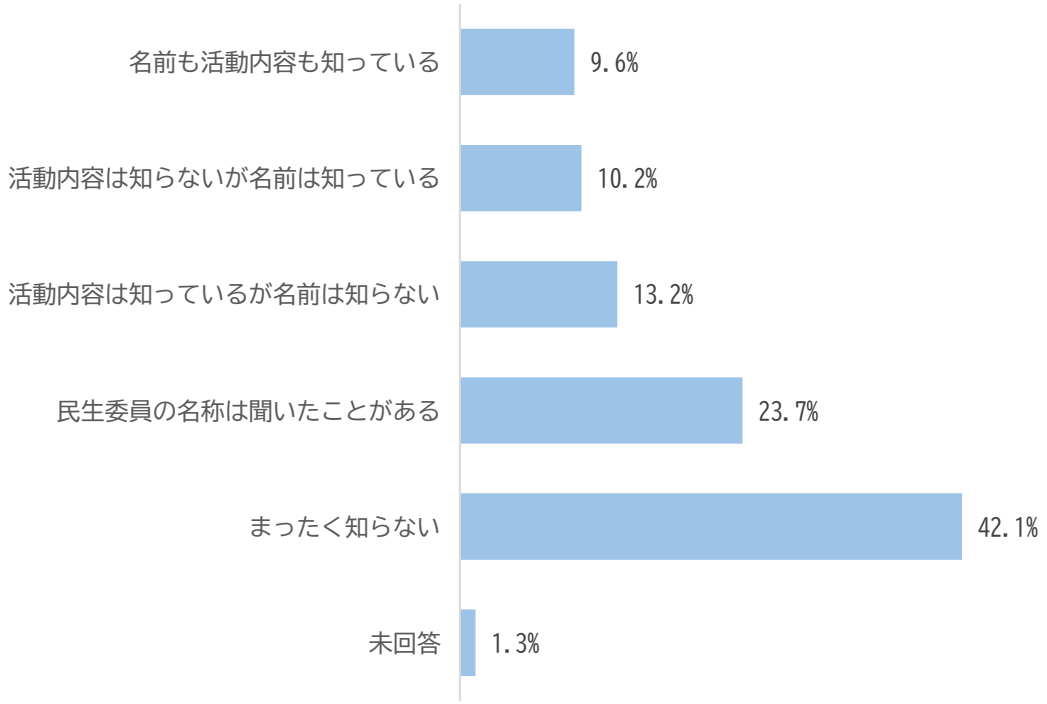
Ⅴ 地域福祉を進めるための取組について

5－1 あなたの地区を担当する民生委員・児童委員の名前と役割を知っていますか。【○は１つまで】

● 地区を担当する民生委員・児童委員の名前と役割については、「まったく知らない」が42.1%で最も多く、次に「民生委員の名称は聞いたことがある」(23.7%)、「活動内容は知っているが名前は知らない」(13.2%)でした。

5-1　地区の民生委員・児童委員について

項目	回答数	割合（%）
1 名前も活動内容も知っている	75	9.6%
2 活動内容は知らないが名前は知っている	80	10.2%
3 活動内容は知っているが名前は知らない	103	13.2%
4 民生委員の名称は聞いたことがある	185	23.7%
5 まったく知らない	329	42.1%
未回答	10	1.3%
合計	782	100.0%



● 「性別」と「地区の民生児童委員の認知度」のクロス集計では、関連（性別による違い）が見られました（漸近有意確率0.023≦有意水準0.05）。

(1)性別 と ５－１ 地区の民生委員・児童委員について のクロス表

n=761

		５－１ 地区の民生委員・児童委員について					
		名前も活動内容も知っている	活動内容は知らないが名前は知っている	活動内容は知っているが名前は知らない	民生委員の名称は聞いたことがある	まったく知らない	合計
(1)性別	男	32	36	37	69	169	343
	女	42	44	65	111	153	415
	その他	0	0	0	0	3	3
合計		74	80	102	180	325	761

カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ 2 乗	17.749[a]	8	.023
尤度比	18.900	8	.015
線型と線型による連関	2.913	1	.088
有効なケースの数	761		

a. 5 セル (33.3%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .29 です。

● 「年齢」と「地区の民生児童委員の認知度」のクロス集計では、関連（年齢による違い）が見られました（漸近有意確率0.001≦有意水準0.05）。

(2)年齢 と ５－１ 地区の民生委員・児童委員について のクロス表

n=762

		５－１ 地区の民生委員・児童委員について					
		名前も活動内容も知っている	活動内容は知らないが名前は知っている	活動内容は知っているが名前は知らない	民生委員の名称は聞いたことがある	まったく知らない	合計
(2)年齢	18～29歳	5	1	3	9	40	58
	30～39歳	3	4	11	22	72	112
	40～49歳	15	12	18	32	63	140
	50～59歳	10	17	30	41	73	171
	60～69歳	20	29	20	50	55	174
	70歳以上	22	17	20	28	20	107
合計		75	80	102	182	323	762

カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ 2 乗	95.964[a]	20	<.001
尤度比	100.262	20	<.001
線型と線型による連関	63.033	1	<.001
有効なケースの数	762		

a. 0 セル (0.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 5.71 です。

● 「同居家族の構成」と「地区の民生児童委員の認知度」のクロス集計では、関連（家族構成による違い）が見られました（漸近有意確率0.006≦有意水準0.05）。

⑶同居家族の構成 と ５－１ 地区の民生委員・児童委員について のクロス表

n=762

		５－１ 地区の民生委員・児童委員について					
		名前も活動内容も知っている	活動内容は知らないが名前は知っている	活動内容は知っているが名前は知らない	民生委員の名称は聞いたことがある	まったく知らない	合計
⑶同居家族の構成	就学前の子ども	24	29	26	57	59	195
	小・中学生	28	32	51	92	163	366
	高校生	7	10	10	10	30	67
	65歳以上の高齢者	4	4	3	10	23	44
	要介護又は要支援認定を受けている	11	5	11	13	50	90
合計		74	80	101	182	325	762

カイ２乗検定

	値	自由度	漸近有意確率（両側）
Pearson のカイ２乗	33.442[a]	16	.006
尤度比	34.833	16	.004
線型と線型による連関	5.840	1	.016
有効なケースの数	762		

a. 2 セル (8.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 4.27 です。

● 「自身が公的支援を受けている」と「地区の民生児童委員の認知度」のクロス集計では、関連は見られませんでした（漸近有意確率0.210≧有意水準0.05）。

⑸公的支援 と ５－１ 地区の民生委員・児童委員について のクロス表

n=772

		５－１ 地区の民生委員・児童委員について					
		名前も活動内容も知っている	活動内容は知らないが名前は知っている	活動内容は知っているが名前は知らない	民生委員の名称は聞いたことがある	まったく知らない	合計
⑸公的支援	受けている	8	4	5	18	14	49
	受けていない	66	73	96	163	310	708
	99	1	3	2	4	5	15
合計		75	80	103	185	329	772

カイ２乗検定

	値	自由度	漸近有意確率（両側）
Pearson のカイ２乗	10.863[a]	8	.210
尤度比	10.118	8	.257
線型と線型による連関	.290	1	.591
有効なケースの数	772		

a. 5 セル (33.3%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 1.46 です。

● 「同居家族が公的支援を受けている」と「地区の民生児童委員の認知度」のクロス集計では、関連（家族が公的支援を受けている）が見られました（漸近有意確率0.007≦有意水準0.05）。

(6)公的支援と５－１ 地区の民生委員・児童委員について のクロス表

n=748

		５－１ 地区の民生委員・児童委員について					
		名前も活動内容も知っている	活動内容は知らないが名前は知っている	活動内容は知っているが名前は知らない	民生委員の名称は聞いたことがある	まったく知らない	合計
(6)公的支援	受けている	7	4	9	26	20	66
	受けていない	51	61	79	141	241	573
	同居家族はいない	12	13	11	14	59	109
合計		70	78	99	181	320	748

カイ２乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ 2 乗	20.875[a]	8	.007
尤度比	21.345	8	.006
線型と線型による連関	.494	1	.482
有効なケースの数	748		

a. 0 セル (0.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 6.18 です。

● 「居住年数」と「地区の民生児童委員の認知度」のクロス集計では、関連（居住年数による違い）が見られました（漸近有意確率0.001≦有意水準0.05）。

(8)居住年数と５－１ 地区の民生委員・児童委員について のクロス表

n=764

		５－１ 地区の民生委員・児童委員について					
		名前も活動内容も知っている	活動内容は知らないが名前は知っている	活動内容は知っているが名前は知らない	民生委員の名称は聞いたことがある	まったく知らない	合計
(8)居住年数	1年未満	1	0	2	5	11	19
	1年以上5年未満	3	3	7	15	68	96
	5年以上10年未満	8	7	13	30	43	101
	10年以上30年未満	23	26	40	60	128	277
	30年以上	39	44	41	73	74	271
合計		74	80	103	183	324	764

カイ２乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ 2 乗	73.106[a]	16	<.001
尤度比	76.478	16	<.001
線型と線型による連関	50.867	1	<.001
有効なケースの数	764		

a. 4 セル (16.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 1.84 です。

● 「現在の職業」と「地区の民生児童委員の認知度」のクロス集計では、関連は見られませんでした（漸近有意確率0.113≧有意水準0.05）。

⑼現在の職業 と ５－１ 地区の民生委員・児童委員について のクロス表

度数

		５－１ 地区の民生委員・児童委員について					
		名前も活動内容も知っている	活動内容は知らないが名前は知っている	活動内容は知っているが名前は知らない	民生委員の名称は聞いたことがある	まったく知らない	合計
⑼現在の職業	自営・経営者	5	5	8	14	15	47
	従業員など雇われている	37	43	60	103	216	459
	学生・生徒	5	1	2	6	18	32
	家事専業	7	5	8	14	17	51
	無職	15	20	21	33	36	125
	その他	6	5	4	10	22	47
合計		75	79	103	180	324	761

カイ２乗検定

	値	自由度	漸近有意確率（両側）
Pearson のカイ 2 乗	27.858[a]	20	.113
尤度比	28.729	20	.093
線型と線型による連関	6.578	1	.010
有効なケースの数	761		

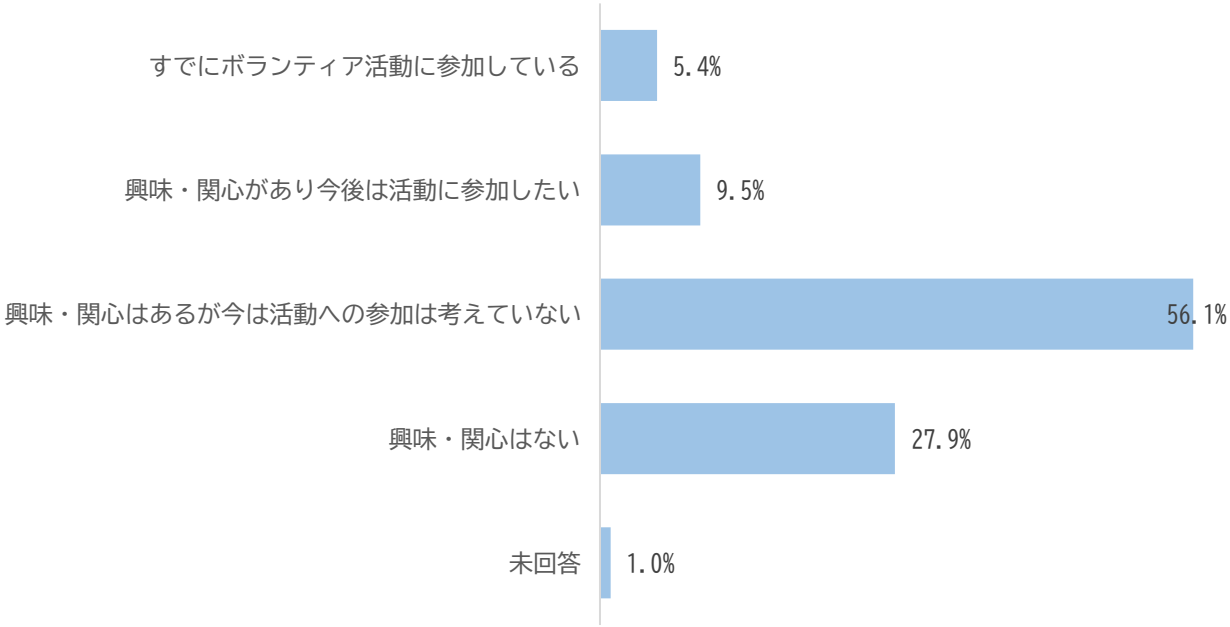
a. 7 セル (23.3%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 3.15 です。

５－２　あなたは、ボランティア活動に興味・関心がありますか。【○は１つまで】

● ボランティア活動に興味・関心があるかは、「興味・関心はあるが今は活動への参加は考えていない」が56.1%で最も多く、次に「興味・関心はない」が27.9%でした。

5-2　ボランティア活動に興味・関心について

項目	回答数	割合（%）
1 すでにボランティア活動に参加している	42	5.4%
2 興味・関心があり今後は活動に参加したい	74	9.5%
3 興味・関心はあるが今は活動への参加は考えていない	439	56.1%
4 興味・関心はない	218	27.9%
未回答	9	1.0%
合計	782	100.0%



● 「性別」と「ボランティア活動に興味・関心」のクロス集計では、関連は見られませんでした（漸近有意確率0.248≧有意水準0.05）。

(1)性別 と ５－２ ボランティア活動への興味・関心について のクロス表

n=762

		５－２ ボランティア活動への興味・関心について				
		すでにボランティア活動に参加している	興味・関心があり今後は活動に参加したい	興味・関心はあるが今は活動への参加は考えていない	興味・関心はない	合計
(1)性別	男	18	31	196	99	344
	女	24	39	238	114	415
	その他	0	0	0	3	3
合計		42	70	434	216	762

カイ２乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ 2 乗	7.866[a]	6	.248
尤度比	7.847	6	.250
線型と線型による連関	.014	1	.907
有効なケースの数	762		

a. 4 セル (33.3%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .17 です。

● 「年齢」と「ボランティア活動に興味・関心」のクロス集計では、関連（年齢による違い）が見られました（漸近有意確率0.037≦有意水準0.05）。

(2)年齢 と ５－２ ボランティア活動への興味・関心について のクロス表

n=763

		５－２ ボランティア活動への興味・関心について				
		すでにボランティア活動に参加している	興味・関心があり今後は活動に参加したい	興味・関心はあるが今は活動への参加は考えていない	興味・関心はない	合計
(2)年齢	18～29歳	7	6	28	17	58
	30～39歳	1	8	61	42	112
	40～49歳	2	15	89	34	140
	50～59歳	14	16	90	52	172
	60～69歳	12	13	103	45	173
	70歳以上	6	12	64	26	108
合計		42	70	435	216	763

カイ２乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ 2 乗	26.131[a]	15	.037
尤度比	28.610	15	.018
線型と線型による連関	2.120	1	.145
有効なケースの数	763		

a. 1 セル (4.2%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 3.19 です。

● 「同居家族の構成」と「ボランティア活動に興味・関心」のクロス集計では、関連は見られませんでした（漸近有意確率0.556≧有意水準0.05）。

⑶同居家族の構成 と ５－２ ボランティア活動への興味・関心について のクロス表

n=763

		５－２ ボランティア活動への興味・関心について				
		すでにボランティア活動に参加している	興味・関心があり今後は活動に参加したい	興味・関心はあるが今は活動への参加は考えていない	興味・関心はない	合計
⑶同居家族の構成	就学前の子ども	17	19	112	48	196
	小・中学生	17	33	212	106	368
	高校生	2	4	37	22	65
	65歳以上の高齢者	4	3	24	13	44
	要介護又は要支援認定を受けている	2	9	51	28	90
合計		42	68	436	217	763

カイ２乗検定

	値	自由度	漸近有意確率（両側）
Pearson のカイ２乗	10.687[a]	12	.556
尤度比	10.748	12	.551
線型と線型による連関	3.419	1	.064
有効なケースの数	763		

a. 4 セル (20.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 2.42 です。

● 「自身が公的支援を受けている」と「ボランティア活動に興味・関心」のクロス集計では、関連（自身が公的支援を受ける）が見られました（漸近有意確率0.001≦有意水準0.05）。

⑸公的支援 と ５－２ ボランティア活動への興味・関心について のクロス表

n=773

		５－２ ボランティア活動への興味・関心について				
		すでにボランティア活動に参加している	興味・関心があり今後は活動に参加したい	興味・関心はあるが今は活動への参加は考えていない	興味・関心はない	合計
⑸公的支援	受けている	2	3	25	19	49
	受けていない	39	64	410	196	709
	99	1	7	4	3	15
合計		42	74	439	218	773

カイ２乗検定

	値	自由度	漸近有意確率（両側）
Pearson のカイ２乗	27.799[a]	6	<.001
尤度比	17.834	6	.007
線型と線型による連関	6.047	1	.014
有効なケースの数	773		

a. 5 セル (41.7%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .82 です。

● 「同居家族が公的支援を受けている」と「ボランティア活動に興味・関心」のクロス集計では、関連は見られませんでした（漸近有意確率0.849≧有意水準0.05）。

(6)公的支援 と ５－２ ボランティア活動への興味・関心について のクロス表

n=749

		５－２ ボランティア活動への興味・関心について				
		すでにボランティア活動に参加している	興味・関心があり今後は活動に参加したい	興味・関心はあるが今は活動への参加は考えていない	興味・関心はない	合計
(6)公的支援	受けている	1	7	40	19	67
	受けていない	34	50	326	162	572
	同居家族はいない	7	10	64	29	110
合計		42	67	430	210	749

カイ２乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ 2 乗	2.668[a]	6	.849
尤度比	3.498	6	.744
線型と線型による連関	.685	1	.408
有効なケースの数	749		

a. 1 セル (8.3%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 3.76 です。

● 「居住年数」と「ボランティア活動に興味・関心」のクロス集計では、関連は見られませんでした（漸近有意確率0.362≧有意水準0.05）。

(8)居住年数 と ５－２ ボランティア活動への興味・関心について のクロス表

n=765

		５－２ ボランティア活動への興味・関心について				
		すでにボランティア活動に参加している	興味・関心があり今後は活動に参加したい	興味・関心はあるが今は活動への参加は考えていない	興味・関心はない	合計
(8)居住年数	1年未満	0	1	13	5	19
	1年以上5年未満	2	6	59	29	96
	5年以上10年未満	4	13	63	21	101
	10年以上30年未満	17	28	147	86	278
	30年以上	19	22	154	76	271
合計		42	70	436	217	765

カイ２乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ 2 乗	13.095[a]	12	.362
尤度比	14.882	12	.248
線型と線型による連関	1.397	1	.237
有効なケースの数	765		

a. 2 セル (10.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 1.04 です。

● 「居住年数」と「ボランティア活動に興味・関心」のクロス集計では、関連は見られませんでした（漸近有意確率0.082≧有意水準0.05）。

⑼現在の職業 と ５－２ ボランティア活動への興味・関心について のクロス表

n=762

		５－２ ボランティア活動への興味・関心について				
		すでにボランティア活動に参加している	興味・関心があり今後は活動に参加したい	興味・関心はあるが今は活動への参加は考えていない	興味・関心はない	合計
⑼現在の職業	自営・経営者	3	5	30	10	48
	従業員など雇われている	22	43	260	135	460
	学生・生徒	6	5	16	5	32
	家事専業	5	5	26	14	50
	無職	5	7	74	39	125
	その他	1	7	27	12	47
合計		42	72	433	215	762

カイ２乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ 2 乗	23.106[a]	15	.082
尤度比	19.505	15	.192
線型と線型による連関	.233	1	.629
有効なケースの数	762		

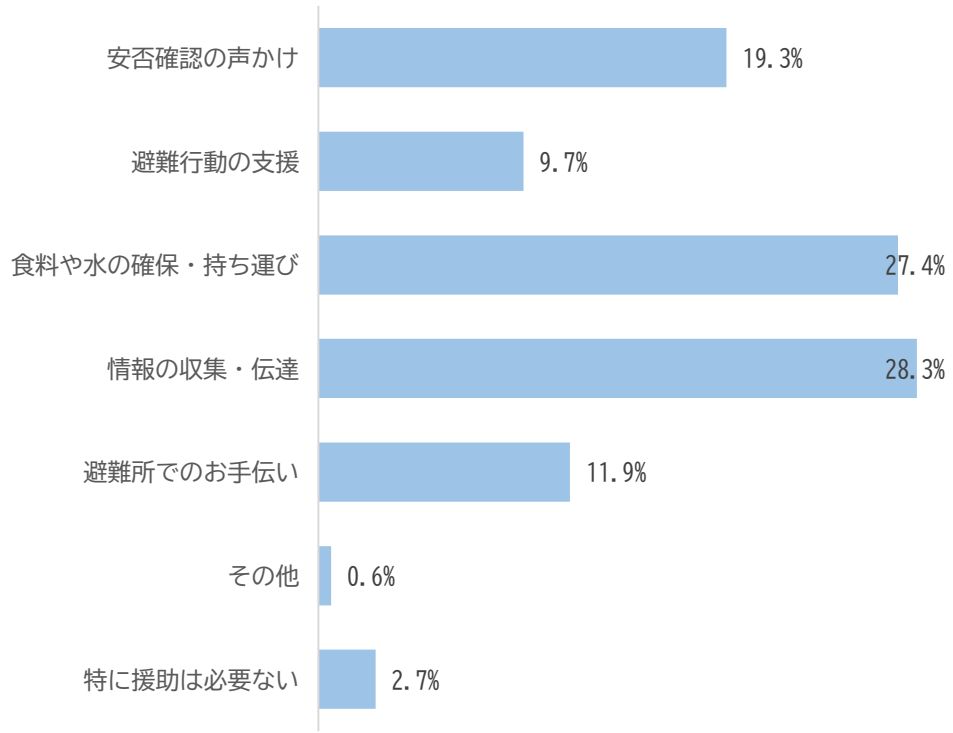
a. 8 セル (33.3%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は 1.76 です。

5－3　地震や津波、洪水などの災害が発生した際に、あなたは、どのような援助をしてほしいと思いますか。【あてはまるもの全てに○】

● 地震や津波、洪水などの災害が発生した際に、援助をしてほしいことは、「情報の収集・伝達」が28.3%で最も多く、次に「食料や水の確保・持ち運び」(27.4%)、「安否確認の声かけ」(19.3%)でした。

5-3　災害発生時に必要な援助について

項目	回答数	割合（%）	ケースの割合（%）
1 安否確認の声かけ	347	19.3%	44.9%
2 避難行動の支援	175	9.7%	22.7%
3 食料や水の確保・持ち運び	492	27.4%	63.7%
4 情報の収集・伝達	508	28.3%	65.8%
5 避難所でのお手伝い	214	11.9%	27.7%
6 その他	10	0.6%	1.3%
7 特に援助は必要ない	49	2.7%	6.3%
合計	1,795	100.0%	232.5%

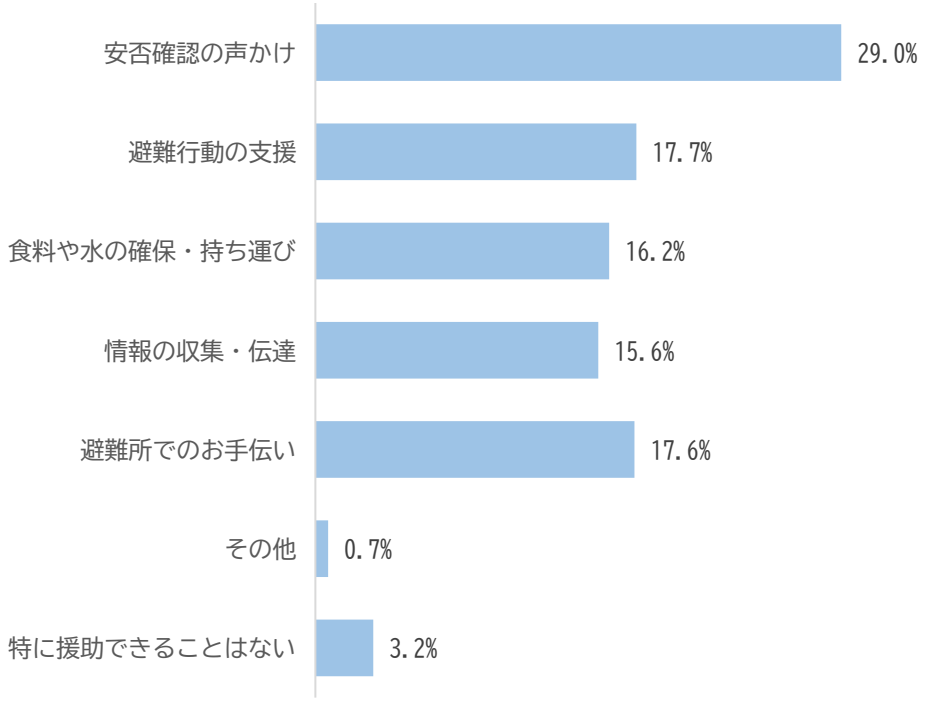


5－4　地震や津波、洪水などの災害が発生した際に、ご近所の援助が必要な人に対して、あなたができることは何ですか。【あてはまるもの全てに○】

● 地震や津波、洪水などの災害が発生した際に、ご近所への援助ができることについては、「安否確認の声かけ」が29.0%で最も多く、次に「避難行動の支援（避難所まで付き添うなど）」（17.7%）と、「避難所でのお手伝い」（17.6%）がほぼ同数でした。

5-4　災害発生時にできる近所の人への援助

項目	回答数	割合（%）	ケースの割合（%）
1 安否確認の声かけ	553	29.0%	72.0%
2 避難行動の支援	337	17.7%	43.9%
3 食料や水の確保・持ち運び	309	16.2%	40.2%
4 情報の収集・伝達	297	15.6%	38.7%
5 避難所でのお手伝い	336	17.6%	43.8%
6 その他	14	0.7%	1.8%
7 特に援助できることはない	62	3.2%	8.1%
合計	1,908	100.0%	248.4%

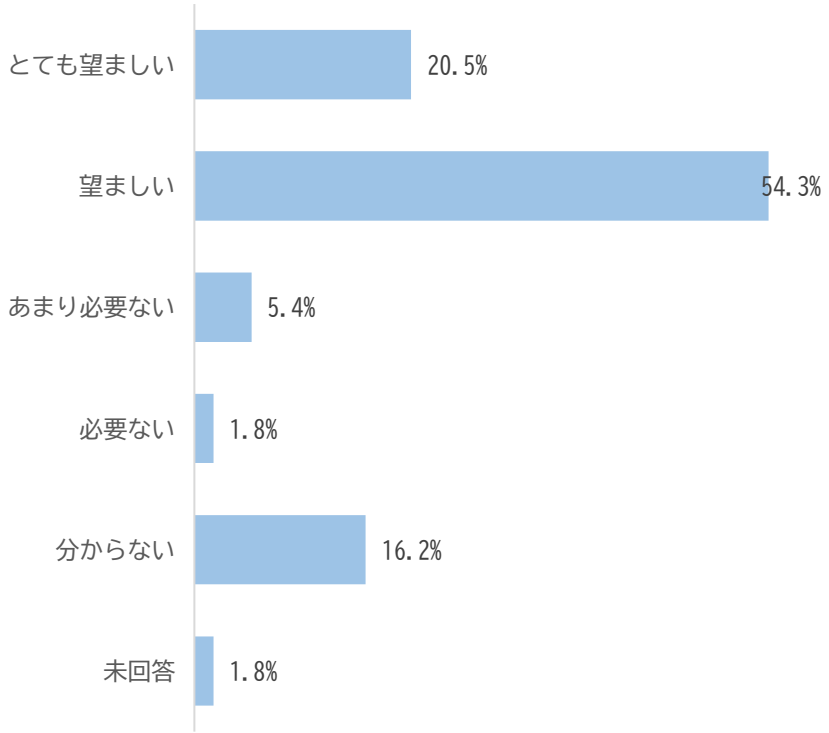


5－5　地域での支え合いを広めていくことは、行政の手が届かない生活課題などの解決にもつながるものと考えられますが、あなたは地域の住民同士が「支え手」や「受け手」となり、お互いに支え合いながら地域福祉を進めていくことについてどのように思いますか。【○は１つまで】

● 住民同士が支え合いながら地域福祉を進めていくことについては、「望ましい」が54.3%で最も多く、次に「とても望ましい」（20.5%）、「分からない」（16.2%）でした。

5-5　住民同士が支え合いながら地域福祉を進めていくことについて

項目	回答数	割合（%）
1 とても望ましい	160	20.5%
2 望ましい	425	54.3%
3 あまり必要ない	42	5.4%
4 必要ない	14	1.8%
5 分からない	127	16.2%
未回答	14	1.8%
合計	782	100.0%



● 「性別」と「住民が支え合い地域福祉活動を進めていくこと」のクロス集計では、関連（男女による違い）が見られました（漸近有意確率0.001≦有意水準0.05）。

(1)性別 と ５－５ 住民同士が支え合い地域福祉を進めていくこと のクロス表

n=759

		５－５ 住民同士が支え合い地域福祉を進めていくこと					
		とても望ましい	望ましい	あまり必要ない	必要ない	分からない	合計
(1)性別	男	72	191	25	10	44	342
	女	85	230	17	3	79	414
	その他	1	0	0	1	1	3
合計		158	421	42	14	124	759

カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)
Pearson のカイ 2 乗	31.630[a]	8	<.001
尤度比	21.668	8	.006
線型と線型による連関	2.066	1	.151
有効なケースの数	759		

a. 5 セル (33.3%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .06 です。

● 「年齢」と「住民が支え合い地域福祉活動を進めていくこと」のクロス集計では、関連は見られませんでした（漸近有意確率0.248≧有意水準0.05）。

(2)年齢 と ５－５ 住民同士が支え合い地域福祉を進めていくこと のクロス表

n=760

		５－５ 住民同士が支え合い地域福祉を進めていくこと					
		とても望ましい	望ましい	あまり必要ない	必要ない	分からない	合計
(2)年齢	18～29歳	17	31	3	2	5	58
	30～39歳	12	67	7	3	22	111
	40～49歳	31	69	14	3	23	140
	50～59歳	34	97	7	3	29	170
	60～69歳	39	97	7	2	27	172
	70歳以上	25	61	4	0	19	109
合計		158	422	42	13	125	760

カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)
Pearson のカイ 2 乗	23.875[a]	20	.248
尤度比	25.987	20	.166
線型と線型による連関	.263	1	.608
有効なケースの数	760		

a. 7 セル (23.3%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .99 です。

● 「同居家族の構成」と「住民が支え合い地域福祉活動を進めていくこと」のクロス集計では、関連は見られませんでした（漸近有意確率0.211≧有意水準0.05）。

⑶同居家族の構成 と ５－５ 住民同士が支え合い地域福祉を進めていくこと のクロス表

n=760

		５－５ 住民同士が支え合い地域福祉を進めていくこと					
		とても望ましい	望ましい	あまり必要ない	必要ない	分からない	合計
⑶同居家族の構成	就学前の子ども	36	108	11	3	36	194
	小・中学生	84	200	23	5	53	365
	高校生	18	35	3	0	11	67
	65歳以上の高齢者	5	26	0	3	10	44
	要介護又は要支援認定を受けている	14	53	5	3	15	90
合計		157	422	42	14	125	760

カイ２乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ 2 乗	20.214[a]	16	.211
尤度比	21.503	16	.160
線型と線型による連関	.441	1	.507
有効なケースの数	760		

a. 7 セル (28.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .81 です。

● 「居住年数」と「住民が支え合い地域福祉活動を進めていくこと」のクロス集計では、関連は見られませんでした（漸近有意確率0.244≧有意水準0.05）。

⑻居住年数 と ５－５ 住民同士が支え合い地域福祉を進めていくこと のクロス表

n=760

		５－５ 住民同士が支え合い地域福祉を進めていくこと					
		とても望ましい	望ましい	あまり必要ない	必要ない	分からない	合計
⑻居住年数	1年未満	5	10	1	0	3	19
	1年以上5年未満	15	55	10	0	15	95
	5年以上10年未満	23	58	5	3	11	100
	10年以上30年未満	54	151	12	9	50	276
	30年以上	60	149	14	1	46	270
合計		157	423	42	13	125	760

カイ２乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ 2 乗	19.494[a]	16	.244
尤度比	21.214	16	.170
線型と線型による連関	.032	1	.858
有効なケースの数	760		

a. 8 セル (32.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .33 です。

● 「現在の職業」と「住民が支え合い地域福祉活動を進めていくこと」のクロス集計では、関連は見られませんでした（漸近有意確率0.193≧有意水準0.05）。

⑼現在の職業 と ５－５ 住民同士が支え合い地域福祉を進めていくこと のクロス表

n=757

		５－５ 住民同士が支え合い地域福祉を進めていくこと					
		とても望ましい	望ましい	あまり必要ない	必要ない	分からない	合計
⑼現在の職業	自営・経営者	16	22	3	1	5	47
	従業員など雇われている	88	261	29	11	68	457
	学生・生徒	10	18	1	0	3	32
	家事専業	11	22	2	0	16	51
	無職	24	73	5	1	21	124
	その他	10	24	2	0	10	46
合計		159	420	42	13	123	757

カイ２乗検定

	値	自由度	漸近有意確率（両側）
Pearson のカイ 2 乗	25.217[a]	20	.193
尤度比	25.595	20	.180
線型と線型による連関	1.543	1	.214
有効なケースの数	757		

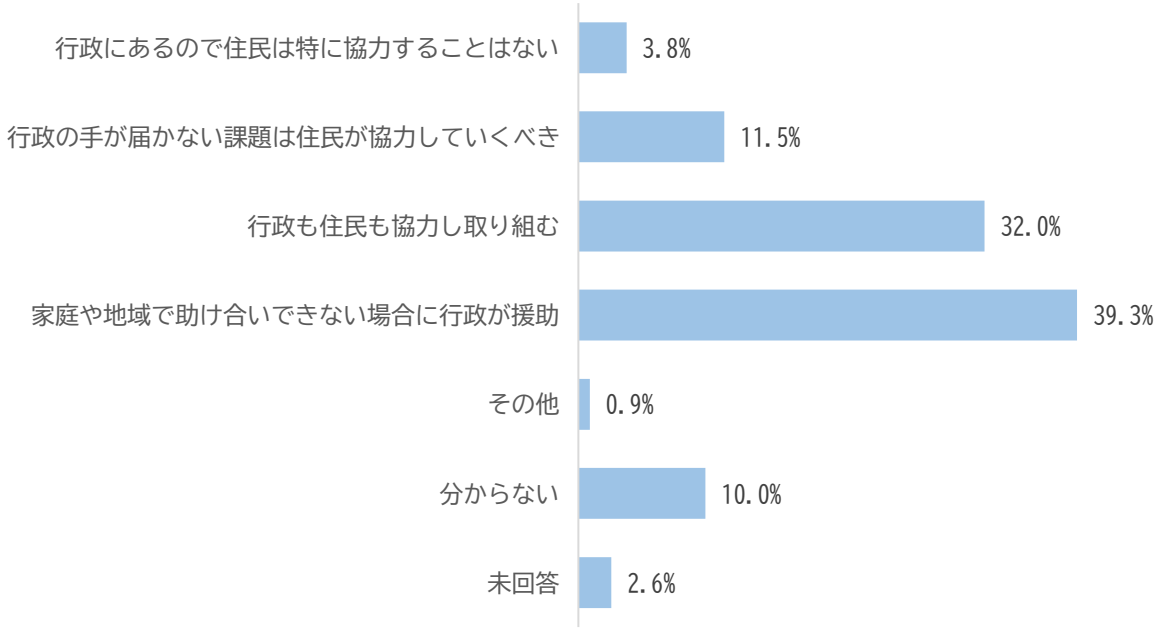
a. 9 セル (30.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .55 です。

5－6　あなたは、ふだんの暮らしの中で困っていること（生活課題）や不安に思っていることを解決するためには、行政と地域住民の関係はどうあるべきだと思いますか。【○は１つまで】

● ふだんの暮らしの中で困っていること（生活課題）や不安に思っていることを解決するため、行政と地域住民の関係はどうあるべきかについては、「家庭や地域で助け合いできない場合に行政が援助」が39.3%で最も多く、次に「行政も住民も協力し取り組む」（32.0%）、「行政の手が届かない課題は住民が協力」（11.5%）でした。

5-6　困っていることや不安を解決するための行政と地域住民の関係

項目	回答数	割合（%）
1 社会福祉の推進に取り組む責任は行政にあるので住民は特に協力することはない	30	3.8%
2 行政の手が届かない課題は住民が協力していくべき	90	11.5%
3 行政も住民も協力しあいともに取り組むべき	250	32.0%
4 家庭や地域で助け合いできない場合に行政が援助するべき	307	39.3%
5 その他	7	0.9%
6 分からない	78	10.0%
未回答	20	2.6%
合計	782	100.0%



● 「性別」と「困っていることや不安を解決するための行政と地域住民の関係」のクロス集計では、関連（性別による違い）が見られました（漸近有意確率0.015＝有意水準0.05）。

(1)性別 と ５－６ 困っていることや不安を解決するための行政と地域住民の関係 のクロス表

n=753

		５－６ 困っていることや不安を解決するための行政と地域住民の関係						
		社会福祉の推進に取り組む責任は行政にあるので住民は特に協力することはない	行政の手が届かない課題は住民が協力していくべき	行政も住民も協力しあいともに取り組むべき	家庭や地域で助け合いできない場合に行政が援助するべき	その他	分からない	合計
(1)性別	男	18	52	111	122	3	33	339
	女	11	38	134	182	4	42	411
	その他	1	0	1	0	0	1	3
合計		30	90	246	304	7	76	753

カイ２乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ 2 乗	21.958[a]	10	.015
尤度比	18.996	10	.040
線型と線型による連関	5.762	1	.016
有効なケースの数	753		

a. 8 セル (44.4%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .03 です。

● 「年齢」と「困っていることや不安を解決するための行政と地域住民の関係」のクロス集計では、関連（年齢による違い）が見られました（漸近有意確率0.001≦有意水準0.05）。

(2)年齢 と ５－６ 困っていることや不安を解決するための行政と地域住民の関係 のクロス表

n=754

		５－６ 困っていることや不安を解決するための行政と地域住民の関係						
		社会福祉の推進に取り組む責任は行政にあるので住民は特に協力することはない	行政の手が届かない課題は住民が協力していくべき	行政も住民も協力しあいともに取り組むべき	家庭や地域で助け合いできない場合に行政が援助するべき	その他	分からない	合計
(2)年齢	18～29歳	4	13	8	29	0	4	58
	30～39歳	4	9	17	62	4	15	111
	40～49歳	7	19	45	57	1	11	140
	50～59歳	9	17	56	58	2	24	166
	60～69歳	4	18	75	61	0	14	172
	70歳以上	1	14	46	37	0	9	107
合計		29	90	247	304	7	77	754

カイ２乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ 2 乗	70.072[a]	25	<.001
尤度比	71.978	25	<.001
線型と線型による連関	1.709	1	.191
有効なケースの数	754		

a. 9 セル (25.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .54 です。

● 「同居家族の構成」と「困っていることや不安を解決するための行政と地域住民の関係」のクロス集計では、関連は見られませんでした（漸近有意確率0.114≧有意水準0.05）。

⑶同居家族の構成 と ５－６ 困っていることや不安を解決するための行政と地域住民の関係 のクロス表

n＝754

		５－６ 困っていることや不安を解決するための行政と地域住民の関係						
		社会福祉の推進に取り組む責任は行政にあるので住民は特に協力することはない	行政の手が届かない課題は住民が協力していくべき	行政も住民も協力しあいともに取り組むべき	家庭や地域で助け合いできない場合に行政が援助するべき	その他	分からない	合計
⑶同居家族の構成	就学前の子ども	7	25	78	67	1	16	194
	小・中学生	15	40	104	166	3	32	360
	高校生	3	5	23	27	1	8	67
	65歳以上の高齢者	3	7	12	10	1	10	43
	要介護又は要支援認定を受けている	2	12	29	35	1	11	90
合計		30	89	246	305	7	77	754

カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率（両側）
Pearson のカイ 2 乗	27.793[a]	20	.114
尤度比	26.090	20	.163
線型と線型による連関	2.431	1	.119
有効なケースの数	754		

a. 9 セル (30.0%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .40 です。

● 「居住年数」と「困っていることや不安を解決するための行政と地域住民の関係」のクロス集計では、関連（居住年数による違い）が見られました（漸近有意確率0.016≦有意水準0.05）。

⑻居住年数 と ５－６ 困っていることや不安を解決するための行政と地域住民の関係 のクロス表

n＝754

		５－６ 困っていることや不安を解決するための行政と地域住民の関係						
		社会福祉の推進に取り組む責任は行政にあるので住民は特に協力することはない	行政の手が届かない課題は住民が協力していくべき	行政も住民も協力しあいともに取り組むべき	家庭や地域で助け合いできない場合に行政が援助するべき	その他	分からない	合計
⑻居住年数	1年未満	1	2	6	9	0	1	19
	1年以上5年未満	3	10	18	50	0	14	95
	5年以上10年未満	6	16	30	39	1	5	97
	10年以上30年未満	12	31	79	118	5	28	273
	30年以上	7	31	113	89	1	29	270
合計		29	90	246	305	7	77	754

カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率（両側）
Pearson のカイ 2 乗	35.848[a]	20	.016
尤度比	37.164	20	.011
線型と線型による連関	.809	1	.369
有効なケースの数	754		

a. 10 セル (33.3%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .18 です。

● 「現在の職業」と「困っていることや不安を解決するための行政と地域住民の関係」のクロス集計では、関連（職業による違い）が見られました（漸近有意確率0.029≦有意水準0.05）。

⑼現在の職業 と ５－６ 困っていることや不安を解決するための行政と地域住民の関係 のクロス表

n=752

		５－６ 困っていることや不安を解決するための行政と地域住民の関係						
		社会福祉の推進に取り組む責任は行政にあるので住民は特に協力することはない	行政の手が届かない課題は住民が協力していくべき	行政も住民も協力しあいともに取り組むべき	家庭や地域で助け合いできない場合に行政が援助するべき	その他	分からない	合計
⑼現在の職業	自営・経営者	2	6	22	10	1	5	46
	従業員など雇われている	19	43	134	203	5	51	455
	学生・生徒	1	10	7	12	0	2	32
	家事専業	2	7	15	22	0	5	51
	無職	5	14	51	41	1	9	121
	その他	0	10	18	15	0	4	47
合計		29	90	247	303	7	76	752

カイ２乗検定

	値	自由度	漸近有意確率(両側)
Pearson のカイ 2 乗	40.087[a]	25	.029
尤度比	39.895	25	.030
線型と線型による連関	3.836	1	.050
有効なケースの数	752		

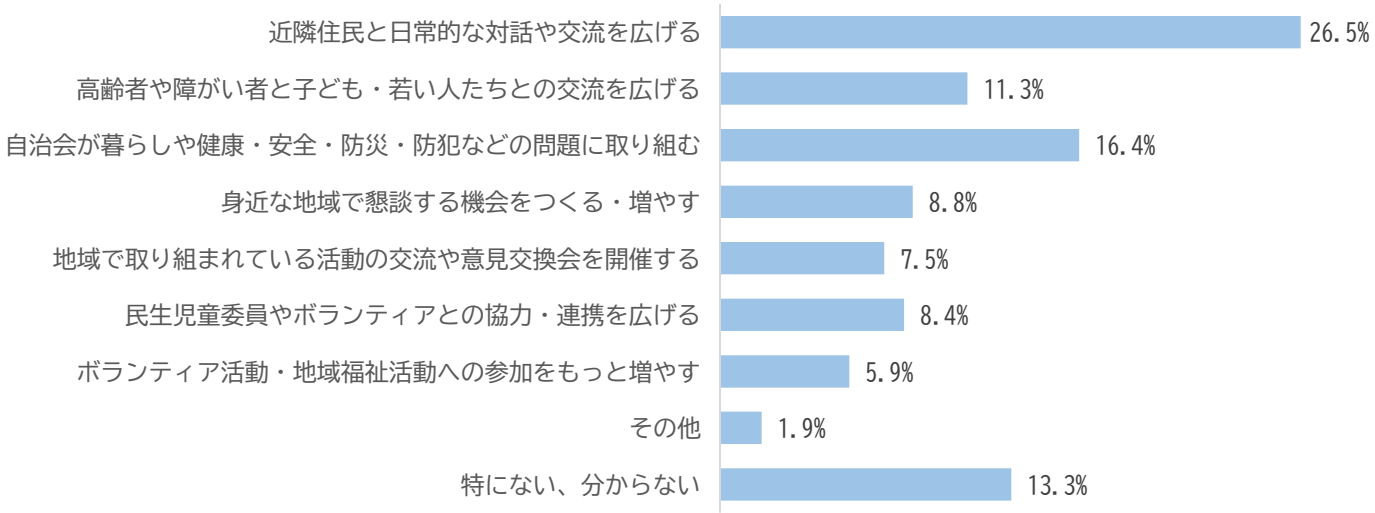
a. 15 セル (41.7%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .30 です。

5－7　あなたは、住民同士が支え合い、住み慣れた地域で誰もが安心して暮らすことができる地域社会の実現を目指す上で、住民が取り組む必要があることは何だと思いますか。【○は３つまで】

● 住民同士が支え合い、住み慣れた地域で誰もが安心して暮らすことができる地域社会の実現を目指す上で、住民が取り組む必要があることは、「近隣住民と日常的な対話や交流を広げる」が26.5%で最も多く、次に「自治会が住民の身近な暮らしや、健康・安全・防災・防犯などの問題に取り組む」（16.4%）、「特にない、分からない」（13.3%）でした。

5-7　住民同士が安心して暮らすために住民が取り組むこと

項目	回答数	割合（%）	ケースの割合（%）
1 近隣住民と日常的な対話や交流を広げる	356	26.5%	46.2%
2 高齢者や障がい者と子ども・若い人たちとの交流を広げる	152	11.3%	19.7%
3 自治会が住民の身近な暮らしや、健康・安全・防災・防犯などの問題に取り組む	220	16.4%	28.6%
4 身近な地域で住民の暮らしや福祉について懇談する機会をつくる・増やす	118	8.8%	15.3%
5　地域で取り組まれている活動の交流や意見交換会を開催する	100	7.5%	13.0%
6 民生児童委員やボランティアとの協力・連携を広げる	112	8.4%	14.5%
7 ボランティア活動・地域福祉活動への参加をもっと増やす	79	5.9%	10.3%
8 その他	26	1.9%	3.4%
9 特にない、分からない	178	13.3%	23.1%
合計	1,341	100.0%	174.2%

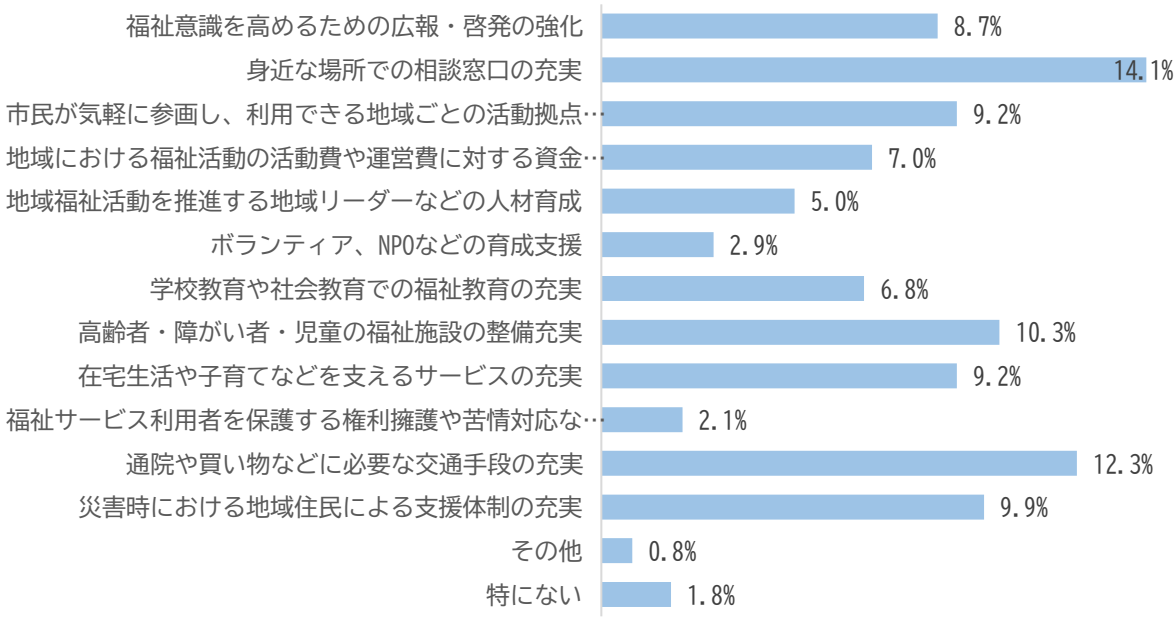


5－8　今後、地域福祉を推進していくためには、行政の役割として、どのようなことが重要だと思いますか。【○は３つまで】

● 今後の地域福祉の推進のために重要な行政の役割は、「身近な場所での相談窓口の充実」が14.1%で最も多く、次に「通院や買い物などに必要な交通手段の充実」(12.3%)、「高齢者・障がい者・児童の福祉施設の整備充実」(10.3%)でした。

5-8　今後の地域福祉推進の行政の役割として重要なこと

項目	回答数	割合（%）	ケースの割合（%）
1 福祉意識を高めるための広報・啓発の強化	166	8.7%	21.6%
2 身近な場所での相談窓口の充実	269	14.1%	35.1%
3 市民が気軽に参画し、利用できる地域ごとの活動拠点づくり	176	9.2%	22.9%
4 地域における福祉活動の活動費や運営費に対する資金助成	133	7.0%	17.3%
5 地域福祉活動を推進する地域リーダーなどの人材育成	96	5.0%	12.5%
6 ボランティア、NPO などの育成支援	55	2.9%	7.2%
7 学校教育や社会教育での福祉教育の充実	129	6.8%	16.8%
8 高齢者・障がい者・児童の福祉施設の整備充実	196	10.3%	25.6%
9 在宅生活や子育てなどを支えるサービスの充実	175	9.2%	22.8%
10 福祉サービス利用者を保護する権利擁護や苦情対応などの取組	40	2.1%	5.2%
11 通院や買い物などに必要な交通手段の充実	234	12.3%	30.5%
12 災害時における地域住民による支援体制の充実	189	9.9%	24.6%
13 その他	16	0.8%	2.1%
14 特にない	34	1.8%	4.4%
合計	1,908	100.0%	248.8%



5－9　今後、誰もが安心して暮らせるまちづくりを進めていくため、福祉サービスや地域福祉の進め方、保健・福祉行政への提言など、日頃考えていること。（自由記述）

自由記載のポイント

Ⅰ．高齢化・孤立対策

1. 独居高齢者・孤独死への不安

地域関係の希薄化や精神的孤立への不安、高齢化の進行などにより、近隣から孤立した高齢者がいる現状がみられ、孤独死への対策や配偶者と死別したひとり暮らし高齢者の支援として、民生委員の見守り体制の強化、身近な相談窓口の設置のほか、話し相手ボランティアなどの精神的な支援を望む声があります。

（高齢化についての自由記載）

〇高齢者に関する生きがいづくりのために支援センターの充実した組織づくりを進め快適な老後生活ができることを望む。

〇高齢の両親や単身の兄弟が認知症のため、サポートが必要で地域の活動まで余裕がないのが現状です。そのような事情の方が多いように思えます。介護が必要なく元気に生活出来るように予防する活動がより大事なのではないでしょうか。一人一人の健康に対する意識の向上が必要だと思います。

〇今住んでいる町内会の班に、ついに小中学生が一人も居なくなりました。数年後には 10 代の人もいなくなりそうで、超高齢化が現実となりつつあります。お互いに共助し合える年代になりつつあります。お互いに共助し合える年代が減少しつつある中、福祉に頼らざるを得ない状況の近未来を考えると不安がつのります。災害や生活安全も含めた福祉の充実と共に、身近な高齢者同士の自助、共助の体制も現実的には必要で、行政がそのサポートもしていただければいいのかなと思います。また高齢になると外出の機会も減りがちで、交流の機会も少なくなります。困りごとの声を SNS を利用して福祉に反映させサービスや支援につなげられたらと思います。

〇これまでの福祉計画を進める中で、どのような問題点が明らかになっているのか、明らかにして（教えて）ほしい。高齢者が多く利用していた「シネマ」がなくなり、つまらない「街」になった。図書館も古くて、暗い感じがする。長年マンションの管理組合の役員をやっているが、近年、高齢化が進み（居住者の）対応を検討しているが、個人情報等の問題もあり大変だ。市が中心となって協議会等（マンションの）の場を設定してほしい。ボランティアで里山の整備をやっているが、高齢化の活動の場として、山の方にも（海への補助金だけでなく）力を入れてほしい。（72 才）

〇仕事の都合で八戸に 20 年ほど住みました。子どもが、義務教育の時代は、子どもや学校にお金をかけないまちだと思って過ごしました。今後、自身も高齢となった時、行政は何もできないから地域で何とかしてね、と言わせるためのアンケートなのかと感じました。八戸出身者ではないので、老後は他へ行くつもりです。ご迷惑はおかけしません。

〇高齢化で、伴侶を失い 1 人になった時に体力とか経済的なことばかりではなくその悲しみをのり越える自信がないと思うのでそんな時に、悲しみをのり越えられるまで、何か、サポートがあればと思う。子供がいる、いない、友人、知人がいたところで、いやされるとはとうてい思えないが、1 人でのり越えるのはあまりにつらく苦しい

〇高齢になるに従って、何かやる事があればよいのですが、意欲がなくなって取組む、やることが減ってくるような気がする。活力というか意欲というかこれが維持できるような生活保障が少しでもあれば

よいのかなと思う。病気持ちだとどうにも、活力がなくなっていくし、落胆的な考えが出てしまう。これを少しでも緩和できる助成が必要かなと思うが、資金や人員不足等難しいかな？

〇過去に認知症の母親に暴力をする、父親の件で 110 番した事があり、近所の方々に御迷惑かけた事がありました。日常的に暴力振るっていた様です。隣３軒くらいまでに聞こえる罵声をあびせながら。私は仕事に行っていたので、毎日のやりとり気がつきませんでした。仲の良い関係までは、行かなくてもコミュニケーションとれていたら、隣近所が教えてくれていたかもと思います。関わりたくない気持ちも分かります。余談になりました。

〇老人のみか取りのこされ、支えるべき世代か都会に転居する町の空洞化を防ぐ。

---

2. 介護・認知症・手続き負担

　各種の申請手続きが煩雑な点や縦割り行政への不満、親族が遠方の場合の手続きや高額な施設入所費用の負担など、当事者になって初めて分かる制度の複雑さがうかがえます。そのため、ワンストップの相談窓口や代理申請制度の拡充、低所得高齢者向け施設整備などを望む声が寄せられています。

（相談体制についての自由記述）

〇最近、高齢の両親を亡くし、それまでの医療、介護について、関わらないとわからない事が多いと感じた。これは子育ても同じで、問題を抱える当事者だけでは万全に助けて…を言えない、わからないまま、パンクしてしまわないように、情報提供や、声かけされる環境があるといいと思う。相談できたとして、受け手も人間なわけで…正直、当たりはずれも感じた場面もあり、対人理解のできている対応が望ましい。相手がどう感じるかを考えた対応で。

〇もう少し気軽に子ども支援や福祉行政などのサービスや相談出来る場所があっても良いと思う。

〇身近な場所での相談口

〇さまざまな相談に持っていきやすいよう地域活動の充実

〇保健や年金、福祉等、市役所まで行かなくてもわかる所があるといい。公民館などに説明を聞けたりする人がいるとありがたい。

〇健康な時は分からない事が沢山ある様な気がします。病気、介護が必要になった時、気軽に相談できる場・窓口を作っていただきたい。

〇相談窓口の充実が大事だと思います。どこに相談したらよいかわからない子が多いと思います。

〇身近な場所での相談窓口の充実

〇重複になりますが、行政に相談しても話を聞いてくれるのはありがたいですがそれで終わり。必要なのは、話を聞いた上で行政が必要な場合は動いてほしい。

〇身近に親族がいない場合、介護申請等の手続きが困難です。遠方の親族に替わり、申請等ができるよう方法はないだろうか？

〇単身世帯のため様々な法的手続きや後始末を頼ることができないのが心配です。

Ⅱ．移動手段・交通問題

1. 免許返納後の不安

　郊外や高台地域での生活において、生活上の困難さがうかがえます。バス停が遠いことやバスの本数が少ないことに加え、坂道が多く歩行が困難になっているため、介護タクシーやデマンド型乗合バス、コミュニティバスの充実のほか、タクシー券の配布、小型バスの導入などを望む声があります。

（交通手段についての自由記述）

〇歩くことが年々きつくなり障害者に認定されなくてもバスの乗り降りが大変になります。買物や病院も車がないとタクシーを使うことになります。他県では一定のタクシー券が配布されていると聞きました。八戸もそうなればいいと思います。介護保険を使うことも出きると思いますが国民年金での生活では大変です。

〇免許返納した場合の交通手段が充実していないと感じます。病院、市役所などへ行くとき、バスの運行が少ない。メリットが感じられません。

〇バスの利用が減っているので、デマンド型乗合バスにするなどし、八戸は車の免許を持っている人が多いと思うので。運転手の確保や時刻が少ない地域にもっと利用しやすくする。

〇歩道と自転車用の道路をきちんとつくる。種差は遊歩道を歩くというより、道路を歩くという感じたので。

〇電車にもハチカで利用したい。

〇買物や通院に行く手段に高齢者の為にコミュニティーバスの様な物が有ればいいと思う。バス停も遠いので歩くのに、大変な人達の足となるようなバス。

〇小型バスが地域の奥深くまで回れると助かります。でなかったら、タクシーの割引き率を３割位までする。

〇セブンイレブン糠塚（ぬかづか)店の所の大通りを路線バスを通さないのはもったいない、鮫～糠塚までせっかくつながっているのだから、市営バスだと旭ヶ丘営業所から、南部バスであれば、市民病院～八戸営業所行きみたいなのを考えてほしい。

〇道路がせますぎる。自分勝手な運転をする人もいるので。

〇介護タクシーを利用しているのですが（車いす用のタクシー）何回か利用させてもらって助かっています。しかし前にお願いしていたタクシー会社で介護タクシーをやらなくなったと言われて、困りました。幸い、ちがうタクシー会社に頼めたのですが、行く病院によっては是非利用したいので、介護タクシーの充実をお願いしたいです。

〇八戸は車がないと、不便な町です。病院にタクシーでよく行きますが、高齢者の場合、病院が近くても歩くことが難しく「近くてすみません」と伝えて乗りますが、やはりイヤな顔をする運転手もいます。例えワンメーターだろうが、どんなに近くでも、イヤな思いをせず乗車できればいいのにと思います。これから、ますますそういう利用者が増えるような気がするので、タクシー会社に行政として、できることはないのでしょうか？

〇コミュニティバスやその他バスの増便。八戸線等鉄道の増便。医師の各科目の大幅な確保。

〇引越して４ヶ月目です。地域に住みなれるまで、時間もかかり、たいへんでした。半年は、ほっとするまで時間がかかりますので、その後の展開はそれからでお願いします。高齢者２人の移動なので、柏崎は主人の生れた地域です。私は小中野です。様変わりしてますが、都会に引っ越しした感かくで住んでいます。娘がすぐそばにいますので、安心です。

〇市内の病院への通院など 15 ㎞あります。今はまだ車の運転をしておりますが、近い将来、出来なくなった時、公共のバスは、のりかえなど考えると、非常に不安を感じます。街中に住居があったらと、日々考えております。身近な問題で、家の周りには 75 才以上のひとり暮らしの人が多くて、最近も 80 代の男性の高齢者が、回らん板を持ってきて、そのまま動けなくなりました。近くの子供さんと連絡を取り、デイサービスへつなげ、今は施設に入居しています。又、75 才の男性高齢者は、ボケて、何回も（一日に）我が家に来ます。相談にのっています。娘との同居で、娘さんにたまにお知らせしています。一気に高齢団地になり、あちらこちらに。大変な世の中です。行政がハアクするまで、時間が必要でしょうか？また、一人世帯と空き家も問題ですね。

〇自家用車が使えない時でも安心して移動ができるよう、バスの運行を考えてほしい。本数が少ない、一定の場所だけ多い。

〇免許返納後の交通手段の確保に不安がある。バス停までは距離があり、年金生活では常にタクシーを使えるとは限らないので、移動手段のサービスを考えてもらえたら嬉しい。

〇海の近い鮫地区は、災害時の不安はつきないが、一時的な事案に対しては協力体制ができているように感じる。一番不安に感ずることは、日々の生活（高齢化による）に対してである。中心街からも離れ、坂の街であるため、日用品や食事の調達がとても困難となっている人が多い。ここに、免許証の返納となると、全く生活が成り立たず不安の声をよく聞く。交通手段の「バス」は、元気な高齢者のためのものであり、バス停まで歩き、段差をのぼり乗車をする事を考えると、外出できないと感じている方も多い。最近では「生協」のマイクロバスが町内を回っていたりするサービスがあるが、そのような支援がもっと拡充していく事を望む。

〇住んでいる所が山なのでバス利用下りはいいが上りはキツい。車が乗れなくなったら心配。お金もない。最近、早く死ねたら、とも思う。（長生きはめいわくだと考える）

〇遊べる場所を増やしてほしい。バスと電車の本数をふやしてほしい。町をかっきづけてほしい。

〇買い物に便利にしてほしい。

Ⅲ．行政への不信・改善要望

1．対応への不満

職員の対応のばらつきやマニュアル的対応への不信感、「相談して終わり」でその後のことがわからないと感じる声があり、行政の役割を市民やボランティアへ依存しているのではないかとの疑問が寄せられています。

（八戸市への要望等についての自由記述）

〇市民と行政が協力してだれ一人取りこぼしのない、福祉を促進してほしい。八戸市民で良かったと胸を張って言える、八戸になってほしい。

〇何ごとも街の美化運動がスタートだと思うので、啓蒙活動に力を注いでほしい。住民の意識改革が地域福祉につながると思います。

〇子供が大きくなってから移り住んでいるので、地域交流に参加することもありませんでした。色々な困難なときには、市役所に相談に何度もうかがいました。子供にも、困った時には、市役所にと伝えています。市職員の方もお苦労の多いことと思いますが、感謝です。

〇誰もが安心して暮らせるまちづくりなんて、ないと思う。理想であり、現実ではない。ただ、行政はそういった目標を立案と実行をしなければならないので大変だと思う。頑張ってください。

〇八戸は人が減っているので、もっとたくさんのことに目をむけてほしいです。

〇自分が年を重ねて、親世代に近づいて、自分の親が周りに迷惑をかけている、負担をかけていると言っていたことを思い出します。他人の世話になることに罪悪感を持たない社会になることを願います。それでも行政には、支援していただきました。感謝しております。

〇行政等で働いているスタッフの方の話し方について、すべての方ではないのですが、話し方がきつい方や分りにくい話し方をする方がおり、相談をしにいっていても心に響かず、逆にどうしたらよいのか分らないときもあります。その人にあった話し方に合わせるのは大変難しいとは思いますが、うえからの目線の口調ではない話し方が必要かと思います。

〇市の職員の方々は異動があるので大変とは思いますが福祉関連の所に配属になりましたら、福祉の基本や法律や今までの歴史等、わかっていてほしいことは、よく学んでわかった上で応対できるようにしてほしい。人によるとか、その仕事・部署の好ききらいもあるのでしょうが、仕事ですし、市民は、みんなわかってる人と思って相談したりすると思うので。

〇行政がやるべきことをなぜ住民がやらなければ、負担しなければならないのか。今の若い人には理解を得られずますます人口流出が加速する。PTA と、、、善意への強制がありすぎる。もっと行政が主体で行ってほしい。

〇ヘルパー訪問看護は緊急時来てもらうことができない。地域の交流があまりなく、高齢者が多く助け合うことができないので行政がもっと考えてほしい。

〇八戸は坂道が多くて歩くのが大変。

〇住民が互いに支え合うこと等で、地域課題の解決に取り組んでいくことは必要ですが、支援が必要であるかを事前に把握しておくことで、支援がスムーズに出来るのではないかと考えます。（災害時も含め）

〇八戸出身ではないので、周りの人との交流があまりないのですが（子供もまだ自宅でみているので）、人との距離を感じる”まち”だと思います。イベントは、自身の地元に帰り参加することが多いですし、八戸市よりも周りの人が気さくに話しかけてきたり、とても参加しやすいなぁ、楽しいなぁ…と感じます。何をするにもハードルが高い（行政・福祉も含め）

2. 情報提供の課題

広報の配達遅延・未配布や、ホームページ偏重、高齢者等への情報格差、反対に SNS 活用不足、Web 回覧板希望の声が寄せられています。

（広報活動、周知についての自由記述）

〇広報を見ても詳しいことはホームページを見てくださいと言うが、スマホを使える人はいいだろうがない人使えない人はホームページを見ることができない。75 歳以上の人にはタブレットを貸し出すなど考えてほしい。

〇広報はちのへがとてもみづらい。配布されたものの中身がなくなっており、すぐホームページを見ろとなっている。広報はちのへだけで完結させて欲しい。くだらない料理コーナーより制度のことを全部のせるべきと思います。また、税と社会保険料が本当に高すぎます。

〇1 人暮らしで普段から仕事で不在時間が多いうえ、新興地域で元々人付き合いが難しいと思われる。そのため現状町内会には入っていない。ただ町内会に不参加でも、八戸市のホームページなどで Web で回覧板の内容などや地域活動日程が分かるようになれば、スポットでの参加はしやすくなると思われる。

〇それぞれの家庭で、時間の過ごし方が異なるので、なかなか交流できないと思います。また、若年層では、インターネット等が使用できますが、高齢の方はインターネット等は使用できない方が多いと思います。それらをわきまえて、世代によって伝達の仕方などは自ら選択する方法を取った方がいいのではないかと思いました。

〇福祉サービス内容の情報提供。

〇地域の活動に参加していない自分が悪いと思うが、八戸市の福祉サービス・地域福祉の進め方について、何をやっているのか全く伝わってこない。ＸＸ市のＸ市長やＸＸ市のＸＸ市長の様にもっとテレビ等に出演して自分の言葉で発信して欲しい。

〇もっと SNS を活用して、若い世代に情報を発信しても良いと思います。

〇必要な支援を登録出来るシステムの構築（情報の更新等の課題有り）。

〇居住地域での活動内容がわからない SNS 等でどういう活動、サークルがあるのかわかれば参加しやすい。

〇情報発信の積極的な取り組み。

〇「広報はちのへ」についてですが、市からのお知らせやイベントの日にちなどの情報を確認したいのに、配達されるのが遅く、イベントなどが終わってる事が多いです。毎月 20 日発行されているようですが、配達されるのは、月が変わって、10 日頃にきます。

〇年に、3 回位は、配達されないです。（コロナワクチンのこと、帯状ほうしんワクチンのこと、お祭りの時の交通規制の情報などのときは、広報がきてないです。）とても困ります。

〇市から依頼されて、配達されてる方は、お給料をもらっていると思うのですが、お金だけもらって、きちんと仕事をしないのは、おかしいと思います。税金を使って、広報ができているのに、配達されていないのは、いいのでしょうか。（我が家だけではなく、町内会の他の人達にも聞いてみると、広報きてなかったりしています。配達されなかった広報は廃棄されているのでしょうか。）

（今後の活動に向けての自由記述）

〇住民への日ごろから声かけ、将来への相談窓口を基に、地域に寄り添った取組み。

〇困ったときに、身近な場所に（年齢や障害、その他に関わらず）気軽に相談できる場所が大事だと思う。

〇福祉関係のボランティアでポイントをためて、将来自分が福祉サービスを受けたいときにそのポイントを使えることができればいいと思う。

〇サービス、地域福祉の向上によるサービスを受ける方の分散化。

〇老人よりも子育て世代へサービスを充実してほしいのですが、近い将来、外国の方も住む世の中になりますので、現在の取り組みにプラスして、考えていく必要がある。日常の当たり前を外国の方の日常にしていくには色々問題に対処しないといけない。人口減少の対策として国は、外国人受入を進めていくはずなので、コミュニケーションを始め、ゴミの出し方や、主活の細かなこと等、今のうちに受入体制を取り、良い環境、コミュニティを築事ができれば、地域の活性化が早くできます。

〇八戸盆おどり大会を計画する。

〇YS アリーナを高齢者さんのウォーキング Point にするシステムを作る、送迎バス、暑い時に涼む、運動も出来る、寒い時にあたたまる。

〇福祉の事業どうしがつながる。

〇私は介護福祉士として施設で働いていますが、日々の仕事で、地域福祉について興味はあるが時間の余裕がない。そういった人は沢山いると思う。

Ⅳ. 町内会・地域コミュニティ

働き世帯増加やプライバシー意識の高まり、若年層における町内会や福祉コミュニティに対する意識の変化により、町内会加入率の低下、高齢化による担い手の不足、さらに不参加への圧力や強制的徴収への疑問の声が寄せられています。一方、災害時の助け合いは必要との認識もみられる。自主的に参加する仕組みやスポットでの参加、そこへの行政の関与、世代を超える横断型交流の必要性について、望む声もみられます。

（近所との関係についての自由記述）

〇最近は隣近所とのつき合いも希薄になってきている感じがしています。積極的に声かけ等して距離を縮めれればと思いますが、なかなかできません。年を取れば、近所づきあいが最も大事なことかとも考えます。いざというときの助けは、やはり近所。隣り近所づき合いが大事ですね。

〇近所とはあいさつ程度なので深くつき合いがない。こんな場合はどうしたらよいのか？普段仕事をしているので近所とのつながりがうすい。地域の行事に参加したくても知り合いがいないので入りにくい。

〇近所でも独居老人が増えている。家族と同居していても高齢者が自分の部屋にひきこもっている。隣に住んでいても一年以上姿を見かけない人がいる。民生委員などが声がけ、見守る必要があると思う。これからの民生委員の仕事は大切だと思う。最近近所で 60 代の人が孤独死をしていてショックだった。独居老人はひきこもりがち（足腰も弱くなるので）精神的にまいると思うので、少しでも話相手になるボランティアなどがあればいいと思う。長い間暮らした伴侶を亡くした、高齢者の精神的苦痛を支えてほしいと思う（これは本当に大切と思います）。近年少子化で子供中心の福祉は充実していますが、高齢者の方はおきざりになっていると思うし、逆にこのことが今の高齢者を見てそれが少子化につながっていると思う。

〇となりの人を知らないような町にしたくないです。

〇何でも行政まかせにするのでは無く、基本はそこに住んでいる住民が行ない、本当に足りない部分を行政が手伝う様にすれば良いと思う。

〇近所の人に挨拶をしていたら、その人が私（親）の居ない時に私の子に「車で送っていくか？」と親の立場からすると危険と思える声かけをされていた。幸い、子は断っていたため大事に至らなかったが、近所へ良かれと思い挨拶をしていたばかりに、気をゆるしてそのような声かけに乗ってしまう人もいると思う。以来、近所の人との関りが怖くなった。プライバシーに干渉されていると感じるようになった。令和の今、近所との関わりは個人情報の漏えいと紙一重。最低限、各家庭のプライバシーを守って頂きたい。

〇地域活動のために、困っていること、不足している内容へのご協力よろしくお願い致します。

〇プライバシーを守りつつ、お互いに協力し合えるまちづくりを推進してほしいです。

〇私が暮らしているＸＸ地区は農業調整区域で他地区からの入居者は、たまにはありますが、ほとんどありません。農業専用地で年々平均年齢が高くなっています。小学校も全校生徒数が 27 人位で増える要素がありません。バスが生活館まで来ています。除雪は町内会で２年ごとに担当して有志が出てきて行っています。冬になると外を見て雪が積っているか確認して除雪に行く高齢の夫を見送っています。若いうちは、いいのですがこれから年齢が増すばかりで心配しています。私事ですが、15 年位前に息子が家を建てたいと思い探しましたが、農業調整区域の壁があり町内には見つからず桔梗野に家を建てました。若い人も暮らせる。町内になってくれることを望んでいます。

〇現在、住んでいる地域は、調整区域となっているらしく、新しく家を建てるということができません。その為、世帯数が増えず、高齢者が多く住む地域となっています。今後、災害等助けが必要な高齢者がたくさんいた場合、若い力が必要となると思います。そのためにも調整区域について考え直してほしいです。また、八戸市の外れにあるので取り残されている感じがあります。八戸市の周りの市町村は、子育て世帯や住民に対しての政策、支援が成されていると感じています。

（町内会・自治会についての自由記述）

〇町内会の行事に自分から参加出来ればいい。今は仕事をしているのでなかなか関われないが無職になったらボランティアに参加したい。

〇何でも行政まかせにするのでは無く、基本はそこに住んでいる住民が行ない、本当に足りない部分を行政が手伝う様にすれば、良いと思う。

〇町内会について地域により清掃活動や草刈りなどに参加できない場合、お金を徴収される。町内会費を払っているのにお金を取られるのは、おかしいと思う。町内会自体入る人と入らない人がいる。高齢になると参加がむずかしくたいへんである。

〇町内会に加入しない、又は退会する方が増しているように感じます。強制ではないし、いろいろな理由があってのことだとは思います。しかし、それが近所の方々との交流を少なくする原因の一つかもしれないと思います。

〇最近の若い人は町内会等に加入しない方が増えています。人間関係がわずらわしいと言うのも分からなくもないですが、清掃や環境美化、防犯の点から考えても町内会の色々な活動は必要ではないのかと思います。行政ももっと関わり、一緒になって良い案を考えていけたら良いですね。大人は頭が凝り固まっているので、中学生とか高校生や大学生に意見を求めてみるのはどうでしょうか。

〇安心して暮らせるまちづくりに、協力もしていきたいし、そうなるようにしたいと思っていますが、今現在は、自分の生活には（仕事、家事、子育て、介護）すべて、この状況がついています。町内活動にも参加がむずかしいです。こういった活動に、実際に参加できる人は、時間、自分の周りの環境に恵まれている人なのかと思っています。中々、活動に参加できない人への町内会の圧力も多少感じています。

〇町内会で行っている防災訓練等へ小中学校や市職員も参加してもらいたい。

〇町内会への加入、町内活動への参加。

〇昔のような町内会は活動が難しく、やっかいだと思っている。行政がそれを代行し、必要なことをやっていただけるのが望ましい。

〇困った時に、急には話が出来ないと思うでので、（誰に話をしたら良いのか？等）、日頃からご近所の誰かとコミュニケーションが出来たら良いと思う。

Ⅴ．子育て・若者定着

人口減少の実感からくる将来への不安、若者の他県への流出への危機感があり、他自治体との比較（おいらせ町・六戸町等）による子育て支援の強化の要望がうかがえます。そのため、無料の室内遊び場の不足や長期休暇中の食事支援など、子育て支援の見える化や若者向け産業・雇用創出のための SNS 活用・発信を望む声が寄せられています。

（若者・子育て世代についての自由記述）

〇若い人達がこの街をどう思っているのかがネックだと思う。少子化が進み、人口減少が深刻化する中、安心して、子供を生み、育てることができる環境を本気でつくっていかないと、この国の将来はない。そのため、高齢者対策以上に若い人達が生き生きと将来を語ることができる、そういう街づくりが早急の課題と思う。

〇将来を担う子供達(不登校）への支援充実　防犯カメラの設置。

〇暑い日、寒い日、室内での活動が無料で利用できる施設があればいいなぁと思っています。八戸は、有料ばかり、我が家の孫達は、三沢のそらいえが好きです。ぜひ八戸にも、室内での無料の遊ぶ施設を考えてほしいです。

〇福祉に関わる意識を育てるために教育への介入や連携が必要。昨今、教師の働き方改革のため、休憩時間や部活動の切り離しをしたが、結果、子どもたちへのしわよせが見られている。給食時の見守りとしての外部の職種の介入や、部活動やクラブ活動の企業や地元住民の参加があることで、もっと地域と学校の協働ができると思う。なおかつ、それに予算を割き、時給を発生させなければ参加する人もしない。ボランティアは労働力と善為の搾取である。様々な年代や職業の人が子ども達と関われるようになって欲しい。とりわけ、小学校の放課後の時間は改善する余地がある。エスプロモや障がい福祉の事業所が学校の部活やクラブ活動に関わること、それに予算を割くことで、子どものうちから多年代や多職種と関わることができ、それが将来的な福祉の充実につながるのではないか。

〇子育てしている親が孤立しない環境作り（気軽に利用出来るサービスの提供。こども食堂の普及等)。

〇今の八戸の支援では、住民はいなくなると思う。おいらせ、六戸町のほうが全てにおいて支援が厚い。

〇長期休み中の子どもの食事支援をしてほしい。家で一人で食べる子、コンビニなどで済ませる子がいて、栄養面も心配です。

〇地域に若者が定着できるような会社があり、若者の流出をおさえる。互助を中心に、住民が地域に根ざすことで共助も期待できる。八戸市がモデルになる。「若者が流出せず、定着する街」

〇支援する側の育成、登録（防犯)、例：雪災害時は地元大学生等にボランティア活動として、協力をお願いする。

〇給付金を全国一律全国民におねがいします。

〇おいらせ町みたいに、沢山商品券をくばって下さい。

Ⅵ. 防災・インフラ

津波避難経路の整備や海抜表示の設置をはじめ、歩道整備や除雪強化、農業調整区域見直しなど、幅広く意見が寄せられています。

（防災についての自由記述）

（災害について）

〇普段の生活では地域のつながりを意識する場面が少ないが、先日の津波警報が出た際は、少し考えさせられた。自分の住んでいる地域はもちろん、職場でも地域の福祉について参加した方が、万が一の際助けあえるだろうなと感じた。

〇避難経路の道路整備が悪いため、高齢者、障がい者が避難するのが非常に困難です。故に、避難しやすい道路整備を行政にお願いしたいです。

〇地震、津波、洪水などの災害時に、市民だけではなく、誰でも、どこにいても安全に避難場所に移動できるように、津波避難経路の看板を矢印入りで設置してほしい。更に、「ここは海抜〇m」というような、海抜表示も、内陸の浸水区域に、多くの人の目にふれる形で設置してほしい。また、高齢者や障がい者も多く避難するであろう高台への道の整備を行政にお願いしたい。それを利用して、それぞれの地域が防災への備えをしていければと思う。行政にしかできない部分は、地域の声を待たずに実行してもらいたいと思う。行政のベースがあってこそ地域の弱者を置き去りにしない、命を守る支え合いができると思う。

〇災害など非常な事態が起こったとき、やはり近所同士の助け合いが不可欠だと思います。日頃から近所づきあいができるような町内会などのコミュニティが活性化できれば理想です。そのために、町内会ごとで災害訓練や避難所までの行き方確認ができればいいなと思います。高齢者、子どもたちに優しい市づくりをめざしたいです。

（除雪について）

〇雪が降るといつも思いますが、町内は高齢者が多くなって、思うように雪かきが出来なくなってきています。除雪の充実をお願いできれば幸いです。

Ⅶ. 健康づくり・予防重視

寝たきり予防の地域づくりなど、交流場所の整備や健康意識を向上するための施策、インフルエンザワクチン無償化などが望まれています。

（健康増進についての自由記述）

〇インフルエンザワクチンの無償化又は自己負担分の軽減。（年齢制限なし）

〇将来寝たきりにならないように、常に活動的に活動できる地域社会づくりを今よりもっとしていってほしいと思います。例えば、海外では寝たきりになる人が少ないといいますが、地域に日光浴やお茶を楽しむスペースがたくさんあったり、住民たちがコミュニケーションを自由に取りながら、のんびりマイペースに過ごせる空間がありますので、参考にしていきたいと思います。少子高齢化の時代なので自分としては、将来ほとんど人の手を貸りずに、元気に年を取っていきたいですし、そのような高齢者が増えていくことを望んでいます。

〇身近な人を信用できるか？の世の中になっています。デジタル化で外食もできるところが少なくなる中、年齢関係なく食事を作って食べるとかあったらいいですね。

〇少子高齢化が進み福祉や医療に係る支出が増加すると思いますが、その負担軽減のためには、各人の健康づくりが重要になると考えます。最近は運動・食生活に関する健康情報が増え、それを意識した人々が多くなっているように感じます。さらにその情報を拡大していただきたい。今回のアンケートには直接関係ないと思いますが、一応意見を述べさせていただきました。

Ⅷ. 制度設計・構造的提言

外国人の受入体制整備も含めたマンパワーやボランティアポイント制度などによる支援システム構築、さらには教育と福祉の連携の必要性を求める声が寄せられています。

（自由記述）

〇老人よりも子育て世代へサービスを充実してほしいのですが、近い将来、外国の方も住む世の中になりますので、現在の取り組みにプラスして考えていく必要がある。日常の当たり前を外国の方の日常にしていくには色々問題に対処しないといけない。人口減少の対策として国は、外国人受入を進めていくはずなので、コミュニケーションを始め、ゴミの出し方や、生活の細かなこと等、今のうちに受入体制を取り、良い環境、コミュニティを築くことができれば、地域の活性化が早くできます。日本人だけで人口を増やすには 20 年以上かかります。外国人定住対策の地域福祉を考える時期だと思います。

〇福祉教育や福祉意識の向上は大切だが、優先順位は後だ。まずは効果的対策を行い、福祉の充実を図ることが優先されるべき。そうすることで福祉教育や意識の向上にもつながる。「誰もが」の中に、無制限に外国人が入っていることも問題。借金をして日本に来て日本人よりも安い賃金で、良くない環境で暮らすことを余儀なくされていることで、犯罪は増え、「八戸＝安心して暮らせるまち」ではなくなる。盲目に国の方針に従うばかりでは、まちづくりは失敗だ。

〇1. 社会福祉事業予算の拡充. 2. マンパワーの拡大（行政・ボランティア）

〇ボランティア活動に参加しやすいように、情報を届けてくれたらうれしいです。

〇支援、援助を希望する人と、その支援、援助内容に協力できるボランティアとの紹介窓口とその情報の周知

〇小学校などでの福祉などの授業やボランティアへの積極的な参加活動・高齢者や障がい者の方たちとの交流、もっと当たり前に地域での交流が増えることで、より住みやすく、暮らしやすい八戸市になると思う。先日ジャックド祭りで、学生の方々を中心にゴミステーションでの声がけ、ごみ収集をしていた。大量のごみだったが、その声掛けがあったためか、ポイすてゴミは少なく、祭り会場も雰囲気は明るく、活気が感じられた　三社大祭では、ゴミ箱が見つけられず、ポイすてしているゴミも多くみられるので、市内でも是非やってみてほしいと思った。街をきれいにするために、ごみばこは多く設置した方がぜったいに良いと思います。

（施設整備、環境整備についての自由記述）

〇地域によって高齢者が多い所、子育て世代の多い所などそれぞれあるので、その地域に合った施設（老人ホームや児童館）を設ける必要があると思います。今は、働きながら子育てしていけるか不安です。

〇浜松市から転居してきましたが、同地と比べると行政支援による「こども食堂」や「学童施設」が少ないように思います。

〇支援学校や障がい者施設などを現状の郊外ではなく、中心地にすべきと考えています。認知することで相互理解が深まると思います。

〇子供、高齢者が安心して通れる歩道を整備してほしい。特に、八戸市は、道路工事などは多いが、歩道関係は草刈りなどが全然されていないし、歩道がガタガタ。中心地ばかり整備されている。草がボーボーで、犬のフンなどがおちている時もある。高齢者が歩くにはキケン。

〇福祉施設の充実と誰もが入所できる環境が必要。安心して生活できるように農業・田んぼの水路づくり、側溝新設を望む。後継者がいないし高齢者になって、農業ができない。

〇自分の年金で入れる施設がない。もらっている年金で入れる施設を作ってほしい。高くて入れない。

〇自宅で一人暮らしをしている人が体力的にその生活を維持できなくなったとき、近くに頼れる親族がいない等、行政が提供できるサービス（入居できる施設など）を拡充してほしい。

〇ＸＸＸの後地が不気味なので片付けて良い施設を作ってほしい。

（要望等について）

〇母を亡くし一年経過しましたが、本件アンケート直接関係あるか不明ですが、1ヶ所に長く入院することが不可で転院→転院と….同じ場所に長くいたら本人も少しずつ落ち着くと思うのですが、その辺の仕組がいまだにしっくりきません。縦わりなのか横のつながりなのか、その都度の手続書類が多すぎること。子育てでいうと、中学校までは学区があり、引っ越しを学区内で決めたが市営住宅はどんな理由でも抽選ですと言われ、決定するまで3年、高校入学に市営決定引っ越し、学区関係なくなり。引っ越しもお金、苦労かかり母子家庭は負担大(10年前の事です）これからはよくなるように！初めてのハローワーク、マザーズコーナー、不安のかたまりの中、接してくれた方は、マニュアル通り人をみていないと感じた。担当者にもよるのでしょうか？人間不信！これも10年前のことです。こういう思いはどこにぶつけたらいいのか？自由記述とあり書かせてもらいました。

〇そもそも”福祉”とは？名ばかりや形だけ、上っ面だけ、”地域住民が助けあって”ではなく、税金納めていて、恩恵受けている気がしないのと結局「出来ないことは地域住民助け合い」？だったら行政いらないだろ。税金返せ、と思う。何かあれば「相談」「手続き」等、なんでこっちに手間かけさせるのか。わざとわかりづらくしている国のしくみをまずは何とかしろ。こんなランダムアンケートじゃなく、1件1件まわって話を聞く覚悟を持て。昭和の方がしくみが成り立っていたのはなぜだ？スマホやパソコンと向き合う職員を動かして、話を聞きに行け、住民に責任をなすりつけるな。税金もらってる人が仕事しないからこんな世の中になっている。まずはそこから改善しろ。もう時間ないぞ。誰が、何に困っているのか、一つずつ解決しろ、それをやるのが仕事だ。アンケートを取るのが仕事では、ない。”聞いたつもり”になるな。それがまだ許されてた時代はとっくに終わっている。まだこんなことをやっているんだな、とあきれている。税金納めている限り、責任は必ず”行政”にある。地域住民の助け合いだのボランティアに頼るな。でなければ税金廃止すれば地域住民は自然と助け合うようになると思うよ？そもそもの目的は何なのか。助け合いが成り立てば､”福祉サービス”いらなくなる。困る人は誰なのか。”サービス”” ボランティア”なら困らないはずでは？ちゃんと意味のある仕事と人を動かしてほしい。文章は失礼な発言かもしれませんが全て本音です。そろそろ本気で国を変えないと。いつまでも上っ面ではこのまま国が終わっていくだけです。昭和より技術面は進化しているはずなのに、あの時代にずっと勝ててないのはなぜでしょうか？ずっと衰退している。住民同士が関われないのはみんな自分の生活で生きるのがやっとだからです。そこを変えろ！

〇ＸＸＸが多すぎる。増えてもいいが、今どきの服やメイクがなかなか手に入らないので、20代～30代をターゲットにした店をたくさんつくるべき。

〇町内会の高齢者は既成の事実であり運営団体、その存続が危ぶまれている状況下、福祉を支える能力が地域にあるのか疑問です。その背景には「権利を主張して義務を果たさない」を変だと思わない風潮の進行があるのではと考えます。アンケート調査するのであれば、行政に向けられている日々の苦情や要望等の生の声に関しての意見を聞くこともひつようではないでしょうか。現場で何が起こっているの

か、何が本当に必要とされているのかが見極められないと真実と向き合うのは難しいと思います。本調査は、一般的に福祉と解されるサービスや制度に着目した内容ですが、道路や下水道等のインフラに関する着眼がなかったのが残念なアンケート調査でした。

Ⅸ．その他

（アンケートについて）

〇福祉サービス、地域福祉の内容がよくわからないので行政への提言はできない。アンケート内容は、行政が、ではなく民間の他力にかたよっている気がするが。

〇今年の４月より転入した者であるため、八戸市のことをよく知らないままの回答となりました。新しい職場の関係になれるまで、地域を見る余裕がありません。今後、少しずつでも地域のことを見れていければいいと思います。拙い表現で恐縮ですが、参考になれば幸いです。よろしくお願いいたします。

〇地域福祉を推進するため現状把握のアンケートはいいと思います。アンケートを通して行政が考えていることが少し理解できたように思います。時代の変化に伴い、共働きとなり家にいる時間も少なくなり、近所のトラブルをさけるため人づき合いも減り、地域によっては高齢者ばかりでご近所づき合いをするメリットはありません。市民全体が市の取りくみを知っているのか、地域でのとりくみを強化するのであれば地域で集まる機会を作る必要があると思います。子育て世代は子供優先のため時間や時間帯をムリのない範囲で。高齢者もきやすい時間帯で、徒歩で行ける場所など。市で考えてはいることだとは思いますが、思いのまま書きました。

〇アンケートの内容が難しすぎる。このアンケートがどういう効果があるかわからない。同じ問題が多すぎる。もっと簡素化してほしい。

〇地域で福祉を推進していくためには地域の人の協力はかかせないと思います。しかし地域の人も仕事や子育て中や高齢者を介護している人などお手伝いできる人が少ないと思います…が色々なお手伝いで何ならできるとか１回/週は無理でも１回/月はできるという方がいると思いますそういう方をペアを組んだりしながらやっていけるように考えるとどうかなと思います。このアンケートで私自身色々考える機会となりました

（その他）

〇ありがとうございます。

〇とくにない

〇特になし

※　寄せられたご意見の趣旨等が変わらないよう、基本的にアンケートに記入された内容を掲載しています。
※　特定の企業名や民間の施設名については、「ＸＸ」で掲載しています。

まとめ（地域福祉の課題と今後に向けた活動）

1　地域との関わり

- 「身近な地域」は自宅周辺や町内会の範囲と捉えている。近所の人間関係は比較的良好と感じている人も多く、多くの住民が「住み慣れた地域で暮らせている」「今後も住み続けたい」と感じている。
- 一方で、地域団体同士の連携についても「分からない」という回答が多く、活動の実態が見えにくい状況がある。近所の付き合いは「挨拶程度」が半数で、関係は比較的浅い傾向がみられる。地域活動への参加は「参加したことがない」が半数以上である。参加しない理由は、「仕事や家事で忙しい。」「参加するきっかけがない。」「興味のある活動がない。」などが多くなっている。また、活動への負担として「時間がとられる」という意見もあり、住民同士の交流や助け合い、地域課題を話し合う場は十分とは感じられていない。
- 人とのつながり・孤独感をみると、孤独や孤立を感じる人は多くはないものの、「時々感じる」という人も一定数存在している。コロナ禍の影響については、「特に影響はない」という回答が多いが、友人・地域とのつながりが弱くなったと感じる人も一定数いる。また多様性に関する認識は、「多様性が尊重されている」と感じる人と、「分からない」とする人がほぼ同程度であり、認識にばらつきがある。

2　生活上の不安

- 「将来の生活」「高齢期の一人暮らし」「健康・介護」「経済面」「災害時の避難」が生活支援・防災への不安としてあげられ、災害時の対応や日常生活支援（買い物・除雪など）へのニーズが高い。自由記述からの意見では、「高齢化や孤立への不安」「町内会の担い手不足」「若者流出・子育て世代への支援」「情報発信不足」「防災対策への要望」であった。生活課題の相談先は家族や友人が中心である。
- 地域で受けたい支援は、「雪かき」「買い物・ごみ出し」「安否確認」など日常生活の支援が主であり、高齢化と孤立への不安の高まりや、将来の一人暮らしや介護、健康への不安が大きい。また支援側として地域住民自身が協力していくべき支援は、「高齢者支援」「防犯・防災」「子育て支援」があげられている。しかし、民生委員の認知度が低く、地域福祉の担い手が十分知られていない。さらには、ボランティア活動には関心はあるが参加していない人が多い。

3　地域交流・住民同士のつながりの希薄化

- 近所付き合いが挨拶程度にとどまり、交流や助け合いの活発さが十分に感じられていないほか、地域活動への参加の低さ、忙しさや参加のきっかけ不足により、住民参加が進んでいない様子がうかがえる。地域福祉活動の認知も不足しており、地域福祉の要といわれる民生委員など地域の支援体制が十分に知られていない。
- 地域コミュニティにおいては、町内会の高齢化や若年層の参加減少により担い手が不足や、情報発信の不足が指摘され、地域活動や支援制度の情報が住民に十分届いていない。

4　今後にむけて

以上のように本アンケート結果から、「地域住民同士のつながりの希薄化」、「地域活動の担い手不足」、「高齢化の進行による生活不安」、「地域福祉活動の認知不足」、「情報共有や防災体制の課題」が明らかとなった。

今後は、住民同士の交流促進や地域活動への参加機会の拡充、見守りや生活支援の充実、相談体制の強化、情報発信の充実などを通じて、住民と行政が協力しながら地域福祉の推進を図っていく必要がある。

① 住民同士の交流促進、地域交流の機会づくりの推進
- ● 気軽に集まれる場づくりや交流イベントなどを通じ、住民同士のつながりを強化する。

② 地域活動への参加機会の拡充、参加しやすい仕組みづくり
- ● 短時間参加や負担の少ない活動など、参加のハードルを下げる取り組みを進める。

③ 高齢者や孤立しやすい人への見守り体制の強化
- ● 安否確認や生活支援など、地域での支え合い活動を充実させる。

④ 地域福祉の担い手の周知と育成
- ● 民生委員や地域活動の役割を広く周知し、ボランティア参加を促進する。

⑤ 若者・子育て世代への支援と地域参加の促進
- ● 子育て支援や交流機会を通じて若い世代の地域参加を促す。

⑥ 情報発信の充実・強化
- ● SNSや紙媒体など多様な手段を活用し、地域活動や支援制度の情報を分かりやすく発信する。

⑦ 防災・生活支援体制の充実
- ● 災害時の支援体制や、買い物・除雪など日常生活支援の仕組みづくりを進める。

⑧ 住民と行政の協力体制の構築
- ● 行政や福祉関係者にとどまらず、NPOや地域おこし協力隊、まちづくり団体、商工会議所、青年会議所、ライオンズクラブ、生協、漁協、農業法人や農協などの各種団体との顔の見える連携を強化し、幅広いネットワークの構築を進め、地域の結束力を一層高め、持続可能な福祉活動の実現を目指す。

参考資料　アンケート調査票

「第５期八戸市地域福祉計画の策定に係るアンケート調査」御協力をお願いします　【回答期限：８月 25 日（月）】

市民の皆様へ

皆様には、日頃から市政に御理解と御協力をいただき、心より感謝申し上げます。

市では、誰もが住み慣れた地域で安心して自立した生活を送ることができる地域社会の実現を目指し、住民・事業者・行政が一体となって地域福祉を推進するため、平成 17 年３月に第１期目となる八戸市地域福祉計画を策定いたしました。

これまで４期にわたり、社会情勢の変化や国等の動向を踏まえ計画の見直しを行い、各種施策を推進しており、現在、次期計画として、令和９年度から令和 13 年度までの５年間を計画期間とする第５期計画の策定準備を進めております。

計画の策定にあたっては、市民の皆様の地域との関わりや福祉に関する意識、普段の生活における困りごとなど、地域福祉に係る現在の実態を把握することが重要であることから、この度、アンケート調査を実施することにいたしました。

つきましては、御多忙のところ大変お手数をおかけしますが、調査の趣旨を御理解いただき、何卒、御協力くださいますようお願い申し上げます。

令和７年７月

八戸市長　熊谷　雄一

調査票の記入にあたっての注意・回答方法

【注意】

- 本調査は、住民基本台帳の中から、一定条件のもとで無作為に抽出した皆様に御協力をお願いしております。
- 宛名の御本人がお答えください。御本人が記入できない場合は、御家族の方などが代筆してくださるようお願いします。
- 御記入いただいた内容は、上記目的以外に使用することは一切ありません。

【回答方法】　令和７年８月 25 日（月）までに、以下①②のいずれかの方法で回答ください。

① 紙の調査票による回答
三つ折りにして同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、投函してください。

② インターネットによる回答
URL もしくは QR コードより、専用ウェブサイトにアクセスし、回答ください。この場合、紙の調査票による回答は不要です。
URL：https://forms.gle/QQxErv7NMPU9cm8C7

アンケート調査　問合先・返送先

【調査受託者】八戸学院 地域連携研究センター（八戸市美保野 13 - 98）
TEL：0178-25-2789（内線 250）

【調査委託者】　八戸市 福祉部 福祉政策課　TEL：0178-43-9258（直通）

第５期地域福祉計画の策定に係るアンケート調査票

地域福祉とは

私たちが暮らしている地域は、少子高齢化・人口減少が進み、単身世帯の増加や個人のライフスタイルの多様化などにより、家族同士や近隣住民同士の支え合いや助け合いが薄れ、子育てや介護をしている家庭の孤立、社会的弱者への虐待、ひきこもり、孤独死など、様々な社会問題が発生しています。

地域福祉とは、そのような地域社会の問題や住民の生活課題に対して、住民同士や様々な関係機関が協力して解決に取り組み、誰もが安心して暮らしやすい地域づくりを目指すことです。



Ⅰ　あなた自身とご家族のことについて、伺います

(1)性別 （あなた自身）	1 男性　　2 女性 3 その他（どちらともいえない・分からない・答えたくない）
(2)年齢 （あなた自身）	1　18～29 歳　　2　30～39 歳 3　40～49 歳　　4　50～59 歳 5　60～69 歳　　6　70 歳以上
(3)同居家族の構成	1　夫婦のみ　　2　親・子の二世代 3　親・子・孫の三世代　　4　その他（　　） 5　同居家族はいない　　（一人暮らし）
(4)同居家族の状況 【あてはまるもの全てに○】	1　就学前の子ども　　2 小・中学生 3　高校生　　4　65 歳以上の高齢者 5　要介護又は要支援認定を受けている方 6　障がいのある方　　7 自宅で病気療養中の方 8　就労意欲があるが失業中の方　　9　いずれもいない
(5)公的支援 （あなた自身）	1　身体的・精神的・経済的な支援を受けている 2　身体的・精神的・経済的な支援を受けていない
(6)公的支援 （同居家族）	1　身体的・精神的・経済的な支援を受けている 2　身体的・精神的・経済的な支援を受けていない 3　同居家族はいない

第５期地域福祉計画の策定に係るアンケート調査票

⑺現在の居住 （小学校区）	ア・カ行　1 旭ケ丘　2 大久喜　3 柏崎　4 金浜　5 桔梗野 6 江南　7 江陽　8 小中野　9 是川 サ行　10 鮫　11 三条　12 島守　13 下長　14 白銀 15 白銀南　16 城下　17 城北　18 青潮 タ行　19 多賀　20 多賀台　21 高館　22 種差　23 田面木 24 長者　25 轟木　26 図南　27 豊崎 ナ行　28 中居林　29 南郷　30 新井田　31 西園　32 西白山台 33 根岸　34 根城 ハ行　35 白鷗　36 白山台　37 八戸　38 吹上 マ行　39 町畑　40 湊　41 明治 不明の場合は、町名をお書きください。（〇〇X丁目、大字□□字△△）
⑻居住年数 （市外転出後、再転入の場合は通算年数）	1　1年未満　2　1年以上5年未満 3　5年以上10年未満　4　10年以上30年未満 5　30年以上
⑼現在のご職業 （あなた自身）	1　自営・経営者　2　従業員など雇われている人 3　学生・生徒　4　家事専業 5　無職　6　その他（　　）
⑽市の保健や福祉に関する情報の入手方法 （あなた自身） 【あてはまるもの全てに〇】	1　広報はちのへ 2　市役所等の公的機関の窓口 3　町内会の回覧板 4　近所の人・友人 5　新聞・雑誌 6　テレビ・ラジオ 7　インターネット 8　民生委員・児童委員 9　社会福祉協議会等の民間団体 10　地域の高齢者支援センター 11　病院などの医療機関、薬局 12　介護・福祉施設 13　地区公民館 14　公共施設に置かれたパンフレットやチラシなど 15　Xやフェイスブックなどの SNS 16　その他（　　） 17　入手先が分からない 18　入手していない

第５期地域福祉計画の策定に係るアンケート調査票

Ⅱ お住いの地域との関わりについて、伺います

２－１ 「身近な地域」と感じるのはどの範囲ですか。【○は１つまで】

１ 自宅周辺の近隣	２ 町内会（自治会）の範囲	３ 小学校区
４ 中学校区	５ 市内全域	６ 分からない

２－２ 住んでいる地域について、どのように思いますか。
【それぞれ○は１つまで】

	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	分からない
①近所の人間関係は良好である	１	２	３	４	５
②住民による交流が活発である	１	２	３	４	５
③身近な助け合いやボランティア活動が活発である	１	２	３	４	５
④手助けや見守りを必要としている人への地域の人々の関心は強い	１	２	３	４	５
⑤地域で抱える課題について住民同士で話し合う機会や場がある	１	２	３	４	５
⑥地域の団体や企業、学校等の多様な団体が一緒に活動している	１	２	３	４	５
⑦住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができている	１	２	３	４	５
⑧今後も住み続けたい地域である	１	２	３	４	５

２－３ 近所の方とどのようなお付き合いをしていますか。【○は１つまで】

１ 困りごとを相談したり、親身に話を聞いてもらったりしている
２ たまに世間話をしたり立ち話をしたりする
→ **２－４** へ

３ あいさつをする程度
４ ほとんど付き合いはない
５ まったく関わりがない
→ **２－３－１** へ

２－３－１ 近所の方とお付き合いしていない理由は何ですか。
【あてはまるもの全てに○）

１ 仕事や家事、育児等で忙しい	２ 気の合う人、話の合う人が近くにいない
３ 知り合うきっかけがない	４ プライバシーを干渉されたくない
５ ご近所トラブルに巻き込まれたくない	６ 清掃奉仕や町内行事などへの参加が面倒くさい
７ 人付き合いが苦手	８ 必要性を感じない
９ その他（　　）	１０ 特に理由はない

２－４ へ

第５期地域福祉計画の策定に係るアンケート調査票

２－４　あなたがこの５年間に参加したことのある活動は何ですか。
【あてはまるもの全てに○】

１　地域のお祭り、町内会の行事や活動	
２　PTA など小・中学校の活動	
３　シニア（老人）クラブへの活動	
４　子育てサークルや子育てサロンなど、子育て世帯を支援する活動	
５　高齢者の見守りや配食、サロンなど、高齢者を支援する活動	
６　障がい者の見守りなど、障がい者を支援する活動	２－４－１ ～
７　健康づくりを支援する活動	２－４－３ へ
８　防犯、防災など地域の安全のための活動	
９　文化・スポーツなどのサークル活動	
１０ 清掃や環境美化のための活動	
１１ その他の NPO やボランティア活動	
１２ その他（　　）	
１３ 参加したことはない →	２－４－４ へ

２－４－１　活動に参加したきっかけは何ですか。
【あてはまるもの全てに○】

１　知人・友人に誘われた	２　家族から誘われた
３　職場や学校で参加することになった	４　地域や PTA の役員になった
５　市の広報紙を見た	６　活動に関するチラシを見た
８　ボランティア養成講座に参加した	７　インターネット・SNSを見た
９　その他（　　）	１０ 特にない

２－４－２　活動に参加して、よかったと感じたことは何ですか。
【あてはまるもの全てに○】

１ 新たな仲間ができた	２ 社会とのつながりができた
３ 知識や技術が身についた	４ 人に喜ばれることができた
５ 自分の生きがいになった	６ 健康管理に役立った
７ 地域に対する理解が深まった	８ その他（　　）
９ 特にない	

２－４－３　活動に参加して、負担と感じたことは何ですか。
【あてはまるもの全てに○】

１　時間がとられる	２　体力的・身体的にきつい
３　出費が多い	４　家族の理解が得られない
５　人間関係がわずらわしい	６　新しい技術や知識を身につける機会がない
７　ボランティア活動などに相談できる機関がない	
８　一緒に活動する仲間が少ない	９　情報が得にくい
１０　活動の場を確保しにくい	１１　その他（　　）
１２　特にない	

２－５　へ

２－４－４　活動に参加しない、または参加できない理由は何ですか。
【あてはまるもの全てに○】

１　仕事や家事、育児などで忙しい	２　参加したいが家族の理解が得られない
３　健康や体力に自信がない	４　経済的な負担を感じる
５　一緒に参加する仲間がいない	６　人間関係がわずらわしい
７　興味の持てる活動がない、活動がわからない	８　参加するきっかけがない
９　その他（　　）	１０　特にない

２－５　へ

２－５　今後あなたが参加してみたいと思う活動は何ですか。
【あてはまるもの全てに○】

１　地域のお祭り、町内会の行事や活動	
２　PTA など小・中学校の活動	
３　シニア（老人）クラブへの活動	
４　子育てサークルや子育てサロンなど子育て世帯を支援する活動	
５　高齢者の見守りや配食、サロンなど、高齢者を支援する活動	
６　障がい者の見守りなど、障がい者を支える活動	
７　健康づくりを支援する活動	
８　防犯、防災など地域の安全のための活動	
９　文化・スポーツなどのサークル活動	
１０　清掃や環境美化のための活動	
１１　その他の NPO やボランティア活動	
１２　その他（　　）	
１３　特にない	

第５期地域福祉計画の策定に係るアンケート調査票

２－６　誰もが暮らしやすい地域を目指すために、住民が協力して取り組んでいくことが必要だと思うことは何ですか。【○は３つまで】

１　子育て世帯への支援（悩みごと相談、地域ぐるみの見守り・協力など）
２　ひとり暮らし高齢者や高齢者のみ世帯への支援（見守り・安否確認など）
３　障がい者への支援（見守り・安否確認など）
４　子どもへの支援（世代間交流の促進・思いやりの醸成など）
５　健康づくりへの支援（疾病予防など）
６　防犯・防災・交通安全への支援（防犯パトロール・自主防災組織づくりなど）
７　教育・文化・スポーツ振興への支援
８　青少年の健全育成への支援
９　消費生活トラブルの防止（情報提供・地域への声かけなど）
１０ 町内会・自治会活動の推進
１１ その他（　　）
１２ 必要だと思うことはない

２－７　地域社会の問題に対して、住民がお互いに協力していくためには、どのようなことが必要だと考えますか。【○は３つまで】

１ 自ら進んで日頃から住民相互のつながりを持つように心がけること	
２ 町内会などが中心となって住民相互の交流活動を積極的に進めること	
３ ボランティアやNPO団体の活動を盛んにすること	
４ 地域の人が気楽に集まれる場所をつくること	
５ 地域の企業・団体が日頃から地域社会の活動に参加できるようにすること	**３－１** へ
６ 公民館などの地域活動の機能を強化すること	
７ 行政が地域活動に対する相談窓口を設置するなど援助体制を充実させること	
８ その他（　　）	
９ 必要だと思うことはない	**２－７－１** へ

２－７－１　「必要だと思うことはない」理由は何ですか。【○は１つまで】

１ 他人との関わりを持ちたくない	２ 個人の責任・自覚の問題
３ 住民相互の活動に期待していない	４ 友人・知人との結びつきがあれば十分
５ 地域の問題は行政が対応すべき	６ その他（　　）
７ 特にない	

第５期地域福祉計画の策定に係るアンケート調査票

Ⅲ 人とのつながりについて、伺います

３－１ 人とのつながりについて、どのように考えていますか。
【それぞれ○は１つまで】

	ない	ほとんどない	時々ある	常にある
①自分には人とのつきあいがないと感じることがありますか	1	2	3	4
②自分は取り残されていると感じることがありますか	1	2	3	4
③自分は他の人たちから孤立（つながりや助けのない状態）していると感じることがありますか	1	2	3	4
④どの程度、孤独（ひとりぼっちである精神的な状態）であると感じることがありますか	1	2	3	4

３－２ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による外出の自粛要請によって「人とのつきあい・つながり」への影響を感じますか。
【あてはまるもの全てに○】

1 家族とのつながりが弱くなった	2 友人・知人とのつながりが弱くなった
3 近所とのつながりが弱くなった	4 地域のつながりが弱くなった
5 会社とのつながりが弱くなった	6 孤独だと思う機会が増えた
7 個人での趣味や娯楽の機会が増えた	8 オンラインでの家族の連絡が増えた
9 その他（　　）	10 特に影響は感じない

３－３ 八戸市が年齢や性別など[*1]が異なっていても、多様性が尊重され、どのような立場にある人も自分らしくいられるまちだと感じますか。

※1 年齢、性別、性的指向や性自認、障がいや病気の有無、家族の形、職業、経済状況、国籍、文化的背景など　【○は１つまで】

1 そう思う	2 まあそう思う	
3 あまりそう思わない	4 そう思わない	5 分からない

第５期地域福祉計画の策定に係るアンケート調査票

Ⅳ 生活する上での課題について、伺います

４－１ 日常生活に関することで、困っていることや不安に思っていること（生活課題）がありますか。【それぞれ○は１つまで】

	現在、困っている	将来は不安がある	特に感じていない
1　子どもの養育や教育のこと	1	2	3
2　自分や家族の病気や健康のこと	1	2	3
3　家族の世話、医療・介護のこと	1	2	3
4　地域や職場、学校などでの人間関係のこと	1	2	3
5　自分や家族の将来の生活のこと	1	2	3
6　収入など経済面のこと	1	2	3
7　地域の防犯・治安のこと	1	2	3
8　地震や大雨などの自然災害時の避難のこと	1	2	3
9　就労や仕事（雇用・就職・転職・失業など）のこと	1	2	3
10 お金の管理や契約などの判断のこと	1	2	3
11 財産の管理や処分のこと	1	2	3
12 日常の外出や通院、買い物のこと	1	2	3
13 高齢になってからの一人暮らしのこと	1	2	3
14 子どもから世話を受け迷惑をかけること	1	2	3

４－２ 日常生活に関することで、困っていることや不安に思っていること（生活課題）を、誰に相談したいと思いますか。【○は３つまで】

1　家族・親戚	2　友人・知人	3　近所の人	4　職場の人
5　民生委員・児童委員	6　電子掲示板・SNS・AIチャットサービスなど	7　市役所の相談窓口	
8　病院・薬局	9　社会福祉協議会などの民間団体	10 高齢者支援センター	
11 介護・福祉施設	12 学校などの教育機関	13 保育所、幼稚園	
14 その他（　　）		15 相談できる人がいない	

４－３ 日常生活が不自由になったとき（高齢・病気・ケガ・要介護など）、地域でどのような援助をしてほしいと思いますか。【○は３つまで】

1　安否確認の声かけ	2　趣味など世間話の話し相手
3　買い物・ごみ出しの手伝い	4　玄関前の掃除・雪かきなど
5　短時間の子どもの預かり	6　悩みごと・心配ごとの相談相手

7　通院など外出時の付き添い	8　食事の準備・片付けなどの手伝い
9　その他（　　）	10　特に援助は必要ない

4－4　もし近くで、高齢・障がい・子育てなどで困っている人がいた場合、あなたが手助けできることは何ですか。【○は３つまで】

1　安否確認の声かけ	2　趣味など世間話の話し相手
3　買い物・ごみ出しの手伝い	4　玄関前の掃除・雪かきなど
5　短時間の子どもの預かり	6　悩みごと・心配ごとの相談相手
7　通院など外出時の付き添い	8　食事の準備・片付けなどの手伝い
9　その他（　　）	10　特に援助できることはない

Ⅴ 地域福祉を進めるための取組について、伺います

5－1　あなたの地区を担当する民生委員・児童委員の名前と役割を知っていますのか。【○は１つまで】

1　名前も活動内容も知っている
2　活動内容は知らないが名前は知っている
3　活動内容は知っているが名前は知らない
4　民生委員の名称は聞いたことがある
5　まったく知らない

5－2　あなたは、ボランティア活動に興味・関心がありますか。【○は１つまで】

1　すでにボランティア活動に参加している
2　興味・関心があり今後は活動に参加したい。
3　興味・関心はあるが今は活動への参加は考えていない
4　興味・関心はない

5－3　地震や津波、洪水などの災害が発生した際に、あなたは、どのような援助をしてほしいと思いますか。【あてはまるもの全てに○】

1　安否確認の声かけ　　2　避難行動の支援（避難所まで付き添うなど）
3　食料や水の確保・持ち運び　4　情報の収集・伝達
5　避難所でのお手伝い　　6　その他（　　）
7　特に援助は必要ない

５－４　地震や津波、洪水などの災害が発生した際に、ご近所の援助が必要な人に対して、あなたができることは何ですか。
【あてはまるもの全てに○】

1 安否確認の声かけ	2 避難行動の支援（避難所まで付き添うなど）
3 食料や水の確保・持ち運び	4 情報の収集・伝達
5 避難所でのお手伝い	6 その他（　　）
7 特に援助できることはない	

５－５　地域での支え合いを広めていくことは、行政の手が届かない生活課題などの解決にもつながるものと考えられますが、あなたは地域の住民同士が「支え手」や「受け手」となり、お互いに支え合いながら地域福祉を進めていくことについてどのように思いますか。【○は１つまで】

1 とても望ましい	2 望ましい	
3 あまり必要ない	4 必要ない	5 分からない

５－６　あなたは、ふだんの暮らしの中で困っていること（生活課題）や不安に思っていることを解決するためには、行政と地域住民の関係はどうあるべきだと思いますか。【○は１つまで】

1 社会福祉の推進に取り組む責任は行政にあるので住民は特に協力することはない
2 行政の手が届かない課題は住民が協力していくべき
3 行政も住民も協力しあいともに取り組むべき
4 家庭や地域で助け合いできない場合に行政が援助するべき
5 その他（　　）
6 分からない

５－７　あなたは、住民同士が支え合い、住み慣れた地域で誰もが安心して暮らすことができる地域社会の実現を目指す上で、住民が取り組む必要があることは何だと思いますか。【○は３つまで】

1 近隣住民と日常的な対話や交流を広げる
2 高齢者や障がい者と子ども・若い人たちとの交流を広げる
3 自治会が住民の身近な暮らしや、健康・安全・防災・防犯などの問題に取り組む
4 身近な地域で住民の暮らしや福祉について懇談する機会をつくる・増やす
5 地域で取り組まれている活動の交流や意見交換会を開催する

6 民生児童委員やボランティアとの協力・連携を広げる
7 ボランティア活動・地域福祉活動への参加をもっと増やす
8 その他（　　）
9 特にない、分からない

５－８ 今後、地域福祉を推進していくためには、行政の役割として、どのようなことが重要だと思いますか。【○は３つまで】

1 福祉意識を高めるための広報・啓発の強化
2 身近な場所での相談窓口の充実
3 市民が気軽に参画し、利用できる地域ごとの活動拠点づくり
4 地域における福祉活動の活動費や運営費に対する資金助成
5 地域福祉活動を推進する地域リーダーなどの人材育成
6 ボランティア、NPO などの育成支援
7 学校教育や社会教育での福祉教育の充実
8 高齢者・障がい者・児童の福祉施設の整備充実
9 在宅生活や子育てなどを支えるサービスの充実
10 福祉サービス利用者などを保護する権利擁護や苦情対応などの取組
11 通院や買い物などに必要な交通手段の充実
12 災害時における地域住民による支援体制の充実
13 その他（　　）
14 特にない

５－９ 今後、誰もが安心して暮らせるまちづくりを進めていくため、福祉サービスや地域福祉の進め方、保健・福祉行政への提言など、日頃考えていることを自由にご記入ください。（自由記述）

第５期地域福祉計画の策定に係るアンケート調査票

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

第５期八戸市地域福祉計画の策定に係る
市民アンケート調査
〒031-8686　八戸市内丸一丁目１番１号
TEL　0178-73-9258　　FAX 0178-43-0746
E-mail fukushiseisaku@city.hachinohe.aomori.jp
令和８年３月　八戸市　福祉部　福祉政策課　発行

【受託者：八戸学院地域連携研究センター】

第５期八戸市地域福祉計画の策定に係る
団体・事業所アンケート調査
【令和７（2025）年度実施】

報 告 書

令和８（2026）年３月

八 戸 市

目　次

調査概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

調査の結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

Ⅰ　事業所の概要について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

Ⅱ　地域で福祉活動を推進させるための取組について・・・・・・・・・・・・4

Ⅲ　今後の活動意向・要望について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

参考資料　　アンケート調査票・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

調査の概要

１．調査の目的

八戸市では、誰もが住み慣れた地域で安心して自立した生活を送ることができる地域社会の実現を目指し、住民・事業者・行政が一体となって地域福祉を推進するため、平成 17 年３月に第１期目となる八戸市地域福祉計画を策定し、これまで４期にわたり、社会情勢の変化や国等の動向を踏まえ計画の見直しを行い、各種施策を推進してきました。

現在、次期計画として、令和９年度から令和 13 年度までの５年間を計画期間とする第５期計画の策定準備を進めています。計画の策定にあたって、市内の団体・事業者が取り組んでいる地域福祉活動の実態や地域との関わり等について把握することが重要であることから、本アンケート調査を実施しました。

２．調査方法と回収状況

調査対象者	八戸市内の社会福祉団体等　50 事業所
調査方法	郵送配布・郵送回収（WEB 回答併用）
調査期間	令和７年８月７日～令和７年 10 月 28 日
有効回収数	33 件（内 WEB での回答：15 件）
有効回収率	66.0%

調査の結果

Ⅰ　事業所の概要について

1―1　貴事業所についてお答えください。【あてはまるものに☑】（回答：32 事業所）

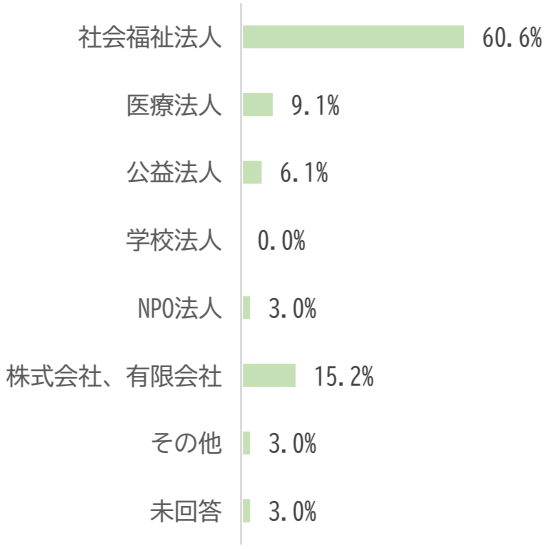
（1）運営主体

- 「社会福祉法人」が 60.6%、ついで「株式会社、有限会社」が 15.2%となっています。
- 「学校法人」が運営主体の事業所から回答はありませんでした（表1）。

（表1）運営主体

項目	回答数	割合（%）
1 社会福祉法人	20	60.6%
2 医療法人（社団・財団）	3	9.1%
3 公益法人（公益財団法人・公益社団法人）	2	6.1%
4 学校法人	0	0.0%
5 NPO 法人	1	3.0%
6 株式会社、有限会社	5	15.2%
7 その他	1	3.0%
未回答	1	3.0%
合計	33	100.0%

a 2 分グループを値 1 で集計します。

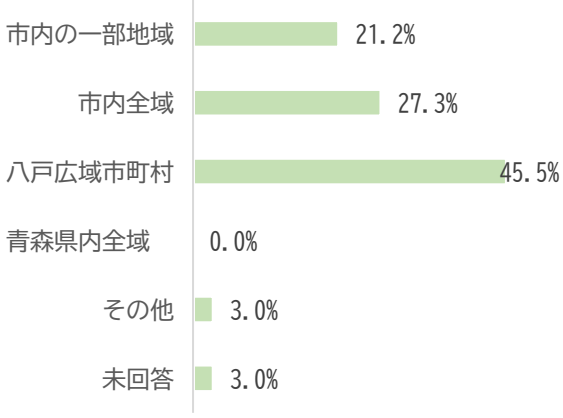


（2）活動地域

- 活動している地域は、「八戸広域市町村」が 45.5%、ついで「八戸市内全域」が 27.3%、「八戸市内一部地域」が 21.2%となっています（表2）。

（表2）活動地域

項目	回答数	割合（%）
1 市内の一部地域	7	21.2%
2 市内全域	9	27.3%
3 八戸広域市町村	15	45.5%
4 青森県内全域	0	0.0%
5 その他	1	3.0%
未回答	1	3.0%
合計	33	100.0%

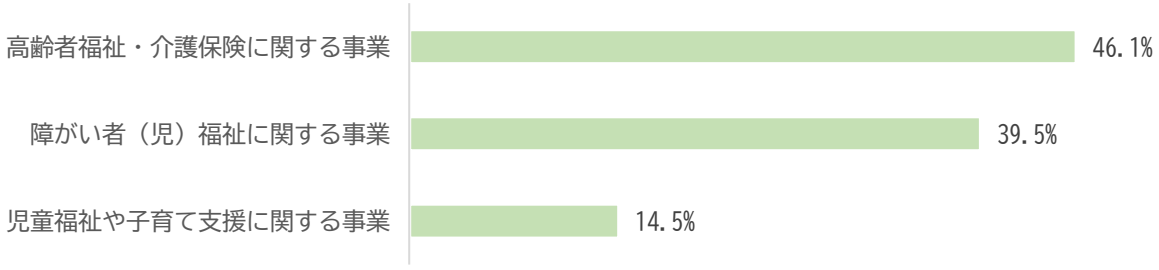


（３）事業分野

- 事業分野については、「高齢者福祉・介護保険に関する事業」が 46.1%、「障がい者（児）福祉に関する事業」が 39.5%、「児童福祉や子育て支援に関する事業」が 14.5%となっています（表３）。
- 事業区分でみると、児童分野の「認定こども園、保育園、地域子育て支援センター等」が最も多く 13.2%となっています。

（表３）事業分野

●高齢者福祉・介護保険に関する事業	回答数	割合（%）
1 訪問系サービス事業	8	10.5%
2 通所系サービス事業	5	6.6%
3 地域密着型サービス事業	7	9.2%
4 入所・居住系サービス事業	7	9.2%
5 居宅介護支援事業、高齢者支援センター	6	7.9%
6 高齢　その他の事業	2	2.6%
（小計）	35	46.1%
●障がい者（児）福祉に関する事業	回答数	割合（%）
7 訪問系サービス事業（居宅介護、重度訪問介護等）	5	6.6%
8 日中活動系サービス事業（生活介護、短期入所等）	3	3.9%
9 訓練系・就労系サービス事業（就労移行支援・就労継続支援、自立訓練等）	4	5.3%
10 居住系サービス事業（共同生活援助、自立生活援助）	3	3.9%
11 障がい児通所系サービス事業（児童発達支援、放課後等デイサービス等）	6	7.9%
12 相談系サービス事業（計画相談支援、障がい児相談支援等）	6	7.9%
13 障がい　その他の事業	3	3.9%
（小計）	30	39.5%
●児童福祉や子育て支援に関する事業	回答数	割合（%）
14 幼稚園	0	0%
15 認定こども園、保育園、地域子育て支援センター等	10	13.2%
16 児童　その他の事業	1	1.3%
（小計）	11	14.5%
合計	76	100.0%



Ⅱ 地域で福祉活動を推進させるための取組について

２－１　どのような団体・事業所と交流、協力関係にありますか。【あてはまるもの全てに☑】

- 「小中学校・高校・大学・専門学校」が 10.8%、以下、「町内会・自治会」が 10.1%、「障がい者（児）に関する事業所」が 9.5%、「高齢や介護に関する事業所」「保護者会・ＰＴＡ」がそれぞれ 8.8%となっています。全体的に、幅広く交流・協力関係にあることがうかがえます（表４）。
- 「他の団体・事業所と交流しておらず、協力関係にない」は、1 か所のみです。

（表４）交流・協力関係のある団体、事業所

項目	回答数	割合（%）
1 町内会・自治会	15	10.1%
2 シニア（老人）クラブ	0	0.0%
3 女性団体	2	1.4%
4 子ども会	1	0.7%
5 ボランティア団体	5	3.4%
6 ＮＰＯ法人	6	4.1%
7 商店会・商店街	4	2.7%
8 企業	11	7.4%
9 高齢者や介護に関する事業所	13	8.8%
10 障がい者（児）に関する事業所	14	9.5%
11 児童や子育て支援に関する事業所	9	6.1%
12 医療施設	13	8.8%
13 社会福祉協議会	8	5.4%
14 地区社会福祉協議会	5	3.4%
15 地区民生委員・児童委員協議会	8	5.4%
16 保護者会・ＰＴＡ	13	8.8%
17 小中学校・高校・大学・専門学校	16	10.8%
18 公民館	3	2.0%
19 その他	1	0.7%
20 他の団体・事業所と交流しておらず、協力関係にない	1	0.7%
合計	148	100.0%

a 2 分グループを値 1 で集計します。

２－１　で「１～19」を☑した方

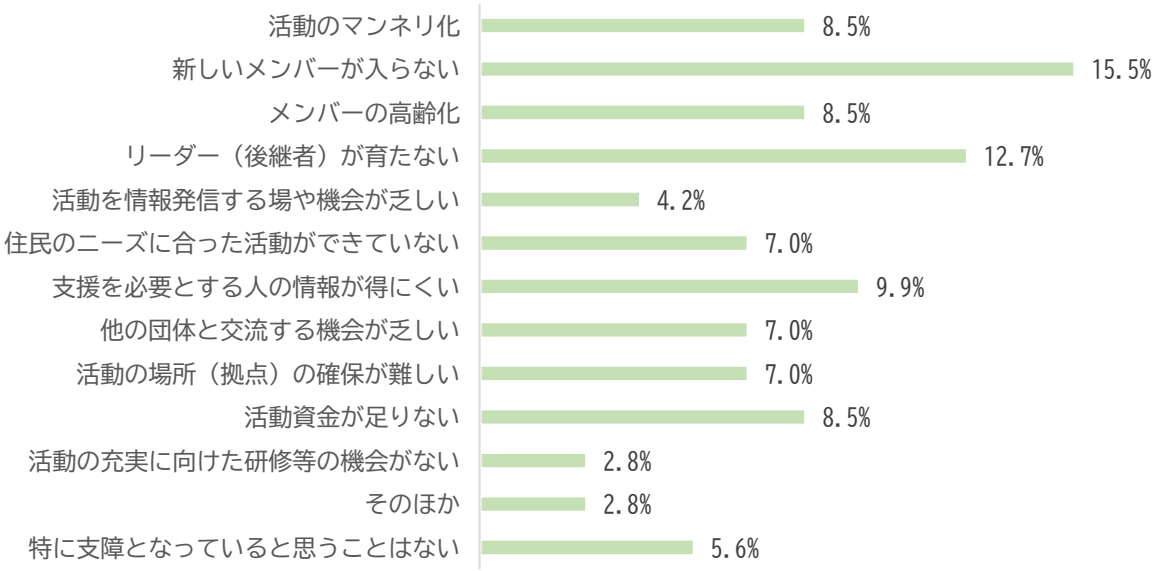
２－１－１　貴団体・事業所からみて、交流、協力関係にある団体等が福祉活動を行う上で、支障となっていると思われることは何ですか。【あてはまるもの全てに☑】　（回答事業所：31 か所）

- 「新しいメンバーが入らない」が 15.5%で多く、全体的に、幅広い課題があることがうかがえます（表５）。
- 「特に支障となっていると思うことはない」は４か所、5.6%となっております。
- 「そのほか」では、小、中学校行事への参加が挙げられています。

（表５）活動をする上での支障となっていること

項目	回答数	割合（%）
1 活動のマンネリ化	6	8.5%
2 新しいメンバーが入らない	11	15.5%
3 メンバーの高齢化	6	8.5%
4 リーダー（後継者）が育たない	9	12.7%
5 活動を情報発信する場や機会が乏しい	3	4.2%
6 住民のニーズに合った活動ができていない	5	7.0%
7 支援を必要とする人の情報が得にくい	7	9.9%
8 他の団体と交流する機会が乏しい	5	7.0%
9 活動の場所（拠点）の確保が難しい	5	7.0%
10 活動資金が足りない	6	8.5%
11 活動の充実に向けた研修等の機会がない	2	2.8%
12 そのほか	2	2.8%
13 特に支障となっていると思うことはない	4	5.6%
合計	71	100.0%

a 2 分グループを値 1 で集計します。

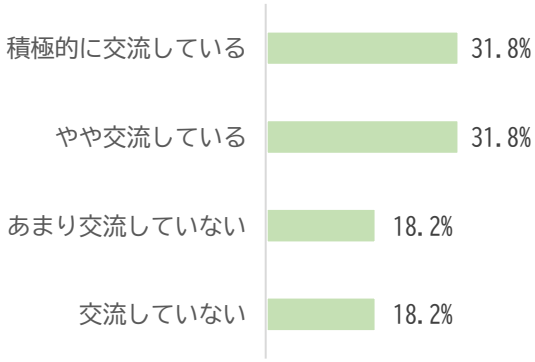


２－２　貴団体・事業所として、地域住民が参加できるイベントや事業を開催・実施するなど、地域住民との交流を図っていますか。【☑は１つまで】　（回答事業所：22 か所）

- 「積極的に交流している」「やや交流している」が 63.6%、「あまり交流していない」「交流していない」が 36.4%を占めています。
- 団体・事業所として、地域住民が参加できるイベントや事業を通して、地域住民との交流を図っていることがうかがえます（表６）。

（表６）地域住民との交流

項目	回答数	割合（%）
１ 積極的に交流している	7	31.8%
２ やや交流している	7	31.8%
３ あまり交流していない	4	18.2%
４ 交流していない	4	18.2%
合計	22	100.0%



２－２ で「１・２」を☑した方

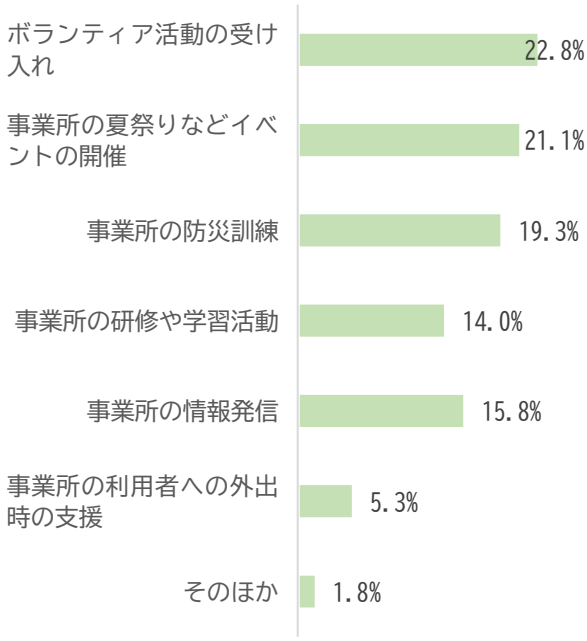
２－２－１　どのようなイベントや事業、交流をしていますか。【あてはまるもの全てに☑】（回答事業所：18 か所）

- 「ボランティア活動の受け入れ」が 22.8%、「事業所の夏祭りなどイベントの開催」が 21.1%、「事業所の防災訓練」が 19.3%を占めています。
- 団体・事業所の行事を利用した、地域住民との交流がうかがえます（表７）。

（表７）イベントや事業、交流の内容

項目	回答数	割合（%）
１ ボランティア活動の受け入れ	13	22.8%
２ 事業所の夏祭りなどイベントの開催	12	21.1%
３ 事業所の防災訓練	11	19.3%
４ 事業所の研修や学習活動	8	14.0%
５ 事業所の情報発信	9	15.8%
６ 事業所の利用者への外出時の支援	3	5.3%
７ そのほか	1	1.8%
合計	57	100.0%

a 2 分グループを値 1 で集計します。



２－２　で「３・４」を☑した方

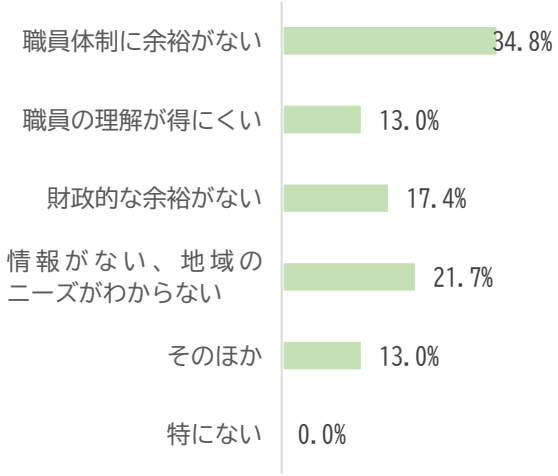
２－２－２　どのような理由があって交流していませんか。【あてはまるもの全てに☑】（回答事業所：14 か所）

- 「職員体制に余裕がない」が 34.8%、「情報がない、地域のニーズがわからない」が 21.7%を占めております。
- 19 か所は未回答であり、交流に支障はないものの、地域住民との交流に踏み出せない様子がうかがえます（表８）。
- 「そのほか」では、感染症の心配が挙げられています。

（表８）地域住民と交流できない理由

項目	回答数	割合（%）
１ 職員体制に余裕がない	8	34.8%
２ 職員の理解が得にくい	3	13.0%
３ 財政的な余裕がない	4	17.4%
４ 情報がない、地域のニーズがわからない	5	21.7%
５ そのほか	3	13.0%
６ 特にない	0	0.0%
合計	23	100.0%

a 2 分グループを値 1 で集計します。

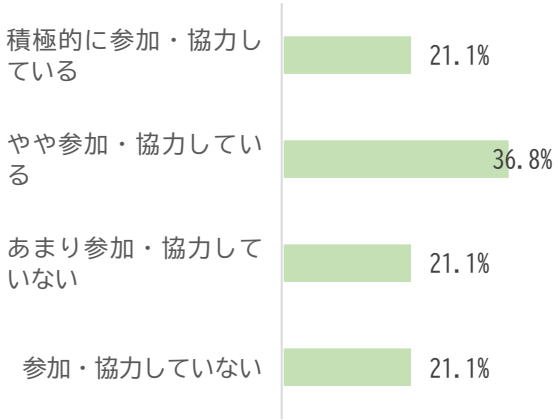


２－３　貴団体・事業所として、地域や地域住民が行っているイベントや事業、活動に参加・協力していますか。【☑は１つまで】　（回答事業所：19 か所）

- 「積極的に参加・協力している」「やや参加・協力している」が 57.9%で半数以上、「あまり参加・協力していない」「参加・協力していない」が 42.2%を占めています（表９）。

（表９）施設・事業所の地域イベントへの協力状況

項目	回答数	割合（%）
１ 積極的に参加・協力している	4	21.1%
２ やや参加・協力している	7	36.8%
３ あまり参加・協力していない	4	21.1%
４ 参加・協力していない	4	21.1%
合計	19	100.0%



２－３ で「１・２」を☑した方

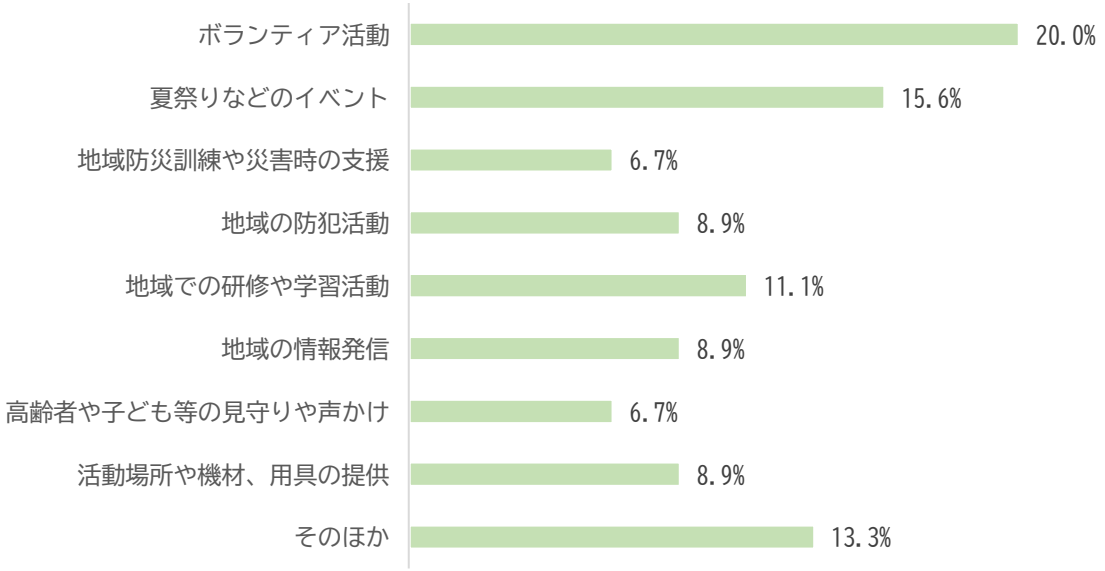
２－３－１　参加・協力しているのは、どのようなイベントや事業、活動ですか。【あてはまるもの全てに☑】（回答事業所：24 か所）

- 地域や地域住民が行っているイベントや事業、活動に参加している状況をみると「ボランティア活動」が 20.0%、「夏祭りなどのイベント」が 15.6%を占めており、幅広く参加している状況がうかがえます（表 10）。
- 「そのほか」では、「月１回の町内会での清掃活動に参加」、「町内会活動の参加、協力」が挙げられています。

（表 10）団体・事業所の地域イベントへの参加内容

項目	回答数	割合（%）
1 ボランティア活動	9	20.0%
2 夏祭りなどのイベント	7	15.6%
3 地域防災訓練や災害時の支援	3	6.7%
4 地域の防犯活動	4	8.9%
5 地域での研修や学習活動	5	11.1%
6 地域の情報発信	4	8.9%
8 高齢者や子ども等の見守りや声かけ	3	6.7%
9 活動場所や機材、用具の提供	4	8.9%
10 そのほか	6	13.3%
合計	45	100.0%

a 2 分グループを値 1 で集計します。



２－３ で「３・４」を☑した方

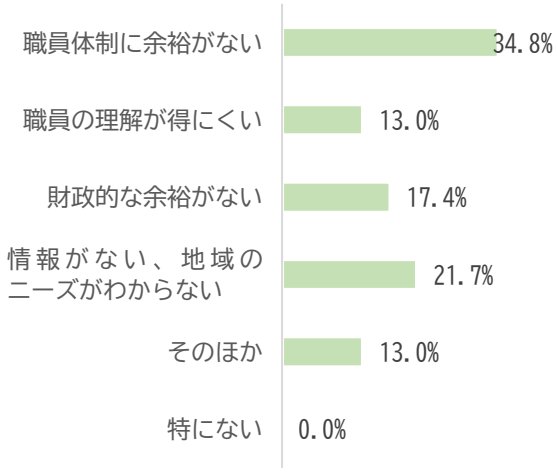
２－３－２　どのような理由があって、参加・協力していませんか。【あてはまるもの全てに☑】（回答事業所：14 か所）

- 回答内容は、２－２－２と同様で「職員体制に余裕がない」が 34.8%、「情報がない、地域のニーズがわからない」が 21.7%を占めています（表 11）。
- 「そのほか」では、地域のイベントが特にない、が挙げられています。

（表 11）　施設・事業所の地域イベントへの協力が難しい理由

項目	回答数	割合（%）
1 職員体制に余裕がない	8	34.8%
2 職員の理解が得にくい	3	13.0%
3 財政的な余裕がない	4	17.4%
4 情報がない、地域のニーズがわからない	5	21.7%
5 そのほか	3	13.0%
6 特にない	0	0.0%
合計	23	100.0%

a 2 分グループを値 1 で集計します。

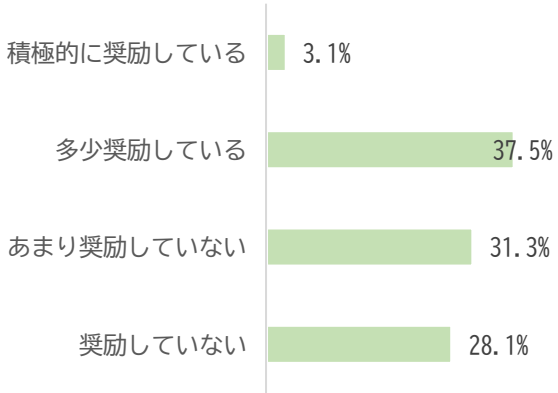


２－４　貴団体・事業所の職員に対して、地域や地域住民が行っているイベントや事業、活動への参加・協力を奨励していますか。【☑は１つまで】　（回答事業所：32 か所）

- 「積極的に奨励している」「多少奨励している」は 40.6%、「あまり奨励していない」「奨励していない」が 59.4%を占めています（表 12）。
- 事業所としては、職員体制に支障をきたす可能性を考慮し、あまり奨励していない様子がうかがえます。

（表 12）　地域イベント等への職員の参加・協力の奨励の状況

項目	回答数	割合（%）
1 積極的に奨励している	1	3.1%
2 多少奨励している	12	37.5%
3 あまり奨励していない	10	31.3%
4 奨励していない	9	28.1%
合計	32	100.0%

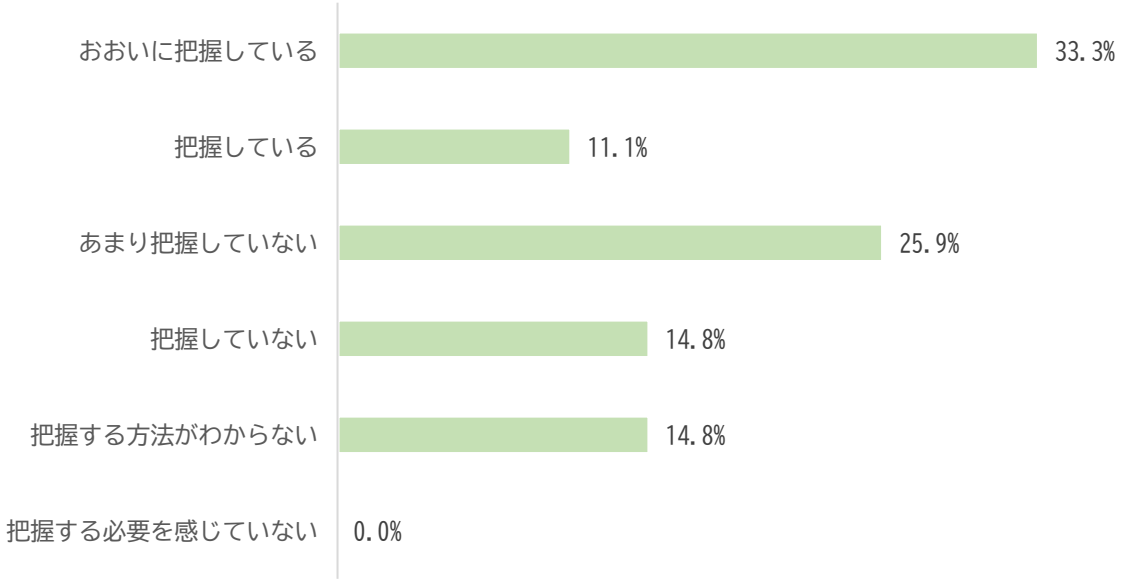


２－５　地域の抱えている課題や住民のニーズを把握していますか。【☑は１つまで】（回答事業所：27 か所）

- 「おおいに把握している」「把握している」は 44.4%、「あまり把握していない」「把握していない」が 40.7%を占めています。一方、「把握する方法がわからない」も 14.8%あります（表 13）。
- 事業所として地域の課題や住民のニーズを把握する必要性についての意識の違いがうかがえます。

（表 13）　地域の課題や住民のニーズの把握の状況

項目	回答数	割合（%）
1 おおいに把握している	9	33.3%
2 把握している	3	11.1%
3 あまり把握していない	7	25.9%
4 把握していない	4	14.8%
5 把握する方法がわからない	4	14.8%
6 把握する必要を感じていない	0	0%
合計	27	100.0%



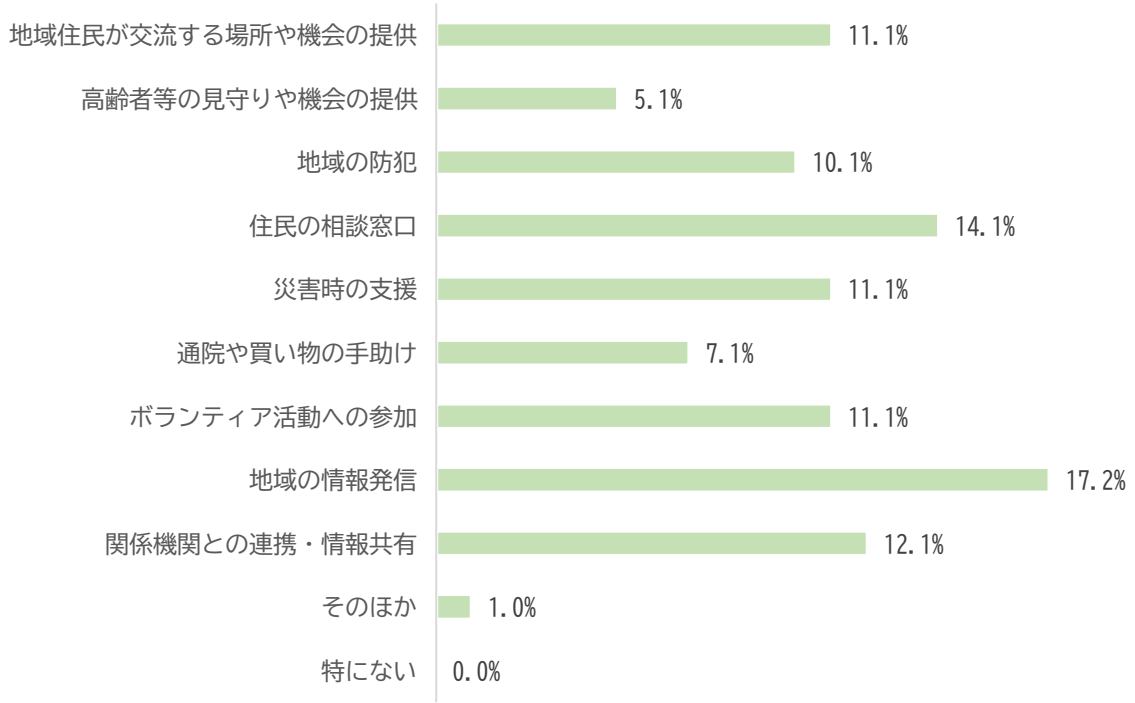
２－６　地域の抱えている課題や住民のニーズを踏まえ、また把握していない場合でも、貴団体・事業所として、地域の福祉活動において、どのような役割を担うことができますか。【あてはまるもの全てに☑】　（回答事業所：32 か所）

- 「地域の情報発信」が 17.2%、「住民の相談窓口」が 14.1%を占めています（表 14）。
- 地域の福祉活動において、事業所の特性を生かした役割を担うことを考慮した回答がうかがえ、積極的な役割への呼びかけが期待されます。

（表 14）地域の福祉活動のために担える役割

項目	回答数	割合（%）
1 地域住民が交流する場所や機会の提供	11	11.1%
2 高齢者等の見守りや機会の提供	5	5.1%
3 地域の防犯	10	10.1%
4 住民の相談窓口	14	14.1%
5 災害時の支援	11	11.1%
6 通院や買い物の手助け	7	7.1%
7 ボランティア活動への参加	11	11.1%
8 地域の情報発信	17	17.2%
9 関係機関との連携・情報共有	12	12.1%
10 そのほか	1	1.0%
11 特にない	0	0.0%
合計	99	100.0%

a 2 分グループを値 1 で集計します。



Ⅲ 今後の活動意向・要望について

３－１　今後、地域で福祉活動を実施する場合、連携したい団体や機関（現在連携中で、継続したい団体や機関を含む）はありますか。【あてはまるもの全てに☑】　（回答事業所：33 か所）

- 「町内会・自治会」が 8.7%で、多く占めています（表 15）。
- 「企業」や「高齢者や介護に関する事業所」「障がい者（児）に関する事業所」「児童や子育て支援に関する事業所」「医療施設」など、他の法人や団体との連携を望むことも多くみられます。

（表 15）　福祉活動を実施する上での連携したい団体・機関

項目	回答数	割合（%）
1 町内会・自治会	19	8.7%
2 シニア（老人）クラブ	6	2.8%
3 女性団体	9	4.1%
4 子ども会	8	3.7%
5 ボランティア団体	9	4.1%
6 ＮＰＯ法人	10	4.6%
7 商店会・商店街	6	2.8%
8 企業	12	5.5%
9 高齢者や介護に関する事業所	13	6.0%
10 障がい者（児）に関する事業所	17	7.8%
11 児童や子育て支援に関する事業所	14	6.4%
12 医療施設	17	7.8%
13 社会福祉協議会	13	6.0%
14 地区社会福祉協議会	12	5.5%
15 地区民生委員・児童委員協議会	13	6.0%
16 保護者会・ＰＴＡ	16	7.3%
17 小中学校・高校・大学・専門学校	17	7.8%
18 公民館	5	2.3%
19 その他	2	0.9%
20 特にない	0	0.0%
合計	218	100.0%

a 2 分グループを値 1 で集計します。

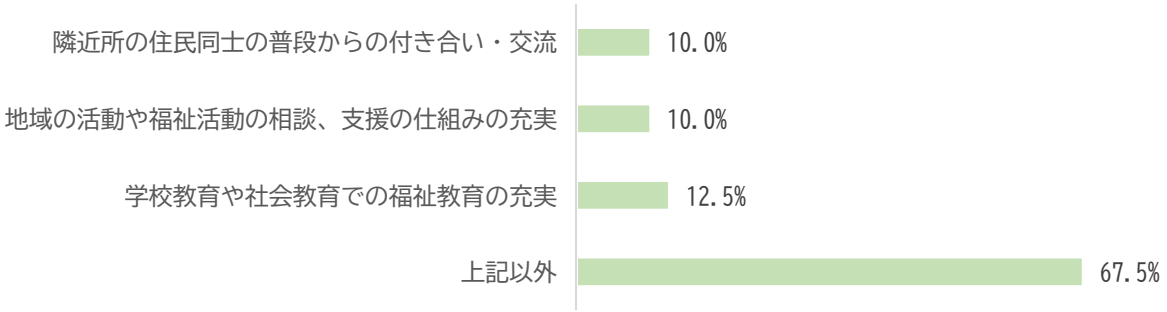
３－２　今後、住民同士や様々な主体（住民・事業者・ボランティア・NPO・行政など）が連携・協力して、地域での福祉活動をさらに活性化させるために、どのような取組が必要だと思いますか。【☑は３つまで】　（回答事業所：26 か所）

- 「学校教育や社会教育での福祉教育の充実」が 12.5%で、多く占めています（表 16）。
- そのほか、「隣近所の住民同士の普段からの付き合い・交流」「地域の活動や福祉活動の相談、支援の仕組みの充実」など、地域で活動するための連携の取組みが多くなっています。

（表 16）福祉活動をさらに活性化させるための必要な取組

項目	回答数	割合（%）
1 隣近所の住民同士の普段からの付き合い・交流	8	10.0%
2 高齢者や子どもなど地域の見守りが必要な方への日常的な声かけ	7	8.8%
3 地域の伝統的な行事や特徴的な取組を通じた住民とのつながりの拡充	4	5.0%
4 福祉に関する情報提供体制の充実	6	7.5%
5 地域で活動するリーダーや福祉活動に携わる人の育成	5	6.3%
6 地域で活動している人たちの連携づくり	6	7.5%
7 同じような問題で困っている人・関係者同士の交流	3	3.8%
8 地域の活動の積極的な情報提供と参加の呼びかけ	4	5.0%
9 地域の活動や福祉活動の相談、支援の仕組みの充実	8	10.0%
10 誰もが集まれる身近な場所づくり	4	5.0%
11 地域の福祉活動（ボランティア活動を含む）の拠点となる場所の拡充	3	3.8%
12 地域における福祉活動の活動費、運営費などの資金確保	7	8.8%
13 学校教育や社会教育での福祉教育の充実	10	12.5%
14 個人の趣味や活動を活かせる場づくり	3	3.8%
15 成年後見制度等の権利擁護制度の利用促進	1	1.3%
16 多種多様な人を受け入れる社会づくり	0	0.0%
17 その他	1	1.3%
18 特にない	0	0.0%
合計	80	100.0%

a 2 分グループを値 1 で集計します。



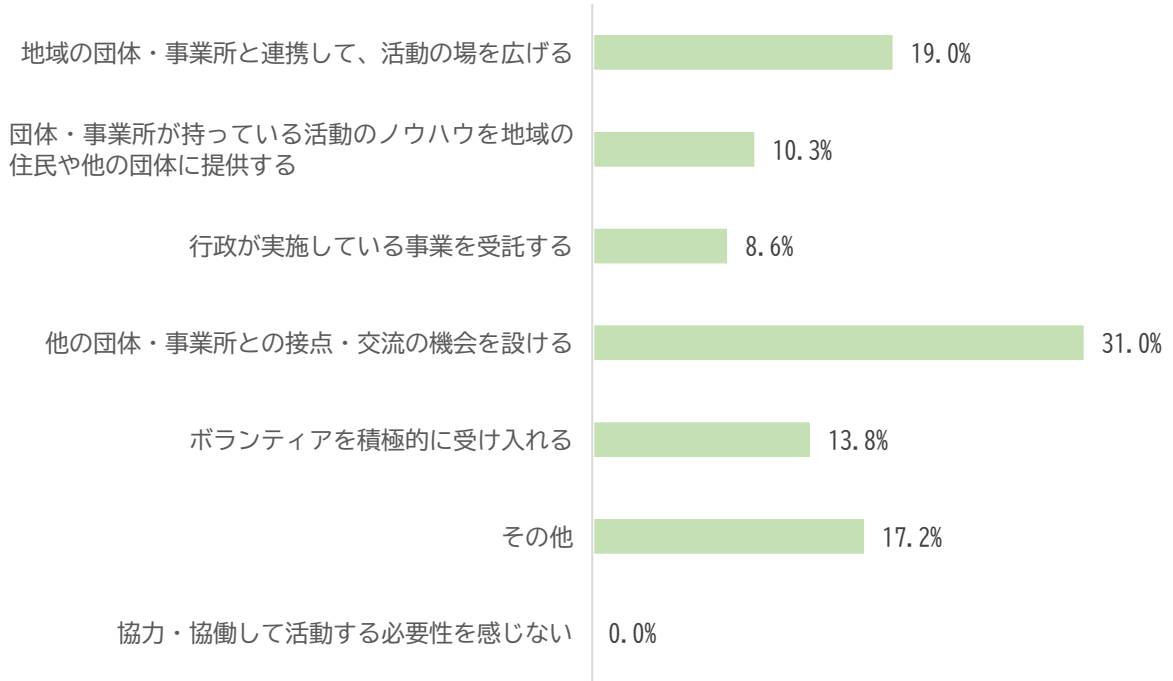
３－３　地域での福祉活動には、様々な主体（住民・事業者・ボランティア・NPO・行政など）が協力・協働していくことが求められていますが、貴団体・事業所の取組として、今後どのような活動を進めたいと思いますか。【☑は３つまで】　（回答事業所：26 か所）

- 「他の団体・事業所との接点・交流の機会を設ける」が 31.0%、「地域の団体・事業所と連携して、活動の場を広げる」が 19.0%を占めています（表 17）。
- 顔が見える関係として、接点や交流の機会を設けるなど、活動の場を広げる取組みが期待されます。

（表 17）団体・事業所が今後取り組みたい活動

項目	回答数	割合（%）
1 地域の団体・事業所と連携して、活動の場を広げる	11	19.0%
2 団体・事業所が持っている活動のノウハウを地域の住民や他の団体に提供する	6	10.3%
3 行政が実施している事業を受託する	5	8.6%
4 他の団体・事業所との接点・交流の機会を設ける	18	31.0%
5 ボランティアを積極的に受け入れる	8	13.8%
6 その他	10	17.2%
7 協力・協働して活動する必要性を感じない	0	0.0%
合計	58	100.0%

a 2 分グループを値 1 で集計します。



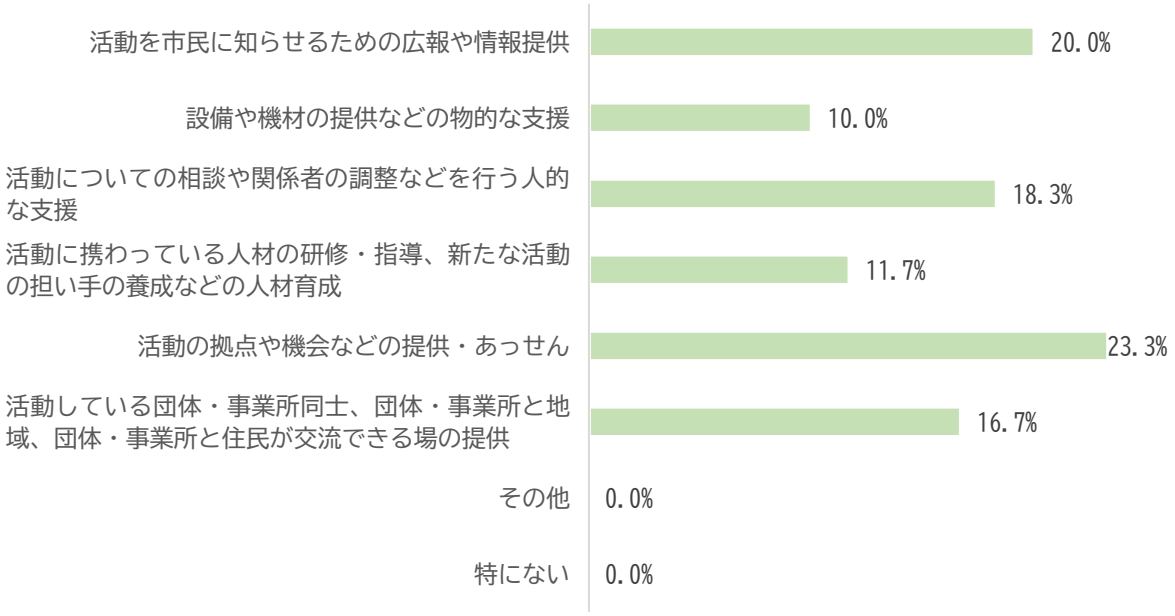
３－４　今後、八戸市が地域福祉の推進のために取り組む施策として、次のどれを優先し、充実させる必要があると思いますか。【☑は３つまで】　（回答事業所：29 か所）

- 「活動の拠点や機会などの提供・あっせん」が 23.3%、「活動を市民に知らせるための広報や情報提供」が 20.0%を占めています（表 18）。
- 活動の拠点、広報活動、調整などを行う人的な支援が期待されています。
- その他に次の意見が寄せられています。（原文のまま）
  - 市及び街全体で協力体制が整っていない。福祉を推進している地域に見学や研修で赴き、障がい者や高齢者、また介護に携わる関係者に優しい街を作っていただきたい。
  - 現在直面しているのは、地域で生活している、透析を必要としている方々の対応だと感じています。住み慣れた地域で生活するのは大変喜ばしい事だと思っていますが、入所を考えなければならなくなった場合、透析をしているだけで断られてしまいます。その様な方は地域やボランティアだけでは支援しきれない部分が出ております。透析をしていても、将来に不安がない生活をサポートが必要かと思われます。
  - 地域との連携については、町内会、シニアクラブ等との接触を濃淡はともかくとして一応継続して行われている。但し、コロナ禍の影響で関係性は薄れてきている。また、当方組織の人材拡充の問題（特に産休、育休、有給休暇取得希望への対応等）もあり、地域福祉の推進は理解しているつもりだが自組織の充実化が優先課題となっている。いわば古くて新しい問題であり制度上の問題でもあるため、当方独自の対策にも限界があり、余裕がないというのが現実である。

（表 18）八戸市の地域福祉の推進のための優先施策

項目	回答数	割合（%）
1 活動を市民に知らせるための広報や情報提供	12	20.0%
2 設備や機材の提供などの物的な支援	6	10.0%
3 活動についての相談や関係者の調整などを行う人的な支援	11	18.3%
4 活動に携わっている人材の研修・指導、新たな活動の担い手の養成などの人材育成	7	11.7%
5 活動の拠点や機会などの提供・あっせん	14	23.3%
6 活動している団体・事業所同士、団体・事業所と地域、団体・事業所と住民が交流できる場の提供	10	16.7%
7 その他	0	0.0%
8 特にない	0	0.0%
合計	60	100.0%

a 2 分グループを値 1 で集計します。



３－５　今後、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし、誰一人取り残さない地域づくりを進めるために、ご意見・ご要望がありましたら自由にご記入ください。（自由記述）

- 若者に取り組みに対しての意識を持ってもらうこと、参加できる様な情報発信が必要だと思う。動いている人が何となく高齢の方達のような気がします。
- ひとつひとつの福祉事業に、ちがう制度や資格のちがいがありますが、もう少し福祉の壁をバリアフリー化し、気軽に合流、オープンスペースでともに交流できる制度、場所、人が多くできるといいと思う。（老人・保育・障がい等）
- 新しく転入してきた若い世代が町内会に加入せず、交流がない。世代間の考え方にギャップを感じる。町内会の高齢化で活動範囲がせばまっている。地域の連携が弱くなっている。
- 差別と非難が多く、年を重ねると特にひどくなる。「昔は」ではなく「今は」を受け取ることが出来るよう、また、その逆も出来るような、交流作りが出来る場を増やしてほしい。
- 今まで以上に、地域福祉に関する法整備等が必要。
- 要介護の方はある程度サービス利用でニーズが充足されていると思うが、要支援の方はサービス利用に制限、ルールがあり、ニーズが充足されていない。例えば要支援１の方は入浴サービスが週１回しか利用できない。自宅に風呂がない、一人で入浴できない人はとり残されている。地域の中で支え助け合うコミュニティ作りやボランティアの仕組みづくりを小さな地域で作れれば地域のニーズに合った支え合いができると思う。小、中、高、障害者、引きこもり、大学生がもっと地域で活動できる仕組みも必要だと思う。
- 社会福祉法人として地域との連携は必要。地域住民の方々にはとても良くしてもらっている。困り事、ニーズについてどのような形でサポートできるか、話し合う機会があればなお良いと思う。

参考資料　アンケート調査票

「第５期八戸市地域福祉計画の策定に係るアンケート調査」御協力をお願いします　【回答期限：10月28日（火）】

団体・事業所の皆様へ

皆様には、日頃から市政に御理解と御協力をいただき、心より感謝申し上げます。

市では、誰もが住み慣れた地域で安心して自立した生活を送ることができる地域社会の実現を目指し、住民・事業者・行政が一体となって地域福祉を推進するため、平成17年3月に第1期目となる八戸市地域福祉計画を策定いたしました。

これまで4期にわたり、社会情勢の変化や国等の動向を踏まえ計画の見直しを行い、各種施策を推進しており、現在、次期計画として、令和9年度から令和13年度までの5年間を計画期間とする第5期計画の策定準備を進めております。

計画の策定にあたっては、市内の団体・事業者が取り組んでいる地域福祉活動の実態や地域との関わり合い等について把握することが重要であることから、この度、アンケート調査を実施することにいたしました。

つきましては、御多忙のところ大変お手数をおかけしますが、調査の趣旨を御理解いただき、何卒、御協力くださいますようお願い申し上げます。

令和7年8月

八戸市長 熊谷 雄一

調査票の記入にあたっての注意・回答方法

【注意】

- 本調査は、市内の社会福祉団体等の事業所の中から、一定条件のもとで無作為に抽出した皆様に御協力をお願いしております。
- 回答いただく方は、法人代表者、施設長などを想定しております。
- 回答の内容は、上記目的以外に使用することは一切ありません。

【回答方法】令和7年10月28日（火）までに、①②のいずれかの方法で回答ください。

① 紙の調査票による回答

三つ折りにして同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、投函してください。

② インターネットによる回答

URLもしくはQRコードより、専用ウェブサイトにアクセスし、回答ください。この場合、紙の調査票による回答は不要です。

URL：https://forms.gle/JcznFD7vX6neMZTe9

アンケート調査　問合先・返送先

【調査受託者】八戸学院 地域連携研究センター（八戸市美保野13－98）
TEL：0178-25-2789（内線250）

【調査委託者】　八戸市 福祉部 福祉政策課　TEL：0178-43-9258（直通）

地域福祉・地域福祉活動とは

私たちが暮らしている地域は、少子高齢化・人口減少が進み、単身世帯の増加や個人のライフスタイルの多様化などにより、家族同士や近隣住民同士の支え合いや助け合いが薄れ、子育てや介護をしている家庭の孤立、社会的弱者への虐待、ひきこもり、孤独死など、様々な社会問題が発生しています。「地域福祉」とは、そのような地域社会の問題や住民の生活課題に対して、住民同士や事業者、関係機関等が協力して解決に取り組み、誰もが安心して暮らしやすい地域づくりを目指すことで、そのための活動を「地域福祉活動」と呼んでいます。



Ⅰ　貴事業所の概要について、伺います

1―1　貴事業所についてお答えください。【あてはまるものに☑】

運営主体	□１　社会福祉法人 □２　医療法人（社団・財団） □３　公益法人（公益財団法人・公益社団法人） □４　学校法人 □５　NPO 法人 □６　株式会社、有限会社 □７　その他（　　）
活動地域	□１　市内の一部地域 □２　市内全域 □３　八戸広域市町村 □４　青森県内全域 □５　その他（　　）
事業分野	●高齢者福祉・介護保険に関する事業 □１　訪問系サービス事業 □２　通所系サービス事業 □３　地域密着型サービス事業 □４　入所・居住系サービス事業 □５　居宅介護支援事業、高齢者支援センター □６　その他の事業（　　）

	●障がい者（児）福祉に関する事業 □7 訪問系サービス事業（居宅介護、重度訪問介護等） □8 日中活動系サービス事業（生活介護、短期入所等） □9 訓練系・就労系サービス事業（就労移行支援・就労継続支援、自立訓練等） □10 居住系サービス事業（共同生活援助、自立生活援助） □11 障がい児通所系サービス事業（児童発達支援、放課後等デイサービス等） □12 相談系サービス事業（計画相談支援、障がい児相談支援等） □13 その他の事業（　　） ●児童福祉や子育て支援に関する事業 □14 幼稚園 □15 認定こども園、保育園、地域子育て支援センター等 □16 その他の事業（　　）

Ⅱ 地域で福祉活動を推進させるための取組について、伺います

2－1 どのような団体・事業所と交流したり、協力関係にありますか。
【あてはまるもの全てに☑】

□1 町内会・自治会
□2 シニア（老人）クラブ
□3 女性団体
□4 子ども会
□5 ボランティア団体
□6 ＮＰＯ法人
□7 商店会・商店街
□8 企業
□9 高齢者や介護に関する事業所
□10 障がい者（児）に関する事業所
□11 児童や子育て支援に関する事業所
□12 医療施設
□13 社会福祉協議会
□14 地区社会福祉協議会
□15 地区民生委員・児童委員協議会
□16 保護者会・ＰＴＡ
□17 小中学校・高校・大学・専門学校
□18 公民館
□19 その他（　　）

→ **2－1－1** へ

□20 他の団体・事業所と交流しておらず、協力関係にない → **2－2** へ

２－１－１　**２－１**　で「１～19」を☑した方

貴団体・事業所からみて、交流、協力関係にある団体等が福祉活動を行う上で、支障となっていると思われることは何ですか。【あてはまるもの全てに☑】

□１　活動のマンネリ化
□２　新しいメンバーが入らない
□３　メンバーの高齢化
□４　リーダー（後継者）が育たない
□５　活動を情報発信する場や機会が乏しい
□６　住民のニーズに合った活動ができていない
□７　支援を必要とする人の情報が得にくい
□８　他の団体と交流する機会が乏しい
□９　活動の場所（拠点）の確保が難しい
□10　活動資金が足りない
□11　活動の充実に向けた研修等の機会がない
□12　そのほか（　　）
□13　特に支障となっていると思うことはない

２－２　へ

２－２　貴団体・事業所として、地域住民が参加できるイベントや事業を開催・実施するなど、地域住民との交流を図っていますか。【☑は１つまで】

□１　積極的に交流している
□２　やや交流している　　**２－２－１**　へ
□３　あまり交流していない
□４　交流していない　　**２－２－２**　へ

２－２－１　**２－２**　で「１・２」を☑した方

どのようなイベントや事業、交流をしていますか。【あてはまるもの全てに☑】

□１　ボランティア活動の受け入れ
□２　事業所の夏祭りなどイベントの開催
□３　事業所の防災訓練
□４　事業所の研修や学習活動
□５　事業所の情報発信
□６　事業所の利用者への外出時の支援
□７　そのほか（　　）

２－３　へ

２－２－２　　**２－２**　で「３・４」を☑した方

どのような理由があって交流していませんか。【あてはまるもの全てに☑】

□１　職員体制に余裕がない
□２　職員の理解が得にくい
□３　財政的な余裕がない
□４　情報がない、地域のニーズがわからない
□５　そのほか（　　）
□６　特にない

２－３　へ

２－３　貴団体・事業所として、地域や地域住民が行っているイベントや事業、活動に参加・協力していますか。【☑は１つまで】

□１　積極的に参加・協力している
□２　やや参加・協力している　　**２－３－１**　へ
□３　あまり参加・協力していない
□４　参加・協力していない　　**２－３－２**　へ

２－３－１　　２－３　で「１・２」を☑した方

参加・協力しているのは、どのようなイベントや事業、活動ですか。

【あてはまるもの全てに☑】

□１　ボランティア活動
□２　夏祭りなどのイベント
□３　地域防災訓練や災害時の支援
□４　地域の防犯活動
□５　地域での研修や学習活動
□６　地域の情報発信
□７　通院や買い物の手助け（送迎等）
□８　高齢者や子ども等の見守りや声かけ
□９　活動場所や機材、用具の提供
□10　そのほか（　　）

２－４　へ

２－３－２　２－３ で「３・４」を☑した方

どのような理由があって、参加・協力していませんか。

【あてはまるもの全てに☑】

□１ 職員体制に余裕がない
□２ 職員の理解が得にくい
□３ 財政的な余裕がない
□４ 情報がない、地域のニーズがわからない
□５ そのほか（　　）
□６ 特にない

２－４ へ

２－４　貴団体・事業所の職員に対して、地域や地域住民が行っているイベントや事業、活動への参加・協力を奨励していますか。【☑は１つまで】

□１ 積極的に奨励している
□２ 多少奨励している
□３ あまり奨励していない
□４ 奨励していない

２－５　地域の抱えている課題や住民のニーズを把握していますか。

【☑は１つまで】

□１ おおいに把握している
□２ 把握している
□３ あまり把握していない
□４ 把握していない
□５ 把握する方法がわからない
□６ 把握する必要を感じていない

2－6 地域の抱えている課題や住民のニーズを踏まえ、また把握していない場合でも、貴団体・事業所として、地域の福祉活動において、どのような役割を担うことができますか。【あてはまるもの全てに☑】

□１ 地域住民が交流する場所や機会の提供	□７ ボランティア活動への参加
□２ 高齢者等の見守りや機会の提供	□８ 地域の情報発信
□３ 地域の防犯	□９ 関係機関との連携・情報共有
□４ 住民の相談窓口	□10 そのほか（　　）
□５ 災害時の支援	□11 特にない
□６ 通院や買い物の手助け	

Ⅲ 今後の活動意向・要望について、伺います

3－1 今後、地域で福祉活動を実施する場合、連携したい団体や機関（現在連携中で、継続したい団体や機関を含む）はありますか。

【あてはまるもの全てに☑】

□１ 町内会・自治会	□11 児童や子育て支援に関する事業所
□２ シニア（老人）クラブ	□12 医療施設
□３ 女性団体	□13 社会福祉協議会
□４ 子ども会	□14 地区社会福祉協議会
□５ ボランティア団体	□15 地区民生委員・児童委員協議会
□６ ＮＰＯ法人	□16 保護者会・ＰＴＡ
□７ 商店会・商店街	□17 小中学校・高校・大学・専門学校
□８ 企業	□18 公民館
□９ 高齢者や介護に関する事業所	□19 その他（
□10 障がい者（児）に関する事業所	□20 特にない

３－２ 今後、住民同士や様々な主体（住民・事業者・ボランティア・NPO・行政など）が連携・協力して、地域での福祉活動をさらに活性化させるために、どのような取組が必要だと思いますか。【☑は３つまで】

- □１ 隣近所の住民同士の普段からの付き合い・交流
- □２ 高齢者や子どもなど地域の見守りが必要な方への日常的な声かけ
- □３ 地域の伝統的な行事や特徴的な取組を通じた住民とのつながりの拡充
- □４ 福祉に関する情報提供体制の充実
- □５ 地域で活動するリーダーや福祉活動に携わる人の育成
- □６ 地域で活動している人たちの連携づくり
- □７ 同じような問題で困っている人・関係者同士の交流
- □８ 地域の活動の積極的な情報提供と参加の呼びかけ
- □９ 地域の活動や福祉活動の相談、支援の仕組みの充実
- □10 誰もが集まれる身近な場所づくり
- □11 地域の福祉活動（ボランティア活動を含む）の拠点となる場所の拡充
- □12 地域における福祉活動の活動費、運営費などの資金確保
- □13 学校教育や社会教育での福祉教育の充実
- □14 個人の趣味や活動を活かせる場づくり
- □15 成年後見制度等の権利擁護制度の利用促進
- □16 多種多様な人を受け入れる社会づくり
- □17 その他（　　）
- □18 特にない

３－３ 地域での福祉活動には、様々な主体（住民・事業者・ボランティア・NPO・行政など）が協力・協働していくことが求められていますが、貴団体・事業所の取組として、今後どのような活動を進めたいと思いますか。

【☑は３つまで】

- □１ 地域の団体・事業所と連携して、活動の場を広げる
- □２ 団体・事業所が持っている活動のノウハウを地域の住民や他の団体に提供する
- □３ 行政が実施している事業を受託する
- □４ 他の団体・事業所との接点・交流の機会を設ける
- □５ ボランティアを積極的に受け入れる
- □６ その他（　　）
- □７ 協力・協働して活動する必要性を感じない

3－4 今後、八戸市が地域福祉の推進のために取り組む施策として、次のどれを優先し、充実させる必要があると思いますか。【☑は3つまで】

□１ 活動を市民に知らせるための広報や情報提供
□２ 設備や機材の提供などの物的な支援
□３ 活動についての相談や関係者の調整などを行う人的な支援
□４ 活動に携わっている人材の研修・指導、新たな活動の担い手の養成などの人材育成
□５ 活動の拠点や機会などの提供・あっせん
□６ 活動している団体・事業所同士、団体・事業所と地域、団体・事業所と住民が交流できる場の提供
□７ その他（ ）
□８ 特にない

3－5 今後、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし、誰一人取り残さない地域づくりを進めるために、ご意見・ご要望がありましたら自由にご記入ください。（自由記述）

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

第５期八戸市地域福祉計画の策定に係る
団体・事業所アンケート調査
〒031-8686　八戸市内丸一丁目１番１号
TEL　0178-43-9258　　FAX 0178-47-0746
E-mail fukushiseisaku@city.hachinohe.aomori.jp
令和８年３月　八戸市　福祉部　福祉政策課　発行

【受託者：八戸学院地域連携研究センター】